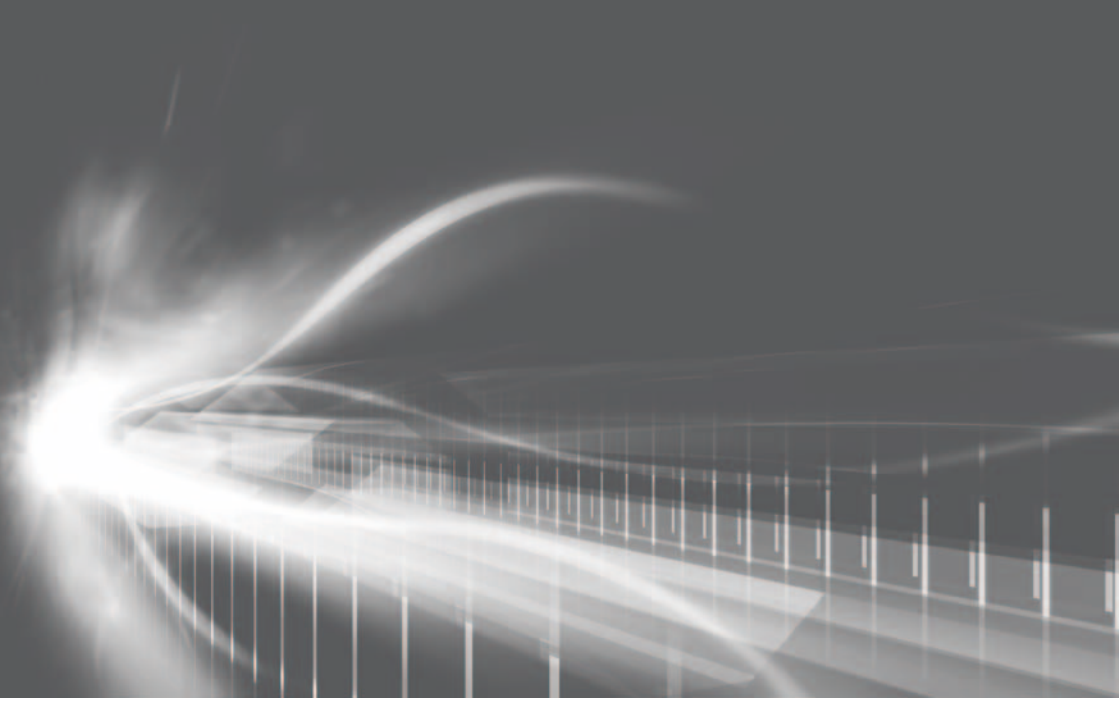


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

VOXY

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 33
お子さまの安全のために 41
子供専用シート 42
チャイルドシートの取り付け 51
排気ガスに対する注意 58

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 59

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 62
計器類 66
マルチインフォメーションディスプレイ 69
燃費画面／ ESPO 画面 76

3 各部の操作

3-1. キー
キー 80

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 85
スライドドア 90
バックドア 102
スマートエントリー＆スタートシステム 107

3-3. シートの調整
フロントシート 112
セカンドシート 113
サードシート 117
ヘッドレスト 118
シートアレンジ 121

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 128
インナーミラー 130
ドアミラー 131

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 135
ツインムーンルーフ 139

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....144
荷物を積むときの注意.....153

4-2. 運転のしかた
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）.....154
エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）.....157
オートマチックトランスミッション.....163
方向指示レバー.....167
パーキングブレーキ.....168

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ.....169
LED イルミネーションビーム.....172
フォグランプスイッチ.....173
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....174
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....177

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方.....179

4-5. Toyota Safety Sense C
Toyota Safety Sense C....182
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....187
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）...200
オートマチックハイビーム....205
先行車発進告知機能.....209

4-6. 運転支援装置について
Toyota Stop & Start System（SMART STOP）..... 211
クルーズコントロール..... 217
運転を補助する装置..... 220

4-7. 運転のアドバイス
寒冷時の運転..... 227

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
フロントエアコン..... 232
リヤエアコン（リヤエアコン装着車）..... 239
リヤクーラー（リヤクーラー装着車）..... 243

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧..... 246
・インテリアランプ..... 247
・パーソナルランプ..... 247
・インテリアランプ（中央／うしろ）..... 247

5-3. 収納装備
収納装備一覧..... 249
・グローブボックス..... 250
・カップホルダー／ボトルホルダー..... 250
・小物入れ..... 253
・助手席シートバックティッシュポケット..... 254
ラゲージルーム内装備..... 255

5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 257
・サンバイザー.....257
・バニティミラー.....257
・時計 257
・アクセサリーソケット 258
・アームレスト.....259
・買い物フック.....260
・アシストグリップ.....261
・後席用
サンシェード.....262
・ステアリングスイッチ 262

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....264
内装の手入れ.....268
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.....271
ガレージジャッキ 273
ウォッシャー液の補充 274
タイヤについて.....276
タイヤ空気圧について 280
エアコンフィルターの交換....282
キーの電池交換.....284
ヒューズの点検・交換 287
電球（バルブ）の交換 290

7 万一の場合には

7-1. まず初めに
故障したときは 304
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 305
発炎筒 306
車両を緊急停止するには..... 308
7-2. 緊急時の対処法
けん引について 310
警告灯がついたときは 317
警告メッセージが表示
されたときは 321
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）..... 337
パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）..... 348
エンジンが
かからないときは..... 361
電子キーが正常に働かない
ときは（スマート
エントリー＆スタート
システム装着車）..... 363
バッテリーが
あがったときは 365
オーバーヒートしたときは... 368
スタックしたときは 371

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....374
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....382
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....387

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....390
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....394
アルファベット順さくいん.....396
五十音順さくいん.....398

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のフロントドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

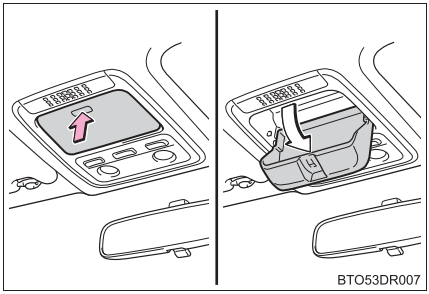
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

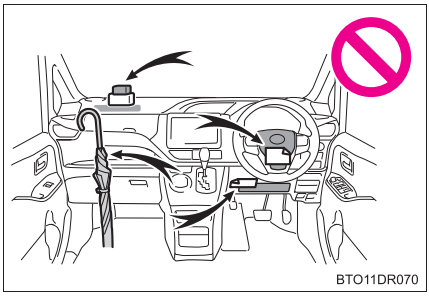
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

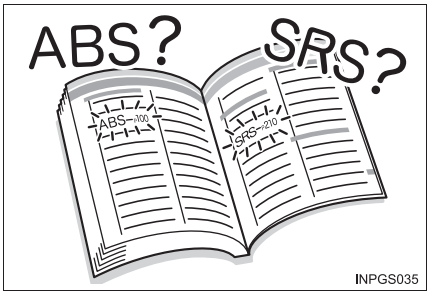


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

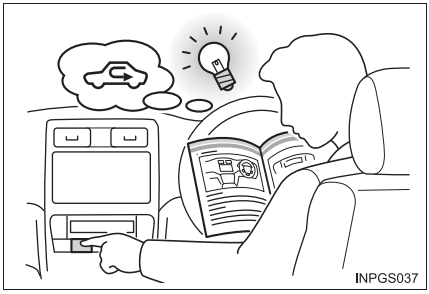
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....398
・アルファベット順
さくいん.....396



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

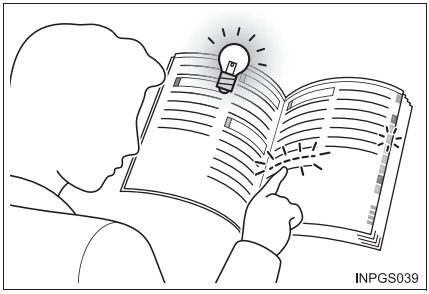


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....390
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....394

■ タイトルから探す

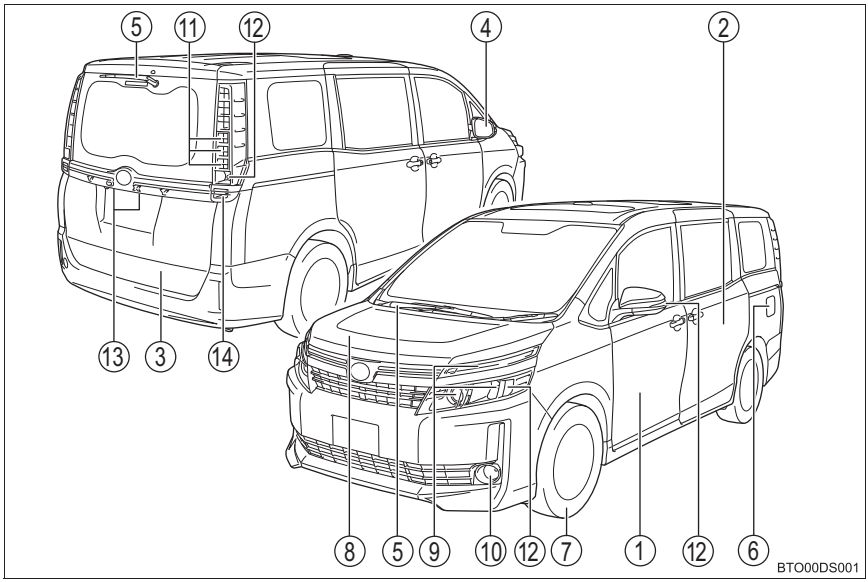
・目次.....2



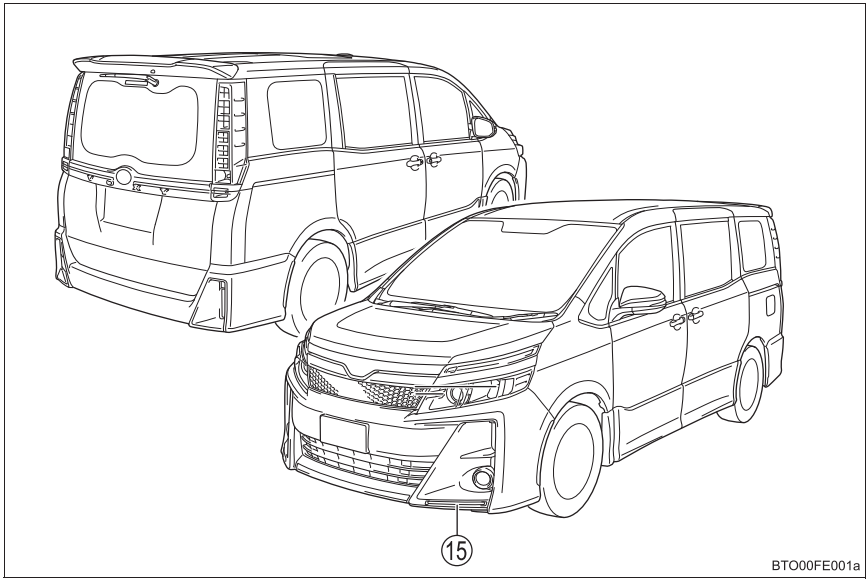
イラスト目次

■ 外観

▶ G's を除く



▶ G's



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。（→ P. 290）

① **フロントドア . . . . . P. 85**
施錠／解錠 . . . . . P. 85, 87
フロントドアガラスの開閉 . . . . . P. 135
キーでの施錠／解錠 . . . . . P. 86, 363
警告灯. . . . . P. 62, 319, 326
警告メッセージ. 326

② **スライドドア . . . . . P. 90**
施錠／解錠 . . . . . P. 90
リヤドアガラスの開閉. . . . . P. 135
車内から開ける. . . . . P. 92
車外から開ける. . . . . P. 91
警告灯. . . . . P. 62, 319, 326
警告メッセージ. 326

③ **バックドア . . . . . P. 102**
施錠／解錠 . . . . . P. 102
車外から開ける. . . . . P. 102
警告灯. . . . . P. 62, 319, 326
警告メッセージ. 326

④ **ドアミラー . . . . . P. 131**
鏡面の角度調整. . . . . P. 131
ミラーの格納 . . . . . P. 131
曇りを取る（ミラーヒーター★） . . . . . P. 132

⑤ **ワイパー. . . . . P. 174, 177**
冬季の注意 . . . . . P. 227
凍結防止（ウインドシールドデアイサー★）. . . . . P. 234

⑥ **給油口. . . . . P. 179**
給油方法. . . . . P. 179
燃料の種類・燃料タンク容量. . . . . P. 179, 374

⑦ **タイヤ. . . . . P. 276**
サイズ・空気圧. . . . . P. 379
冬用タイヤ・タイヤチェーン. . . . . P. 227
点検・ローテーション. . . . . P. 276
パンク時の対処. . . . . P. 337, 348

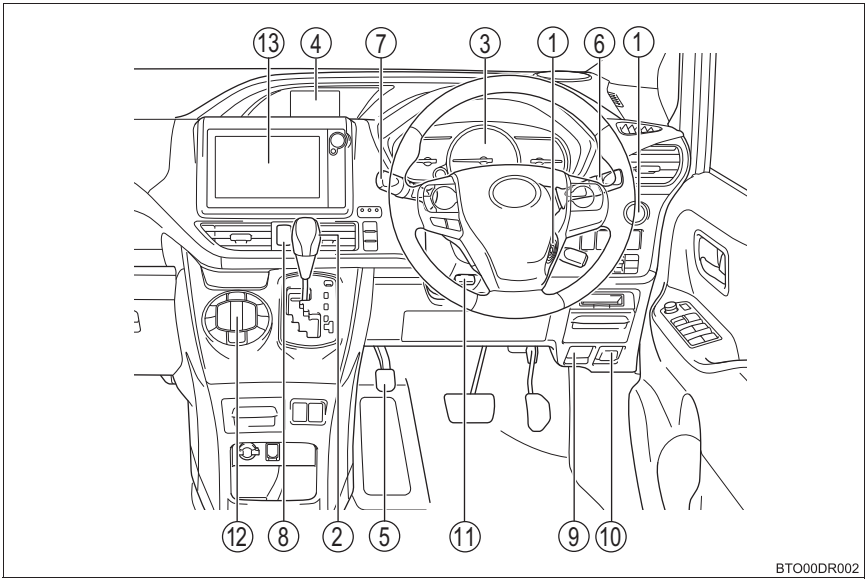
⑧ **ボンネット . . . . . P. 271**
開け方. . . . . P. 271
エンジンオイル. . . . . P. 375
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 368

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 290, ワット数：P. 380）

⑨ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 169
⑩ **フロントフォグランプ★** .....P. 173
⑪ **尾灯** .....P. 169
⑫ **方向指示灯** .....P. 167
⑬ **番号灯**.....P. 169
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする .....P. 163
⑮ **LED イルミネーションビーム★**.....P. 172

■ インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ** .....P. 154, 157
エンジンの始動・モード切りかえ★ .....P. 154, 157
エンジンの緊急停止 .....P. 308
エンジンが始動できないときの対処.....P. 361
警告メッセージ.....P. 332
② **シフトレバー** .....P. 163
シフトポジションの切りかえ.....P. 163

けん引時の注意 . . . . . P. 310
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 165

③ **メーター . . . . . P. 66**
見方 . . . . . P. 66
明るさの調整 . . . . . P. 67
警告灯／表示灯 . . . . . P. 62
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 317

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 69**
表示内容 . . . . . P. 69
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 321, 332

⑤ **パーキングブレーキ . . . . . P. 168**
かける・解除する . . . . . P. 168
冬季の注意 . . . . . P. 228
警告ブザー／警告メッセージ . . . . . P. 317, 328

⑥ **方向指示レバー . . . . . P. 167**
ランプスイッチ . . . . . P. 169
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . . P. 169
フロントフォグランプ★ . . . . . P. 173
警告メッセージ★ . . . . . P. 326

⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . P. 174, 177**
使い方 . . . . . P. 174, 177
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 274

⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 305**

⑨ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 271**

⑩ **給油口オープナー . . . . . P. 179**

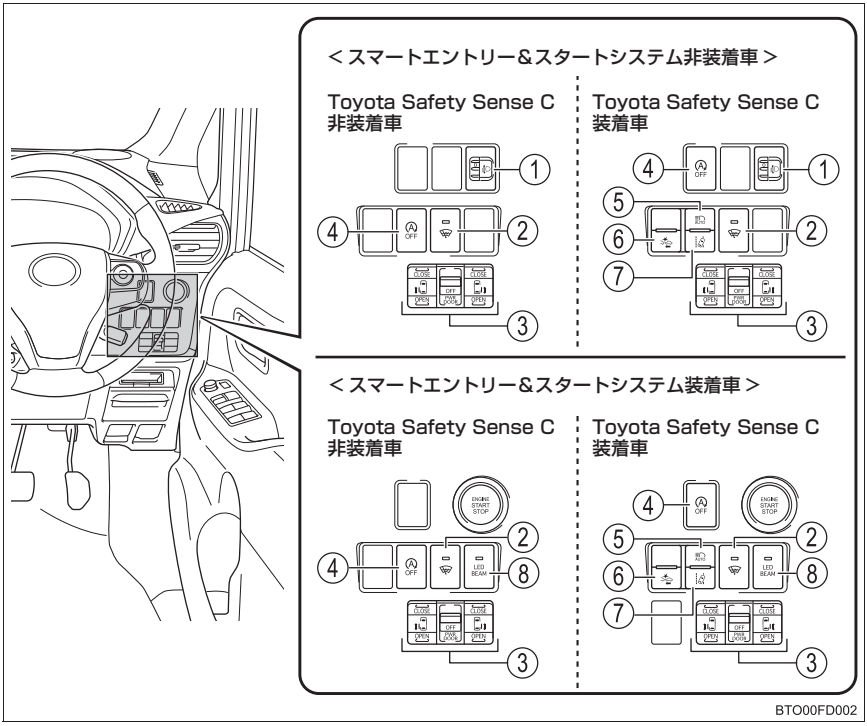
⑪ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 128**

⑫ **オートエアコン . . . . . P. 232, 239, 243**
操作方法 . . . . . P. 232, 239, 243
リヤウインドウガラスの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 234

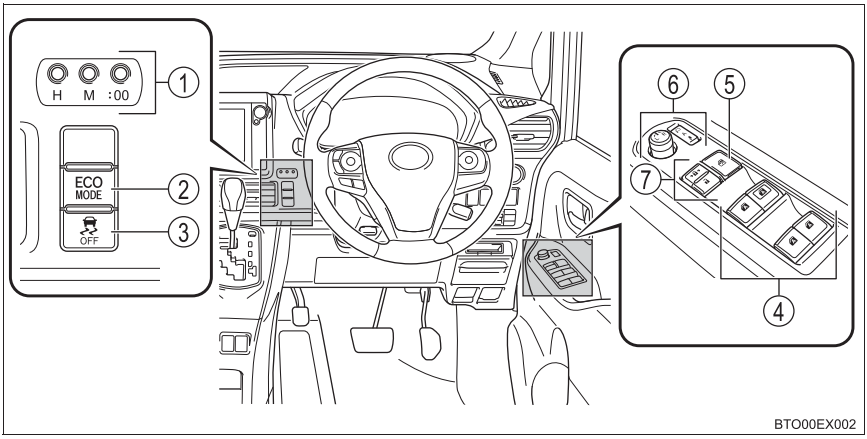
⑬ **ナビゲーションシステム★※**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

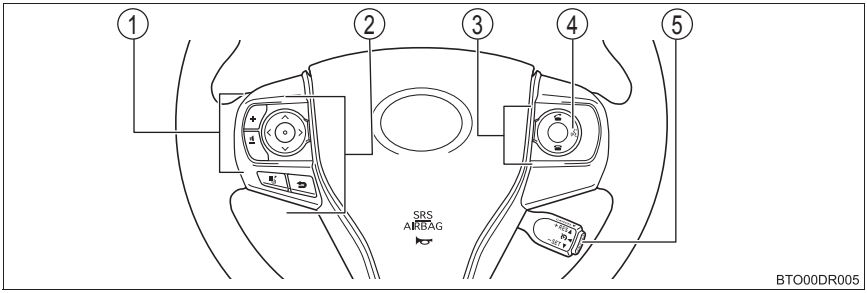
■ スイッチ類



① 手動光軸調整ダイヤル★ . . . . . .P. 170
② ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . .P. 234
③ パワースライドドアスイッチ★ . . . . . P. 92
④ Stop & Start キャンセルスイッチ★ . . . . . .P. 212
⑤ オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . .P. 205
⑥ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチ★ . . . . .P. 190
⑦ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ★. . . . . .P. 200
⑧ LED イルミネーションビームスイッチ★. . . . . .P. 172



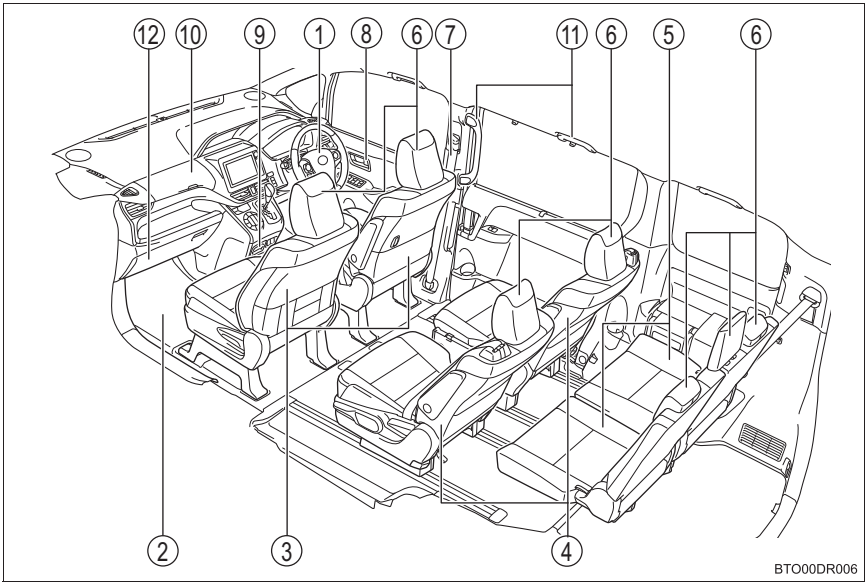
① 時刻調整スイッチ . . . . . .P. 257
② ECO MODE スイッチ . . . . . .P. 164
③ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 222
④ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 135
⑤ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 135
⑥ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 131
⑦ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 87



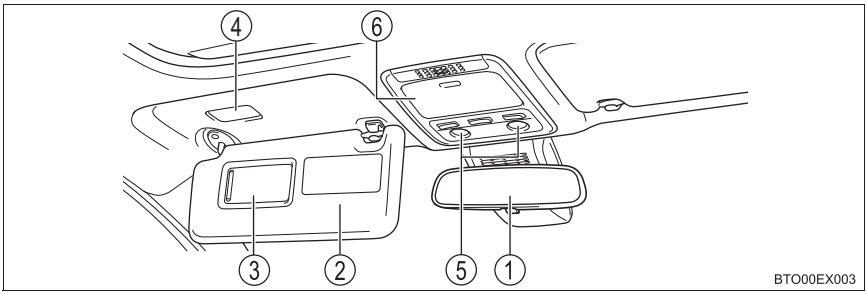
① オーディオ操作スイッチ . . . . . .P. 262
② マルチインフォメーションディスプレイ操作スイッチ . . . . . .P. 70
③ 電話スイッチ★※
④ トークスイッチ★※
⑤ クルーズコントロールスイッチ★. . . . . .P. 217

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



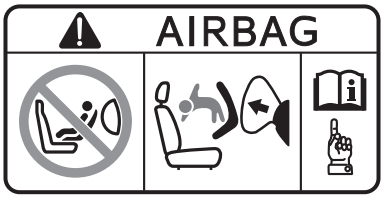
① SRS エアバッグ . . . . . P. 33
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 112
④ セカンドシート . . . . . P. 113
⑤ サードシート . . . . . P. 117
⑥ ヘッドレスト . . . . . P. 118
⑦ シートベルト . . . . . P. 26
⑧ ロックレバー . . . . . P. 87
⑨ カップホルダー . . . . . P. 250
⑩ 助手席アッパーボックス . . . . . P. 253
⑪ アシストグリップ★ . . . . . P. 261
⑫ グローブボックス . . . . . P. 250



① インナーミラー . . . . . P. 130
② サンバイザー※ . . . . . P. 257
③ バニティミラー . . . . . P. 257
④ バニティランプ★ . . . . . P. 257
⑤ パーソナルランプ . . . . . P. 247
⑥ 小物入れ . . . . . P. 253

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 57）



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....33
お子さまの安全のために.....41
子供専用シート.....42
チャイルドシートの取り付け.....51
排気ガスに対する注意.....58
1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム.....59

運転する前に

点検整備

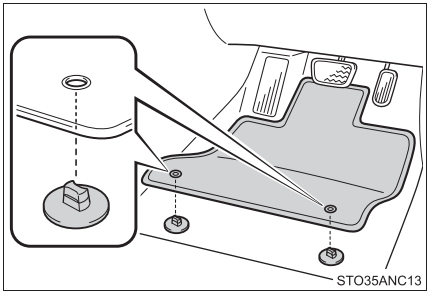
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

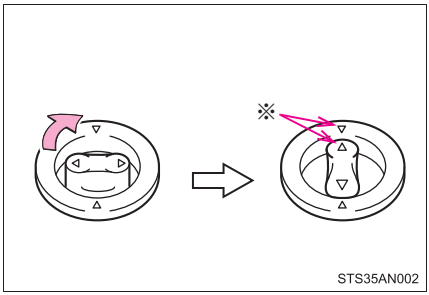
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

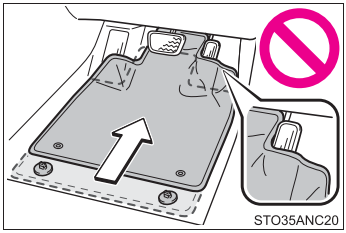
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

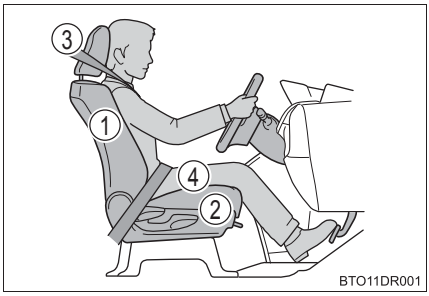
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 112）

② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 112）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 118）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 130, 131）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

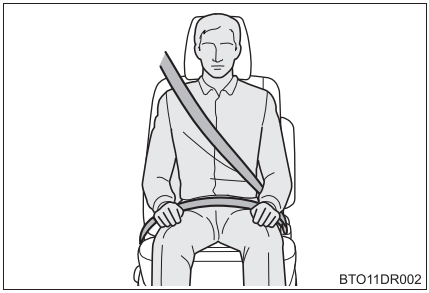
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

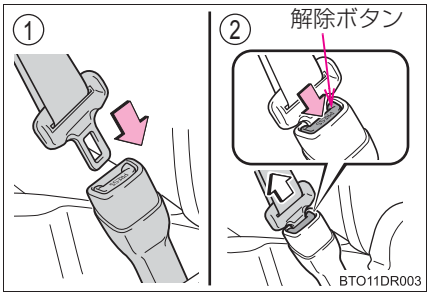
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

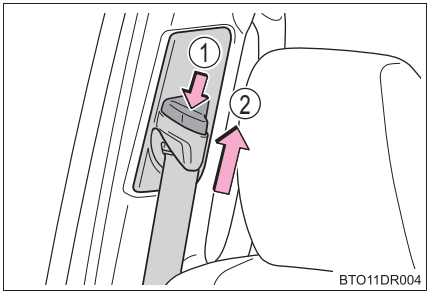


シートベルトの高さ調整（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

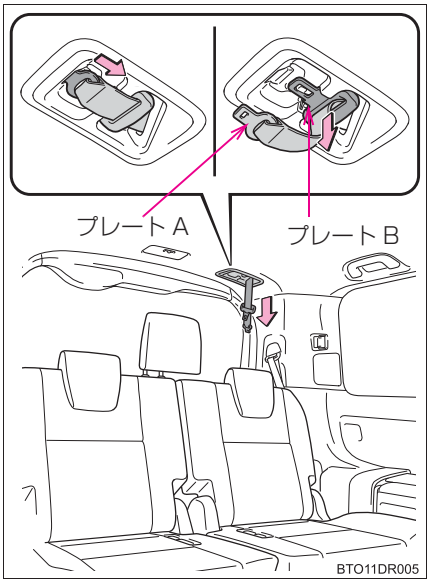
② アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



着け方（サードシート中央席）

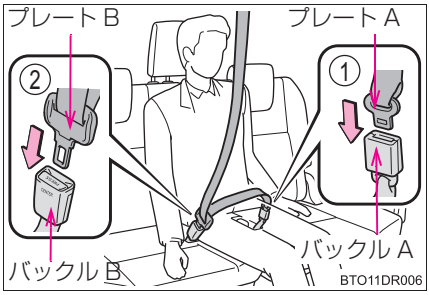
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

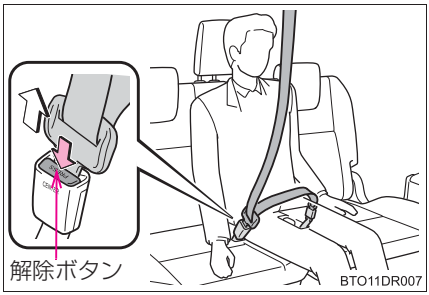
① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B



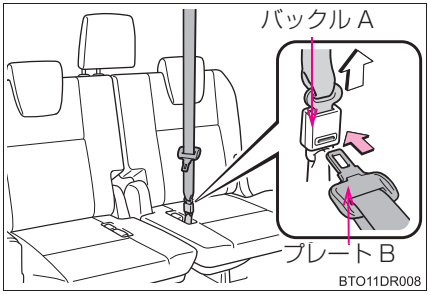
はずし方・格納の仕方（サードシート中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



2 キー、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

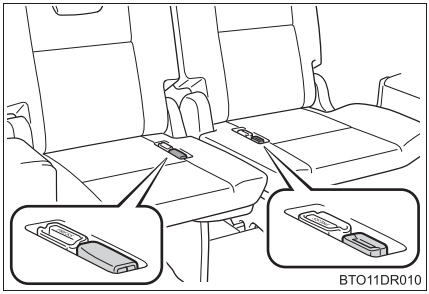
シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

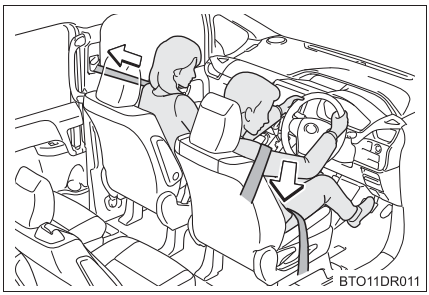
4 バックルをシートクッションの穴に格納してください



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方、側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方、側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

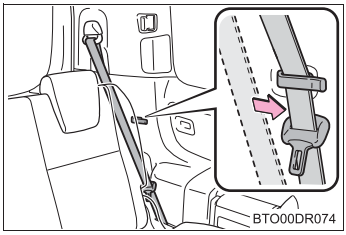
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■サードシート左右席のシートベルトについて

シートベルトを使用しないときは、シートベルトクリップに挟み、プレートをクリップの下にしてください。

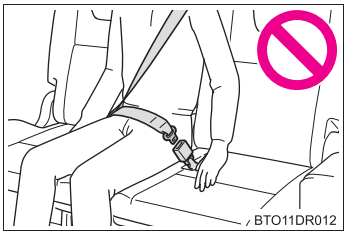


警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

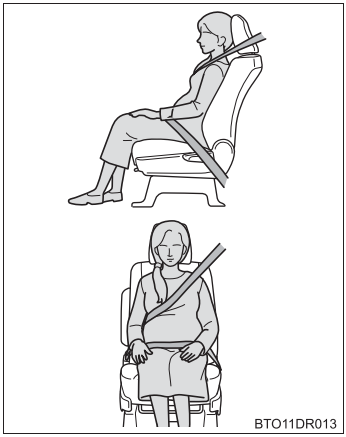
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- サードシート左右席シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないこと
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する



■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■**お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて（フロント席）**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

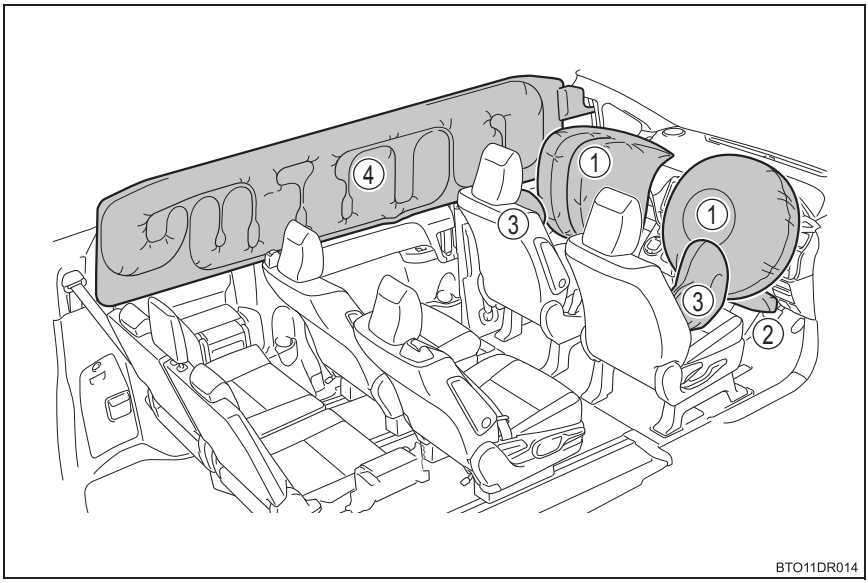
●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② 運転席 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ★
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ★
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

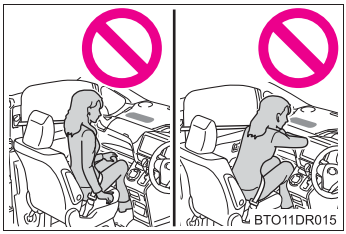
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

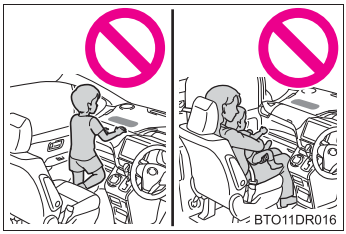
●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 42）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

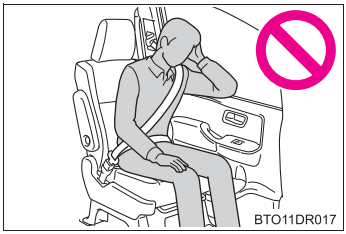


●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



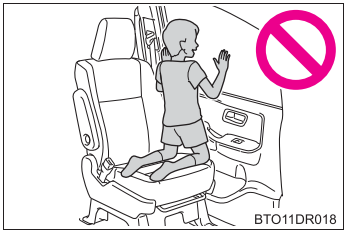
●SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



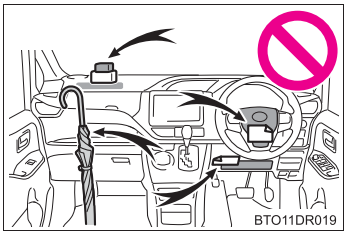
警告

■SRS エアバッグについて

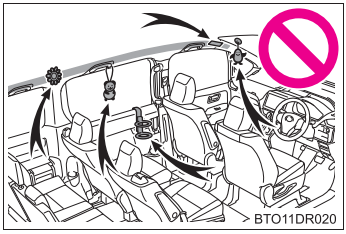
●SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席・リヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード･助手席アッパーボックスのフタの上･ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→ P. 354）



警告

■SRS エアバッグについて

●運転席SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSサイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ非装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRSサイドエアバッグ＆SRSカーテンシールドエアバッグ装着車：SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー（フロント席）のみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

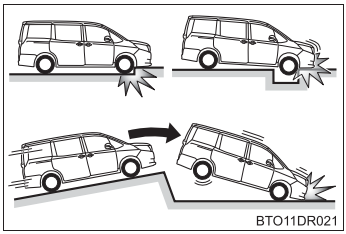
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



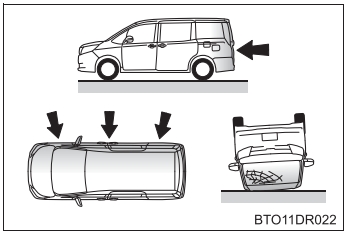
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

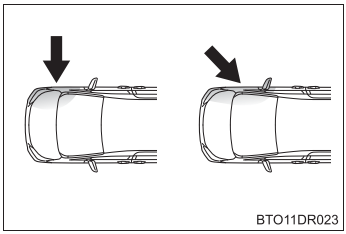


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

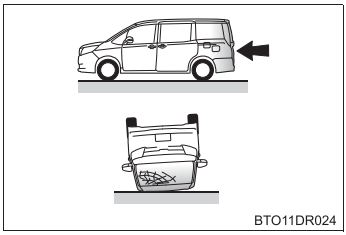
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●後方からの衝突

●横転

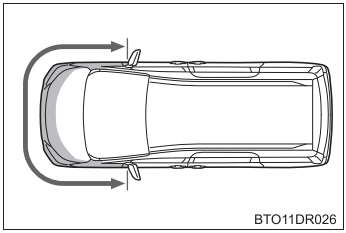


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

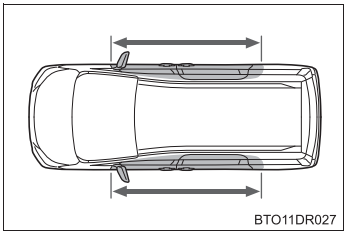
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

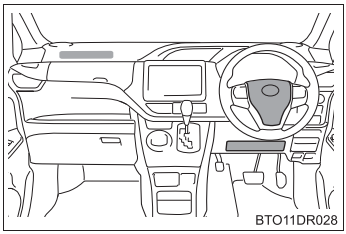
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11DR026

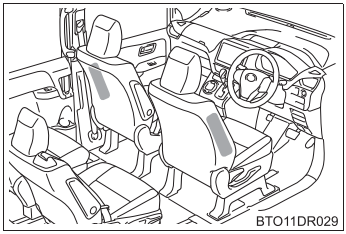
●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


BTO11DR027

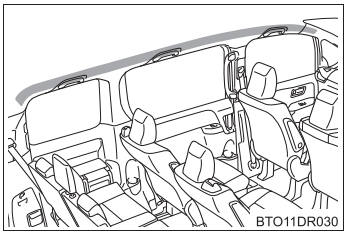
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11DR028

●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11DR029

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


BTO11DR030

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 93）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 135）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ツインムーンルーフ★・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→ P. 51）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0＋：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

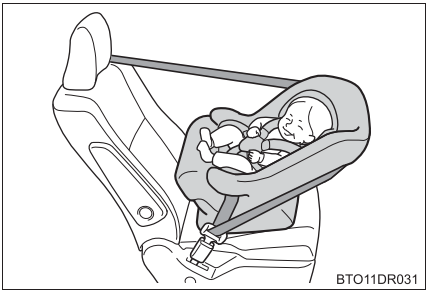
※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

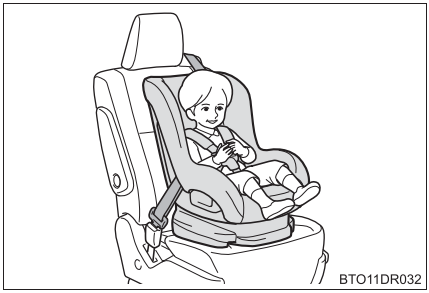
子供専用シートの種類

▶ ベビーシート



ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当

▶ チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ 7人乗り車

質量グループ	着席位置（または他の位置）				
	フロントシート	セカンドシート		サードシート	
	助手席	右席 左席	左席（サイドリフトアップシート）	右席 左席	中央席
0（10kgまで）	×	U※1	×	U※1	×
0+（13kgまで）	×	U※1	×	U※1	×
Ⅰ（9～18kg）	うしろ向き × 前向き UF※1、2	U※1、2	U※1、2	U※1、2	×
Ⅱ（15～25kg）	UF※1、2	U※1、2	U※1、2	U※1、2	×
Ⅲ（22～36kg）	UF※1、2	U※1、2	U※1、2	U※1、2	×

▶ 8人乗り車

質量グループ	着席位置（または他の位置）			
	フロントシート	セカンドシート	サードシート	
	助手席	右席 左席 中央席	右席 左席	中央席
0（10kgまで）	×	U※1	U※1	×
0+（13kgまで）	×	U※1	U※1	×
Ⅰ（9～18kg）	うしろ向き × 前向き UF※1、2	U※1、2	U※1、2	×
Ⅱ（15～25kg）	UF※1、2	U※1、2	U※1、2	×
Ⅲ（22～36kg）	UF※1、2	U※1、2	U※1、2	×

● 上記に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

● 8 人乗り車で、セカンドシート中央席に子供専用シートを取り付けた場合は、セカンドシート右側に乗車しないでください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置	
			セカンドシート	
			右席 左席	左席（サイドリフトアップシート）
キャリコット	F	ISO/L1	×	×
	G	ISO/L2	×	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL ※2
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL ※2
	D	ISO/R2	IL	IL ※2
	C	ISO/R3	IL	IL ※2
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×	×
	C	ISO/R3	×	×
	B	ISO/F2	IUF、IL ※1	IUF、IL ※1、2
	B1	ISO/F2X	IUF、IL ※1	IUF、IL ※1、2
	A	ISO/F3	IUF、IL ※1	IUF、IL ※1、2

● 上記に記入する文字の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 背もたれを後方に倒してから子供専用シートを取り付け、子供専用シートが安定する位置まで背もたれをもどしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
Ⅰ（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 44）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 46）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

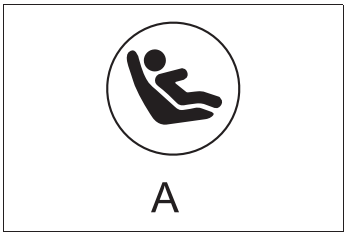
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

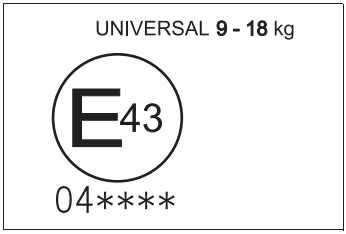
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



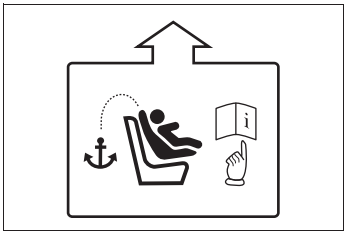
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→ P. 51）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

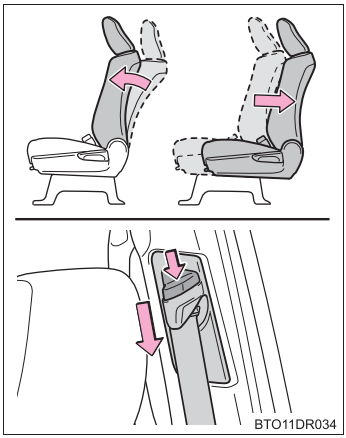
■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●シートをいちばんうしろにさげる

●背もたれを直立状態（一度背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こす）にする

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる



■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

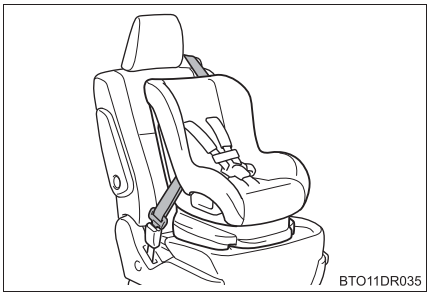
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、サードシートに取り付けてください。

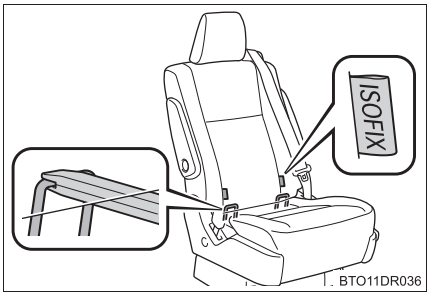
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 52）



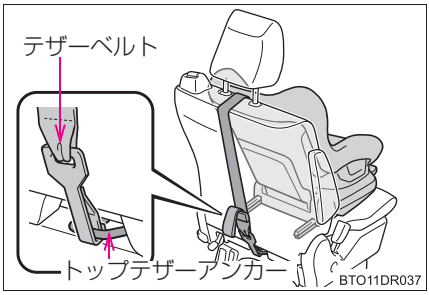
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 53）

セカンドシート左右席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



トップテザーアンカー（→ P. 53）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシート左右席のそれぞれの座席に装備されています。



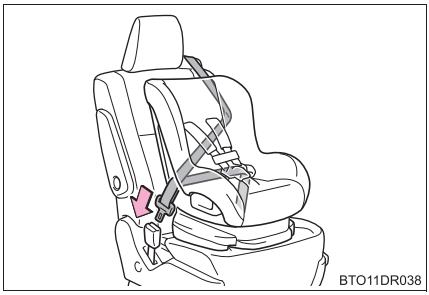
シートベルトで固定する

1 背もたれを一度前に倒し、一段目の固定位置まで起こす

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P. 118）

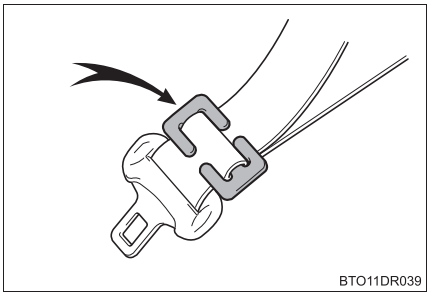
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

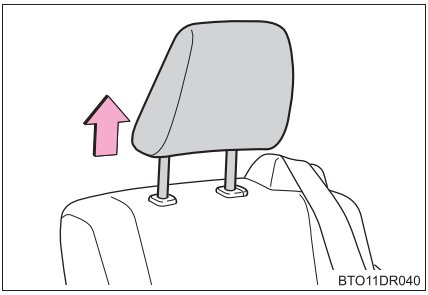


取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

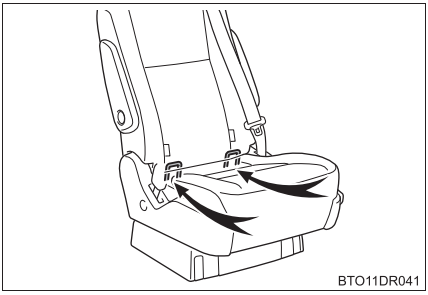
1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる（→ P. 118）

チャイルドシートがヘッドレストにあたる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。



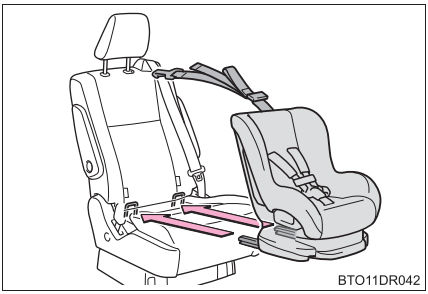
2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



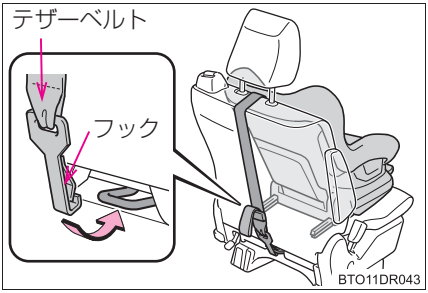
3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

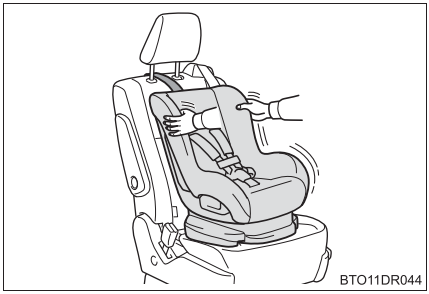


4 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する



警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

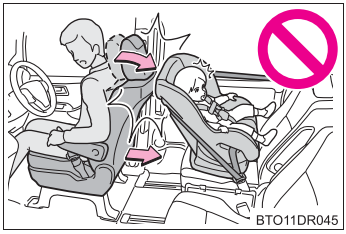
●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

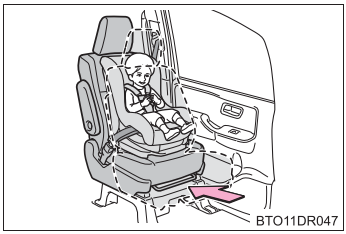
警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

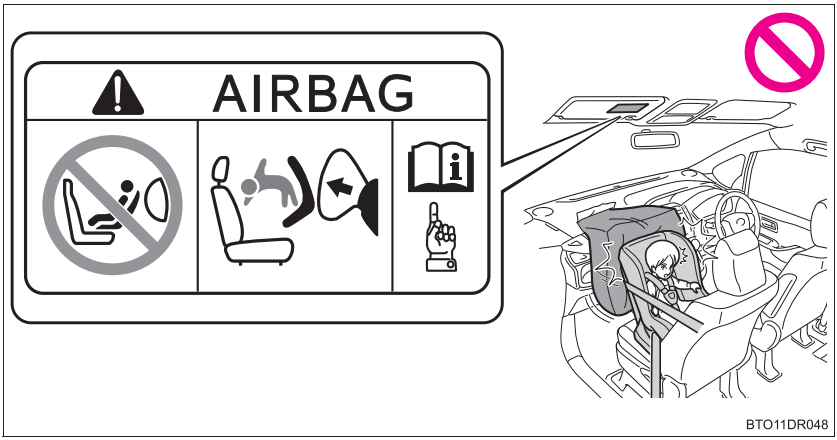
●シートの前後位置を調整するときは、手や足などを挟まないようにしてください。

●セカンドシート中央席にチャイルドシートを取り付けたときはセカンドシート右側席に座らないでください。シートベルトとチャイルドシートが干渉しシートベルトが正しく着用できず、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（8人乗り車）

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム★

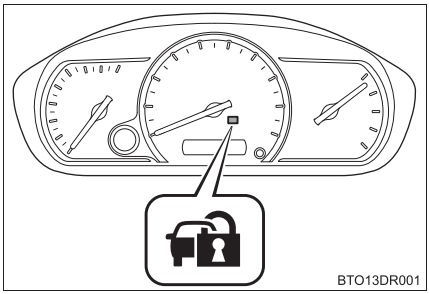
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティー表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティー表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

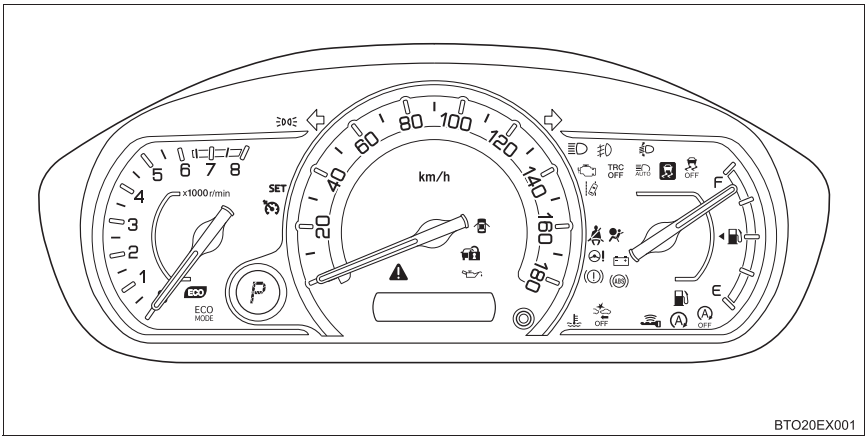
メーターの見方

2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....62
計器類.....66
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....69
燃費画面／ ESPO 画面.....76

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



※ グレードなどによりスピードメーターの形状は異なります。

警告灯

システム異常などを警告します。

※ ブレーキ警告灯（→ P. 317）

※ ヘッドランプオートレベリング警告灯★（→ P. 319）

※ 充電警告灯（→ P. 317）

※ Stop & Start キャンセル表示灯★（→ P. 319）（点滅）

※ 油圧警告灯（→ P. 317）

半ドア警告灯（→ P. 319）

※ エンジン警告灯（→ P. 318）

※ スリップ表示灯（→ P. 319）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 318）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 319）

※ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 318）

燃料残量警告灯（→ P. 319）

※ パワーステアリング警告灯（→ P. 318）
（赤色／黄色）

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★（→ P. 318）
（点滅）

※ 高水温警告灯（→ P. 317）
（赤色点灯または点滅）

※ マスターウォーニング（→ P. 319）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 167）

※ 3 低水温表示灯
（青色）

ハイビーム表示灯（→ P. 169）

※ 1、4 エコドライブインジケーターランプ（→ P. 73）

尾灯表示灯（→ P. 169）

ECO MODE 表示灯（→ P. 164）

フロントフォグランプ表示灯★（→ P. 173）

※ 1 Stop & Start 表示灯★（→ P. 211）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★（→ P. 200）

※1

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★（→ P. 190）

※1

VSC OFF 表示灯（→ P. 222）

※1

TRC OFF 表示灯（→ P. 222）

※1、2

スリップ表示灯（→ P. 221）

クルーズコントロール表示灯★（→ P. 217）

クルーズコントロールセット表示灯★（→ P. 217）

※1

Stop & Start キャンセル表示灯★（→ P. 212）

セキュリティー表示灯★（→ P. 59）

（緑色）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯★（→ P. 158）

オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 205）

シフトポジション表示灯（→ P. 163）

※5

低温表示灯★（→ P. 74）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システム作動時に点滅します。

※3 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

※4 非表示に設定した場合は、作動確認のための点灯はしません。

※5 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カスタマイズ機能

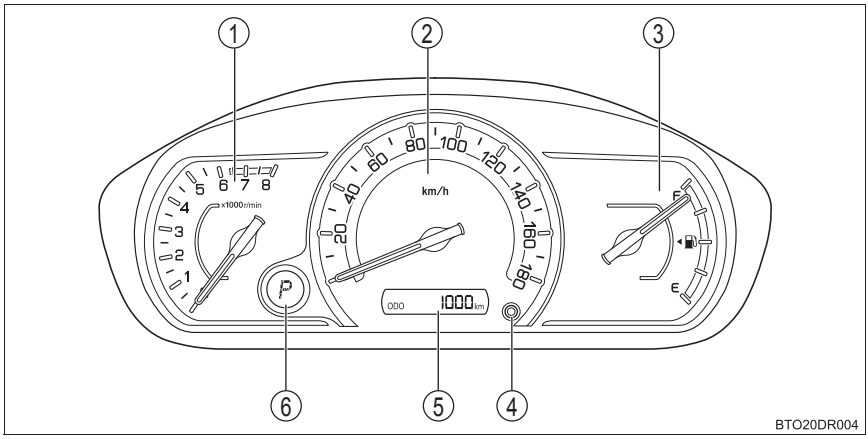
エコドライブインジケーターランプの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 71, 382）

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



※ グレードなどによりスピードメーターの形状は異なります。

① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

④ 表示切りかえボタン

→ P. 67

⑤ オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整画面

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整画面：
メーター照度の明るさを調整できます。

⑥ シフトポジション、シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。（→ P. 163）

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

① オドメーター

② トリップメーター A ※1

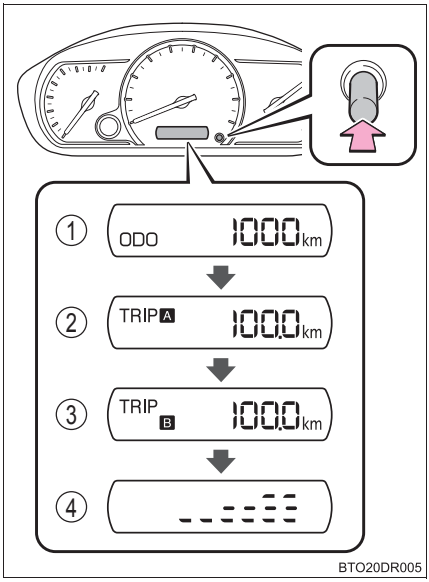
③ トリップメーター B ※1

④ メーター照度調整画面※2

※1 長押しで 0 にもどります。

※2 長押しで照度を調整できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさレベルを調整することができます。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 表示切り替えボタンを押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切り替える

3 エンジンスイッチを OFF にする

4 表示切り替えボタンを押したまま、エンジンスイッチを”ON”★または ON モード★にする。

5 そのまま約 5 秒間表示切り替えボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 317）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 368）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。

エコドライブインジケーター★

→ P. 73

エアコン

フロントエアコン、リヤエアコン★の温度・風量・吹き出し口の設定ができます。

オーディオ★

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

時計表示★

・3 種類のアナログ表示を選択できます。
・12 時間／ 24 時間表示を選択できます。
・“時”、“分” を調整できます。

LDA（レーンディパーチャーアラート）作動表示★

LDA（→ P. 200）の作動状況を表示します。

メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 321）

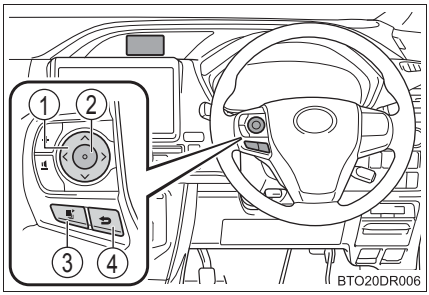
設定、操作ガイド★

・メーターの表示設定などを切りかえることができます。（→ P. 71）
・ステアリングスイッチの操作を説明します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① 選択 / ページ送り

② 決定 / 設定

③ 単押し：スイッチに登録した画面を表示する

未登録時はドライブインフォメーション画面を表示します。

長押し：表示中の画面をスイッチに登録する

登録画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが現れます。

④ ひとつ前の階層にもどる

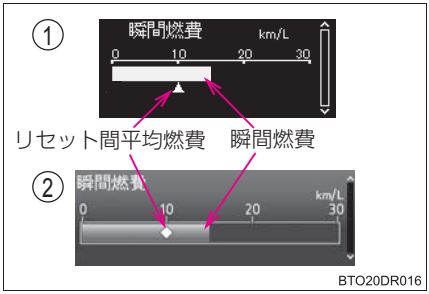
ドライブインフォメーション

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費とリセット間平均燃費を表示します。

① モノクロマルチインフォメーションディスプレイ

② カラーマルチインフォメーションディスプレイ



■ 航続可能距離

燃料残量による走行可能な距離（参考値）を表示します。

・運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

・燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。
この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 68）

■ リセット間平均燃費

リセット後の平均燃費（参考）を表示します。

リセットするには、決定／設定スイッチを長押しします。

■ **リセット間アイドリングストップ★**

ステアリングスイッチでリセットする間の通算アイドリングストップ時間を表示します。

■ **リセット間節約燃料★**

ステアリングスイッチでリセットする間の通算節約燃料（参考）を表示します。

■ **始動後アイドルストップ★**

エンジン始動後～エンジン停止までの総アイドルストップ時間を表示します。

■ **始動後節約燃料★**

エンジン始動後～エンジン停止までに節約できた燃料消費量（参考）を表示します。

設定

■ **言語**

表示される言語を選択することができます。

■ **単位**

燃費表示の単位を選択することができます。

■ **エコドライブインジケーターランプ**

エコドライブインジケーターランプの表示・非表示を選択することができます。

■ **割込表示★**

状況に応じて割り込み表示される項目の表示・非表示を選択することができます。

・Smart Stop アドバイス割込み表示
・Smart Stop 割込み表示
・着信割込み表示

■ **スイッチ設定**

スイッチにお好みの項目を登録する方法を表示します。

お好みの項目を登録しておくと、 スイッチを押したときに登録した項目を表示させることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **時計表示切替（12H ／ 24H）**

12 時間／ 24 時間表示を選択できます。★

■ **時刻調整**

“時”、“分”を調整できます。

時刻調整スイッチによる調整（→ P. 257）

■ **カラー★**

カーソル色を選択することができます。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、カーソル色を変更すると、ナビゲーション画面のテーマカラーも連動して変更されます。

■ **照度調整**

10 段階から選択できます。

■ **Smart Stop ★**

エアコン ON 時のアイドルストップの時間を調整できます。
Normal（普通）・Long（長め）から選択できます。

■ **先行車発進★**

次の先行車発進告知機能の設定を変更することができます。

● 告知設定
先行車発進告知機能の作動・非作動を選択することができます。
（→ P. 210）

● 告知タイミング
告知するタイミングを 3 段階から選択することができます。
（→ P. 210）

■ **LDA（レーンディパーチャーアラート）警報感度 ★**

LDA の警報感度を 2 段階から選択することができます。

■ **初期化**

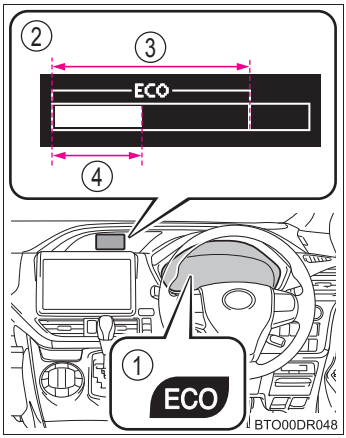
すべての設定項目を初期状態にもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケーター

▶モノクロマルチインフォメーションディスプレイ



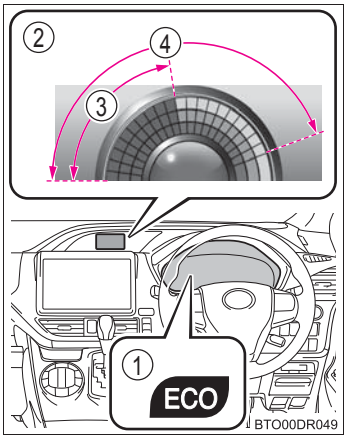
① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ エコ運転の範囲

④ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

▶カラーマルチインフォメーションディスプレイ



① エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側と半円球の色がかわります。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき、停車（車速が 0km/h）のとき

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

▶モノクロマルチインフォメーションディスプレイ

- 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温度表示が点滅し、そのあと点灯します。

▶カラーマルチインフォメーションディスプレイ

- 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温度表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

●平均燃費

●航続可能距離

●始動後節約燃料★

●始動後アイドルストップ★

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき（LDA ★設定を除く）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

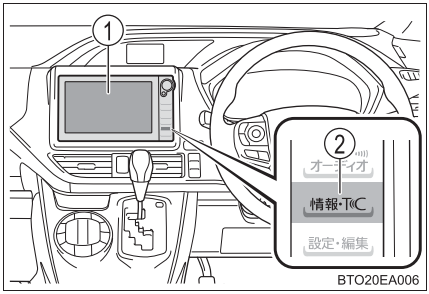
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃費画面★／ ESPO 画面★

燃費に関する情報をナビゲーション画面★に表示します。

① ナビゲーション画面
② 「情報・TC」ボタン



燃費画面の見方

1 画面外の「情報・TC」ボタンを押す

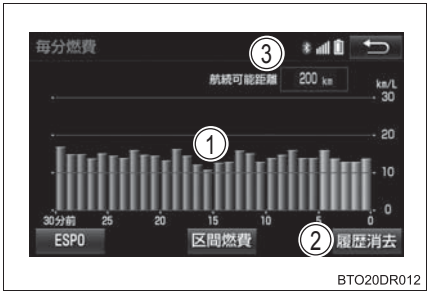
「オンライン」または「Apps」画面が表示されたときは、「情報」を選択してください。

2 「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費が表示されたときは、「毎分燃費」を選択する

① 過去 15 分間の 1 分間ごとの燃費（平均燃費）
② 履歴消去
③ 航続可能距離



平均燃費はエンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **区間燃費の見方**

毎分燃費が表示されたときは、「区間燃費」を選択する

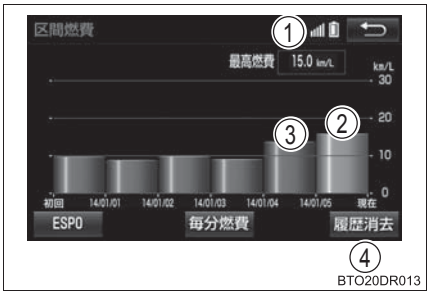
① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

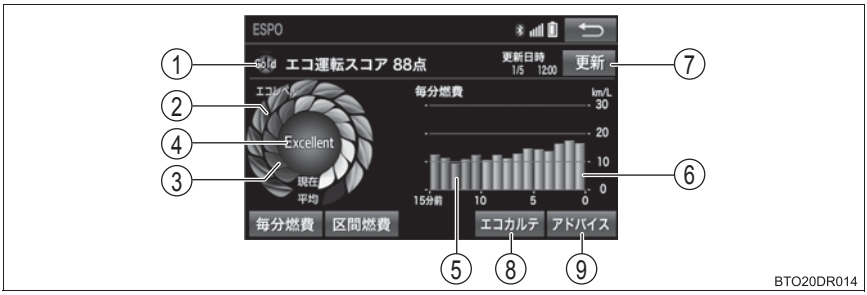
④ 履歴消去



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方



毎分燃費画面の「ESPO」を選択する

① ステータス／エコ運転スコア表示※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにエコ運転スコアやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※：T-Connect をご利用されているときに表示されます。

知識

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....80

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア.....85

スライドドア.....90

バックドア.....102

スマートエントリー&
スタートシステム.....107

3-3. シートの調整

フロントシート.....112

セカンドシート.....113

サードシート.....117

ヘッドレスト.....118

シートアレンジ.....121

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....128

インナーミラー.....130

ドアミラー.....131

3-5. ドアガラス・ムーンルーフ
の開閉

パワーウインドウ.....135

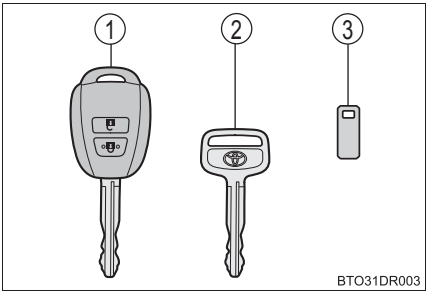
ツインムーンルーフ.....139

キー

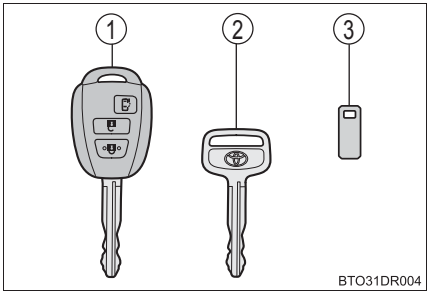
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

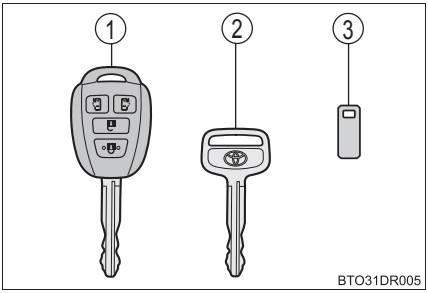
▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車（タイプ A）



▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車（タイプ B）



▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車（タイプ C）

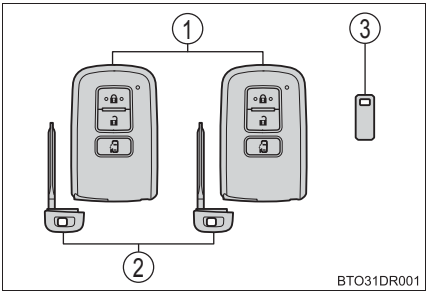


① キー（ワイヤレス機能装着）
・ワイヤレス機能の作動（→ P. 81）

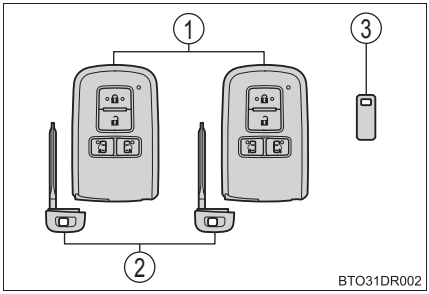
② キー（ワイヤレス機能非装着）

③ キーナンバープレート

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車（タイプ D）



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車（タイプ E）



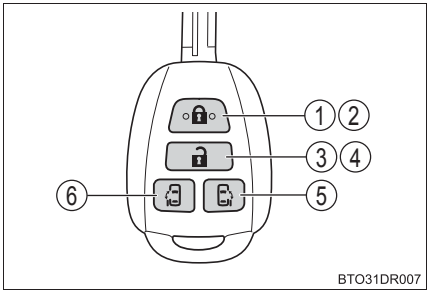
① 電子キー
・スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 107）
・ワイヤレス機能の作動 （→ P. 82）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



① ドアの施錠（→ P. 85）

② ドアガラスを閉める（長押し）※（→ P. 85）

③ ドアの解錠（→P. 85）

④ ドアガラスを開く（長押し）※（→ P. 85）

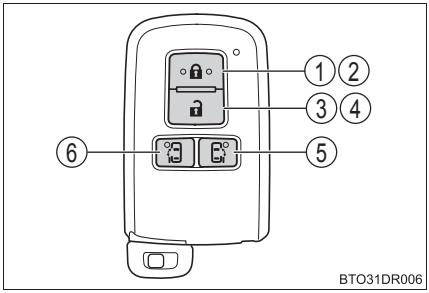
⑤ 運転席側パワースライドドア★を開ける（長押し）（→ P. 91）

⑥ 助手席側パワースライドドア★を開ける（長押し）（→ P. 91）

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 382）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① ドアの施錠（→P. 85）

② ドアガラスを閉める（長押し）※（→ P. 85）

③ ドアの解錠（→ P. 85）

④ ドアガラスを開く（長押し）※（→ P. 85）

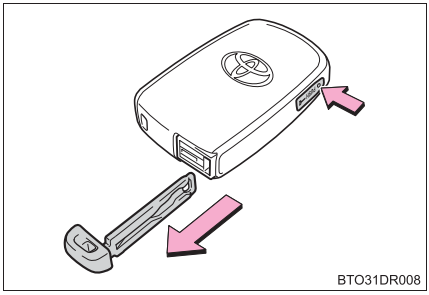
⑤ 運転席側パワースライドドア★を開ける（長押し）（→ P. 91）

⑥ 助手席側パワースライドドアを開ける（長押し）（→ P. 91）

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 382）

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 363）

知識

■キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 334）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 284

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー・電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- ●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。

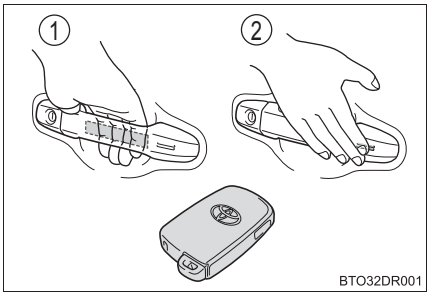
① ハンドルを使って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

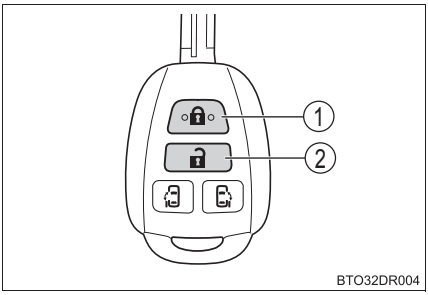
② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

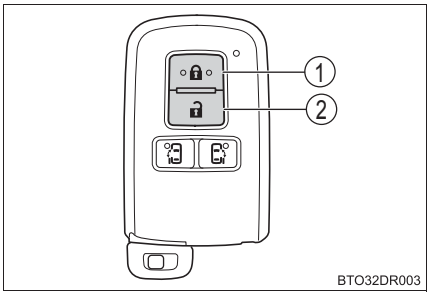


◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 382）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ キー（運転席）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

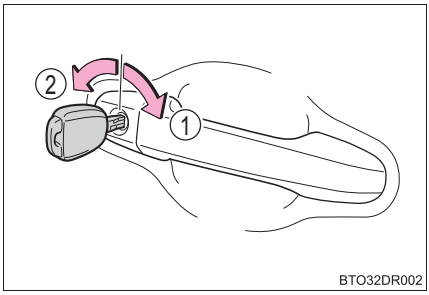
① 全ドアを施錠する

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 382）



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→ P. 363）

知識

■作動の合図

ドア：ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス：ブザーで知らせます。

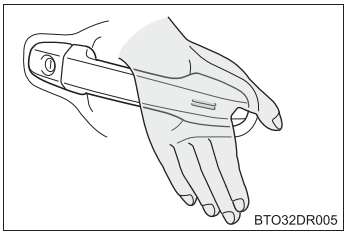
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）やワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）（→P. 363）

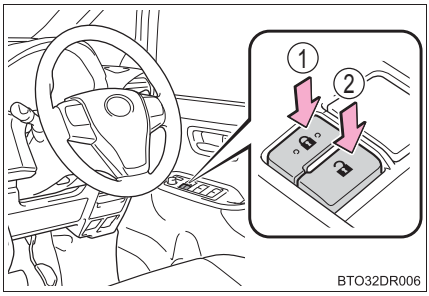
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P. 284）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

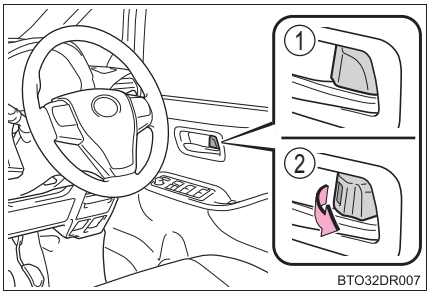


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 363)

■スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）やワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき

●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くでワイヤレスリモコンを使用しているとき

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→ P. 109

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

→ P. 85

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 85

◆ キー（運転席）

→ P. 86

車内からの解錠・施錠

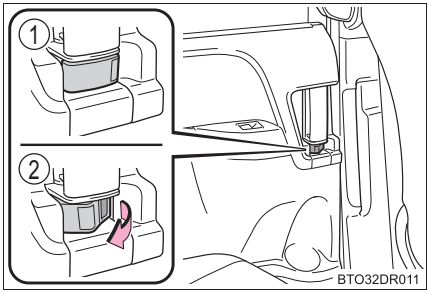
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 87

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠

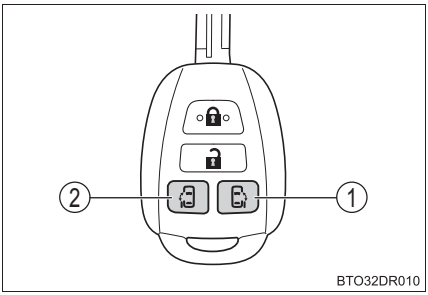


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車外からスライドドアを開閉する

◆ ワイヤレスリモコン（パワースライドドア装着車）

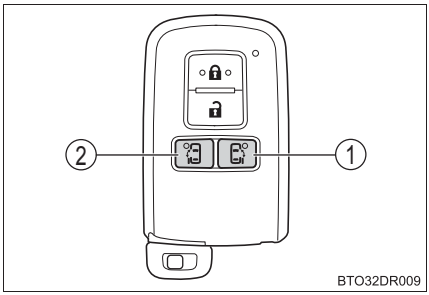
▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



① 運転席側パワースライドドア★を開閉する（長押し）

② 助手席側パワースライドドア★を開閉する（長押し）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① 運転席側パワースライドドア★を開閉する（長押し）

② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）

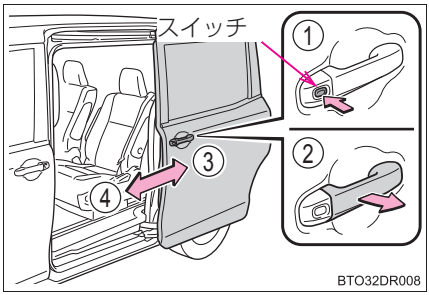
◆ スライドドアハンドル

① スイッチを押して開閉する★

・ドア施錠時：電子キーを携帯し、スイッチを押すとスライドドアが開きます。

電子キーの検知エリア内（→ P.107）でスイッチを押さないと、スライドドアは開きません。

・ドア解錠時：電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが開きます。



② ドアハンドルを引いて開閉する

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

③ 開く

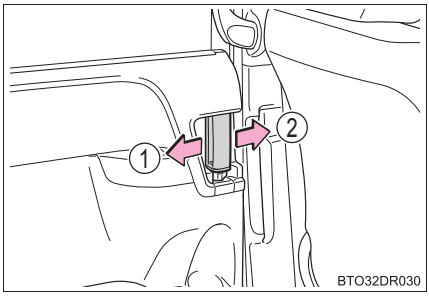
④ 閉じる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からスライドドアを開閉する

◆ インサイドドアハンドル

① 開く
② 閉じる

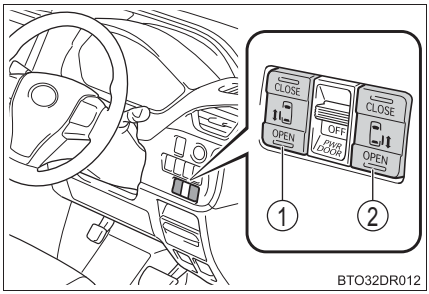


◆ パワースライドドアスイッチ（パワースライドドア装着車）

① 助手席側（スイッチを長押しして開閉します）
② 運転席側★（スイッチを長押しして開閉します）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、停止します。

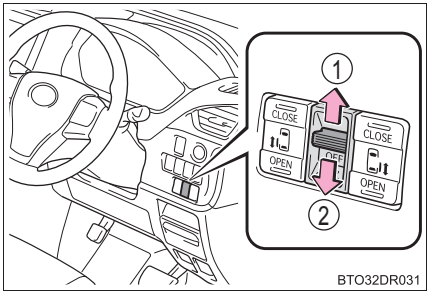
ただし、作動開始から約 1 秒間は停止作動に切りかわりません。



パワースライドドアを使用するときは（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

①OFF
②ON



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

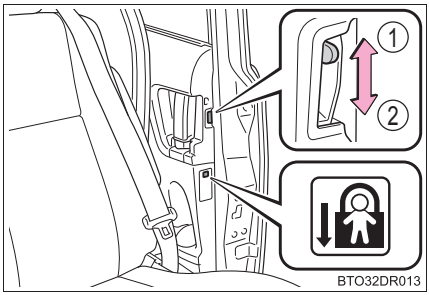
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。



知識

■作動の合図（パワースライドドア装着車）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■中間ストッパー

給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

■スライドドアイージークローザー（パワースライドドア装着車）

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチが“LOCK”★または OFF★になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

●給油口が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●エンジンスイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について（パワースライドドア装着車）

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、次のように作動します
逆方向に動く：
・アウトサイドハンドルを引くまたはスライドドアハンドルのスイッチを押す
開方向に動く：
・インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN）を押す
閉方向に動く：
・インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE）を押す

挟み込み防止機構作動後、ワイヤレスキーまたは電子キーのスライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■給油口開警告ブザー（パワースライドドア装着車）

●給油口が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドア開閉中に給油口を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

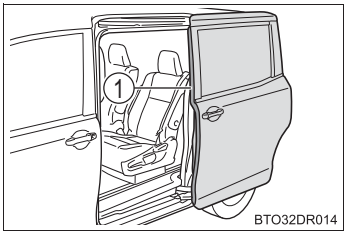
■バッテリーを再接続したときは（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの前端部には、センサー（ ① ）が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

■パワースライドドア作動中のワイヤレスロック機能

スライドドアを除くすべてのドアが閉まっている状態で、パワースライドドアが自動閉作動中にワイヤレスリモコンで施錠操作を行うと、スライドドアを除くすべてのドアが施錠され、スライドドアも閉まると同時に施錠されます。

■カスタマイズ機能

スライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず着用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にパワースライドドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。(パワースライドドアメインスイッチ★を OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません)

■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、ドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。(全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます)半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

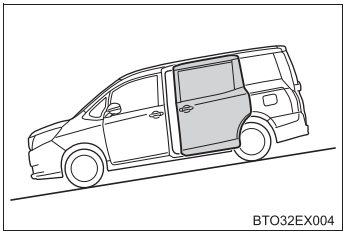
警告

■スライドドアの操作にあたって

●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります

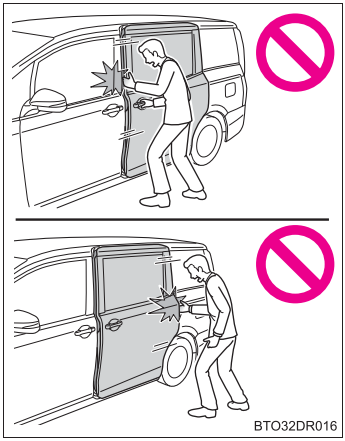
●スライドドアが給油口ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないように注意してください。

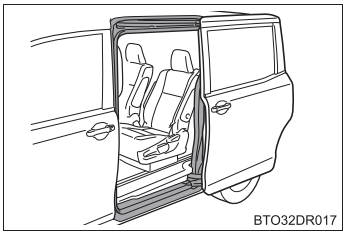

BTO32EX004

●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやハンドルスイッチを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


BTO32DR016

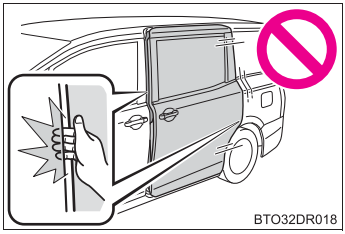
●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。


BTO32DR017

警告

■スライドドアイージークローザーについて（パワースライドドア装着車）

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。（→ P. 94）



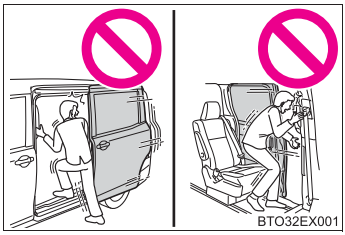
●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



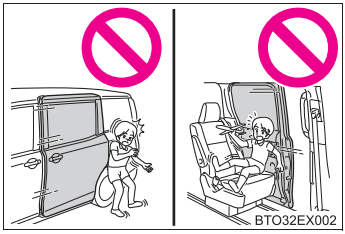
●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件（→ P. 94）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではスライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●タイヤ交換や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと、いたずらや誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■挟み込み防止機能（パワースライドドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

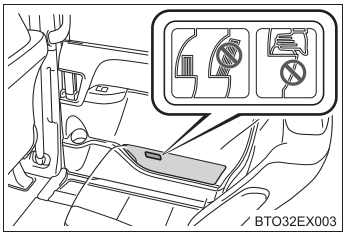
注意

■パワースライドドア作動中のワイヤレスロック機能

パワースライドドア作動中のワイヤレスロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、ワイヤレスリモコンを車内にもどすと、車内にワイヤレスリモコンが閉じ込められることがあります。
パワースライドドア作動中のワイヤレスロック機能を使用するときは、必ずワイヤレスリモコンを携帯した状態で行ってください。
車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■スライドドアについて

スライドドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりではなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷が付いたり、故障につながるおそれがあります。



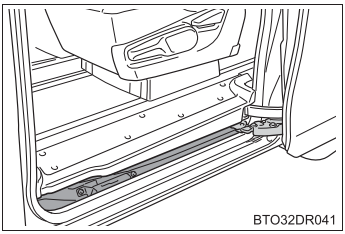
⚠注意

■スライドドアについて

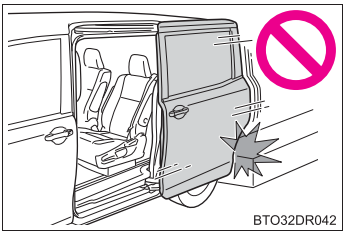
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



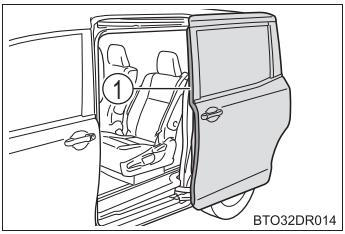
■スライドドアイージークローザーについて（イージークローザー装着車）

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて（パワースライドドア装着車）

パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開けることができます。

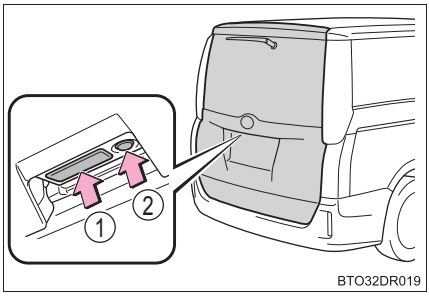
車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム★

① 解錠

② 施錠

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレス機能

→ P. 85

◆ キー

→ P. 86

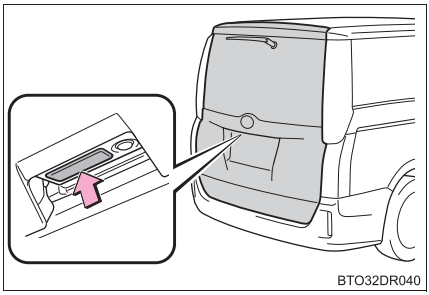
車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 87

車外からバックドアを開ける

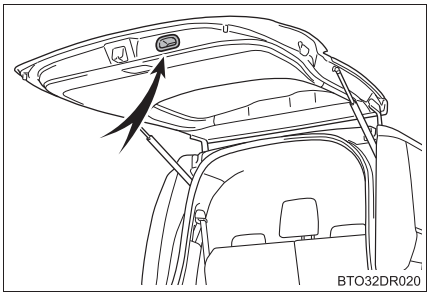
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

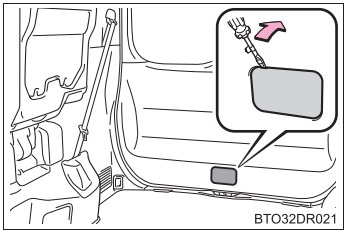


知識

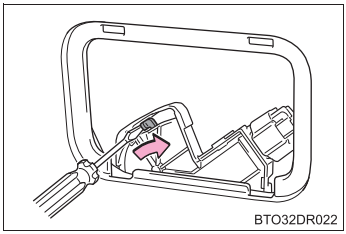
■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす



2 レバーを押す



警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

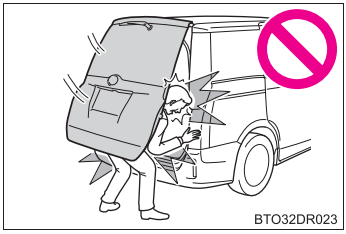
●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

警告

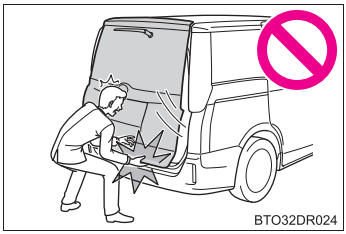
■バックドアの操作にあたって

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


BTO32DR023

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


BTO32DR024

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

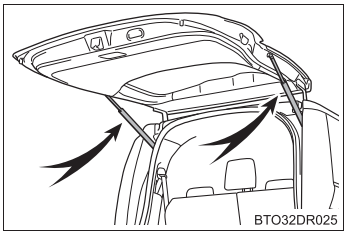
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム★

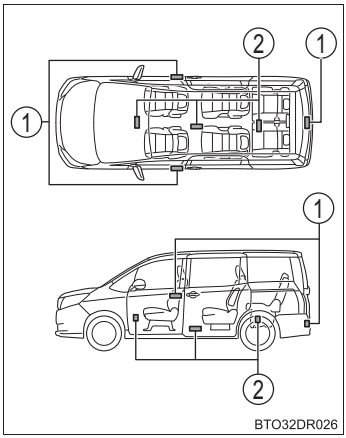
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

- ドアを解錠・施錠する （→ P. 85）
- スライドドアを開閉する （→ P. 91）
- バックドアを解錠・施錠する （→ P. 102）
- エンジンを始動する（→ P. 157）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ

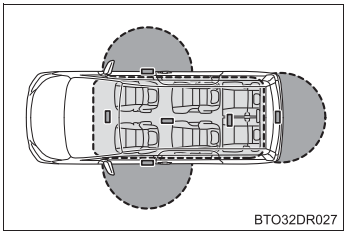


■作動範囲（電子キーの検知エリア）

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

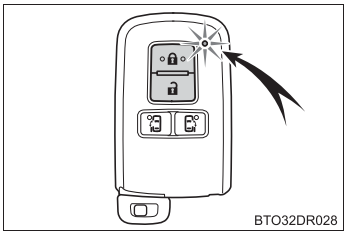
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2 回押し、電子キーのインジケータが４回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆ スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

警告が表示されたときは、状況に応じて適切に対処してください。（→ P. 332）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況・対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした **→全ドアを閉めたあと、再度施錠する**
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた） **→エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める**

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 363）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・バックドアの解錠・施錠時に、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック操作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）

・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 108）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 332）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの解錠・施錠：→ P. 363

●エンジンの始動：→ P. 363

●節電機能が設定されている：→ P. 108

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 363）

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 363

●エンジンの停止：→ P. 158

警告

■電波がおよぼす影響について

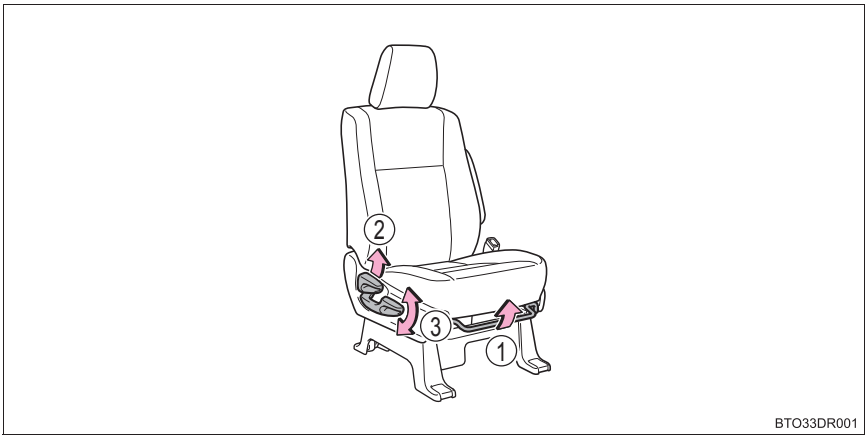
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 107）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた



① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

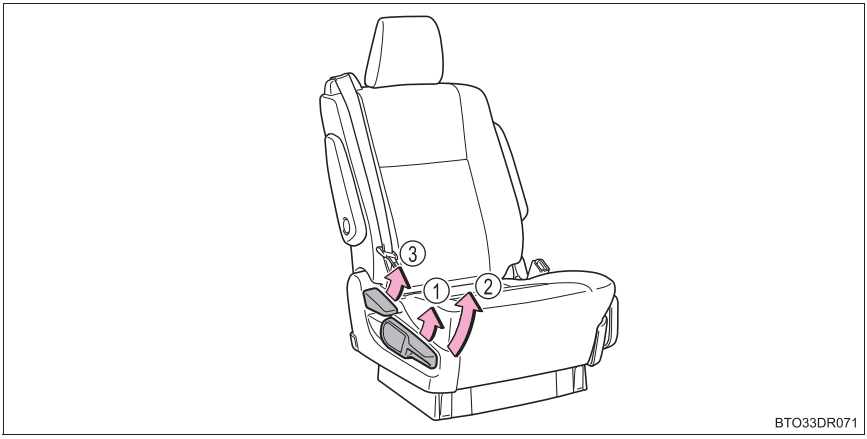
■リクライニング調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

セカンドシート

▶ 7 人乗り車



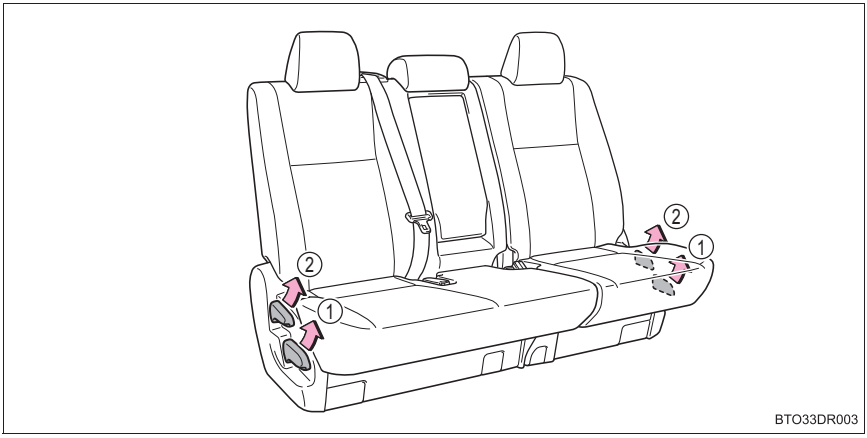
① 前後位置調整※

② 前後左右位置調整※

③ リクライニング調整

※レバーを 1 段階上げると前後位置調整、2 段階上げると前後左右位置調整ができます。

▶ 8 人乗り車



① 前後位置調整

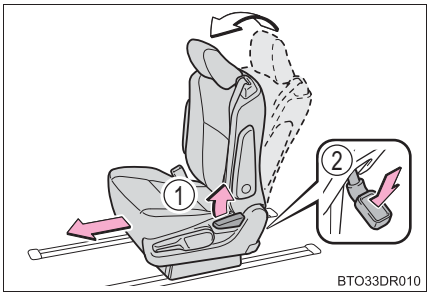
② リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

▶ 7 人乗り車

リクライニングレバー(①) を引く、または前倒しペダル (②) を踏む

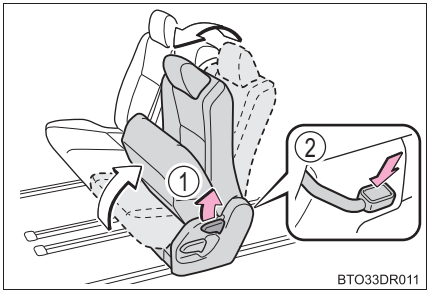
背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

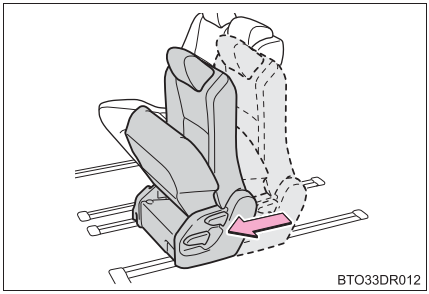


▶ 8 人乗り車（助手席側から）

リクライニングレバー(①) を引く、または前倒しペダル (②) を踏む

背もたれが前に倒れきると、シートクッションがはねあがりシートを前方に移動させることができます。

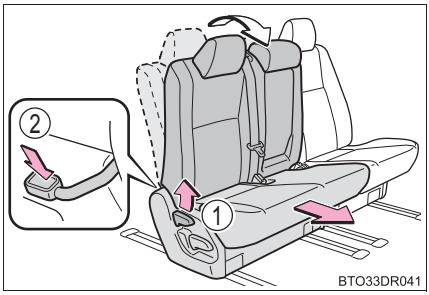




▶ 8 人乗り車（運転席側から）

リクライニングレバー(①) を引く、または前倒しペダル (②) を踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。



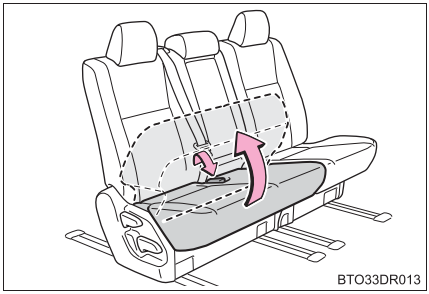
セカンドシートをチップアップするには（8 人乗り車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 シートベルトのバックルを格納する（運転席側）（→ P. 26）

3 セカンドシートの格納式センターボックスを収納する。（→ P. 251）

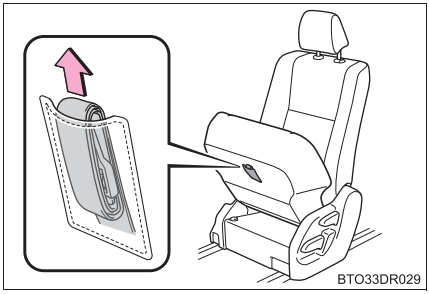
4 シートクッションを起こす (運転席側)



5 リクライニングレバーを引き、背もたれを前方に倒す（→ P. 113）

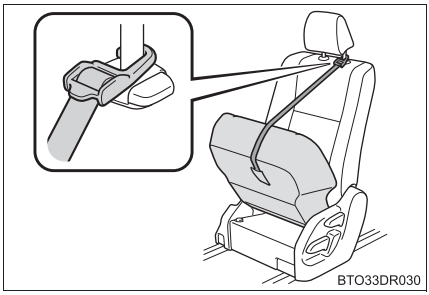
6 背もたれをもとにもどし、シートスライドを固定する

7 シートクッション下部の収納ポケットからシート固定バンドを取り出す



8 ヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートクッションを固定する

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。



警告

■シート調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートへの移動について

走行中はサードシートへ移動しないでください。

■サードシートへの乗り降りについて

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●セカンドシートに乗員がいるときは、サードシートから操作を行わないでください。セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

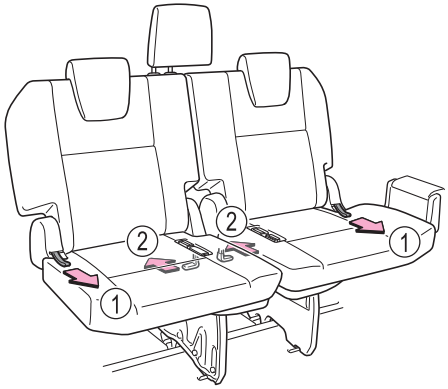
●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■サードシートへの乗り降りについて

●アームレストを格納してから操作してください。

●リクライニングレバーを引き、シートバックが倒れきるとシートクッションが自動的にはねあがりますので注意してください。（助手席側セカンドシート）

サードシート



BTO33DR004

① リクライニングストラップ

② スペースアップレバー（→ P. 123）

知識

■スペースアップレバーについて

スペースアップレバーはシートクッションの裏側にあります。
スペースアップレバーによるリクライニング調整は、バックドア側から行ってください。

警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

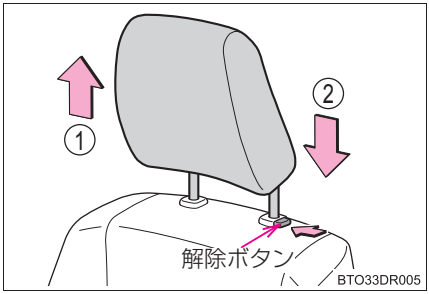
ヘッドレスト

フロントシート／セカンドシート（7 人乗り車）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

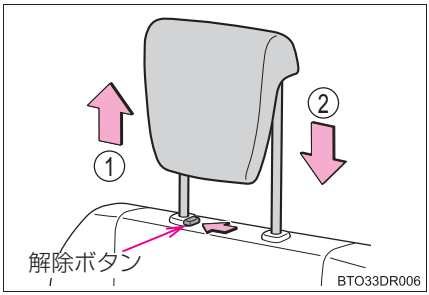


セカンドシート（8 人乗り車）／サードシート外側席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

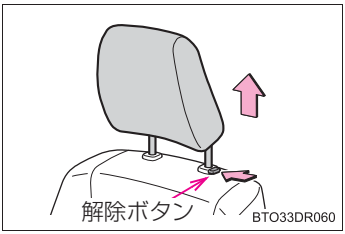


知識

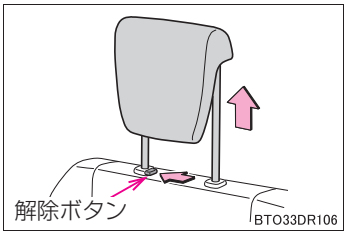
■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

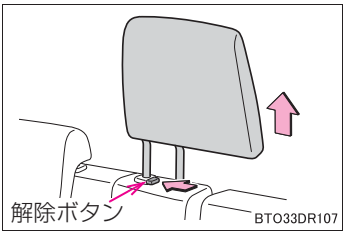
▶フロントシート／セカンドシート（7 人乗り車）



▶セカンドシート（8 人乗り車）／サードシート外側席

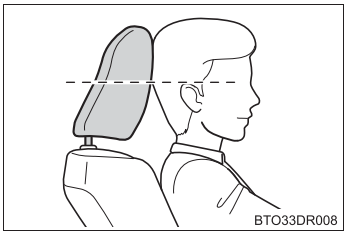


▶サードシート中央席



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

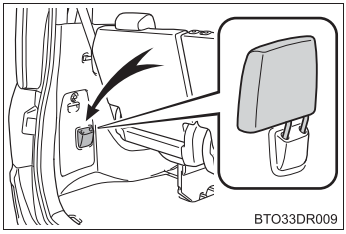


■セカンドシート（8 人乗り車）／サードシート外側席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■サードシート中央席のヘッドレストの格納について

ヘッドレストを取りはずしたときは、ラゲージルームの図の位置に格納してください。



警告

■ヘッドレストについて

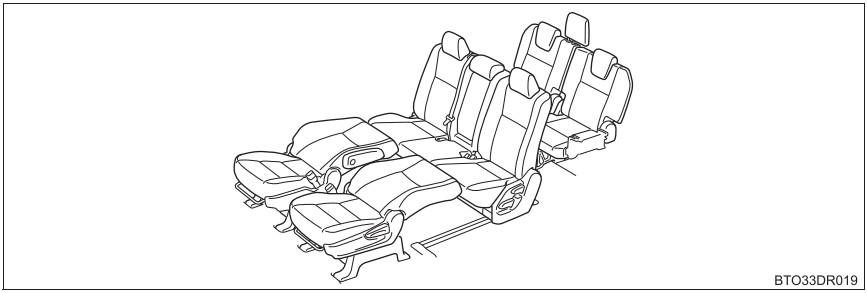
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

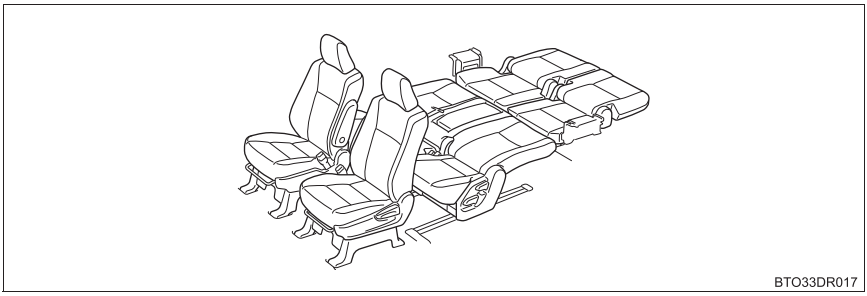
◆ フロントフラットソファモード

フロントシートをフルフラットにする（→ P. 122）



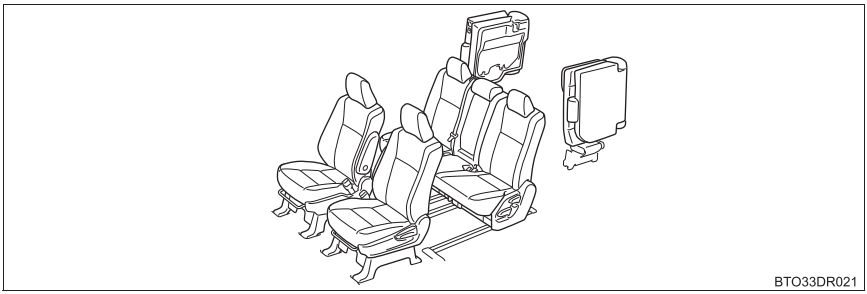
◆ リヤフラットソファモード

セカンドシート、サードシートをフルフラットにする（→ P. 122）



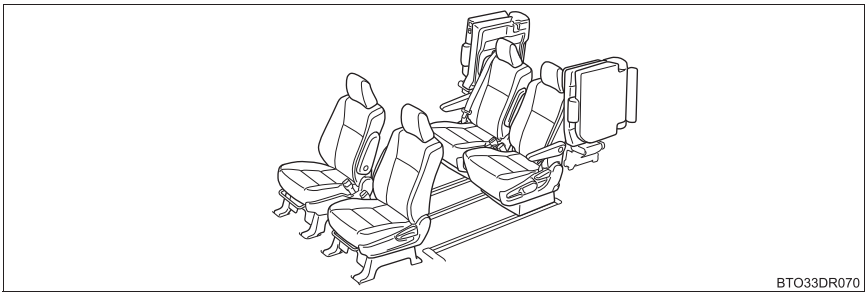
◆ ラゲージモード

サードシートを格納する（→ P. 123）



◆ スーパーリラックスモード（7 人乗り車）

サードシートを格納し、セカンドシートを後方へ移動する（→ P. 124）



フロントフラットソファモードにするには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 113）

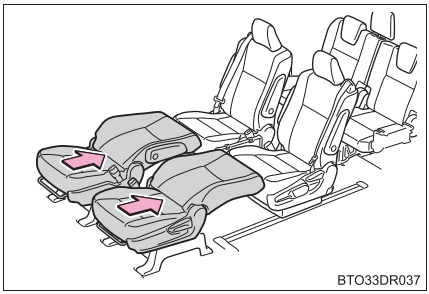
3 フロントシートのヘッドレストをはずす（→ P. 118）

4 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 112）

5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 112）

6 セカンドシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させる（→ P. 112）

フロントシートの前後位置調整レバーを操作して、セカンドシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させます。



リヤフラットソファモードにするには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 112）

3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 113）

4 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 118）

5 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 113）

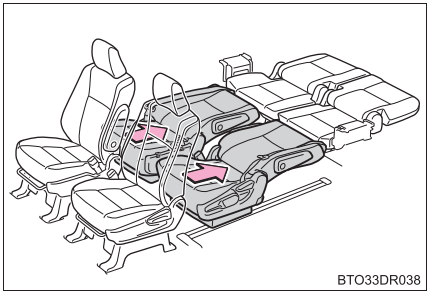
6 サードシートのヘッドレストをはずす（→ P. 118）

中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに格納します。（→ P. 120）

7 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 117）

8 セカンドシートをサードシートとのすき間がなくなるように移動させる（→ P. 113）

セカンドシートの前後位置調整レバーを操作して、サードシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させます。


BTO33DR038

知識

■サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

ラゲージモードにするには

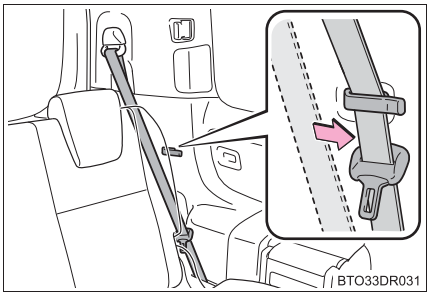
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシートの左右席のヘッドレストをいちばん下まで下げ、中央席のヘッドレストをはずす（→ P. 118）

中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに格納します。（→ P. 120）

3 サードシート左右席シートベルトをシートベルトクリップに挟む

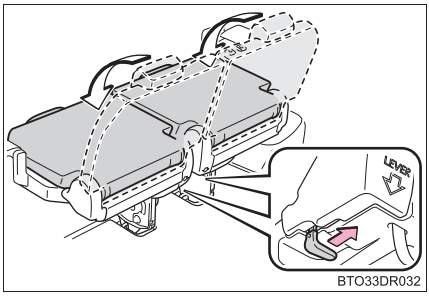
中央席のシートベルトを格納します。


BTO33DR031

4 背もたれを前方に倒す

スペースアップレバーを引いて、背もたれを前方に倒します。

・スペースアップレバーで操作すると、背もたれが倒れ、さらにレバーを引くとロックが解除されシートがはねあがります。

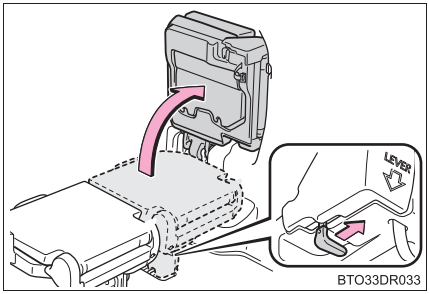


BTO33DR032

5 シートをはねあげる

スペースアップレバーをさらに引いて、シートをはねあげます。

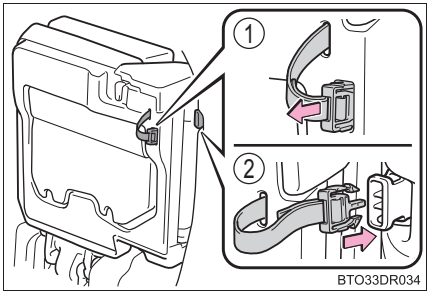
・シートのはねあげと連動して、シート脚部が格納されます。



6 シートを固定する

① 固定ベルトを取り出す

② シートを押し、ロック部に挿し込む



7 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

スーパーリラックスモードにするには（7 人乗り車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 117）

3 スライドストッパーを取りはずす（→ P. 125）

4 セカンドシート外側のアームレストを倒す（→ P. 259）

折りたたみ式サイドテーブルを使用しているときは格納します。（→ P. 251）

5 セカンドシートの左右位置を中央に移動し、後方へ移動させる（→ P. 113）

知識

■ラゲージモードについて

サードシートを格納し、セカンドシートを前方に動かすことによりラゲージルームを広げることができます。

■サードシートを格納するときは

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■スライドストッパーについて

●サードシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。

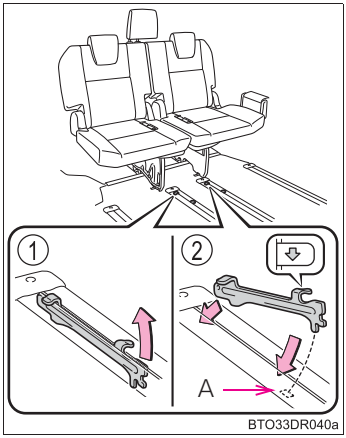
●スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。

①取りはずし

②取り付け

・シートレールの後部に挿し込んだあと、シートレール内の穴（A）に挿し込んでください。

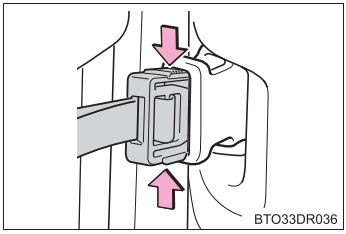
・矢印が車の前方を向くように取り付けてください。



■シート固定ベルトをはずすときは

シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

・シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押します。



警告

■**シートアレンジについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。

●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

■**フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

■**サードシートの格納について**

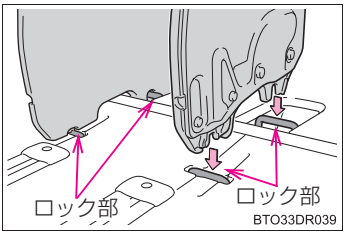
●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

●シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。



⚠注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■シートの格納について

●シートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。

●セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。

●スペースアップレバーを引くとシート全体が自動的にはねあがりますので注意してください。

■フラットシートについて

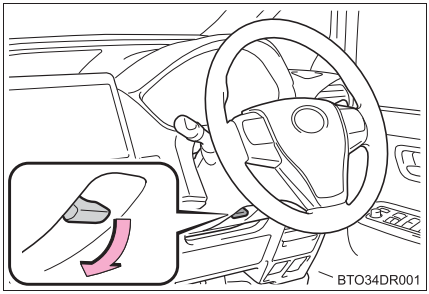
●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

ハンドル

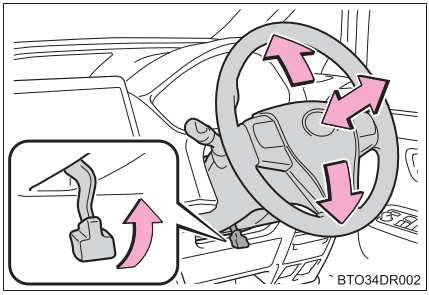
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



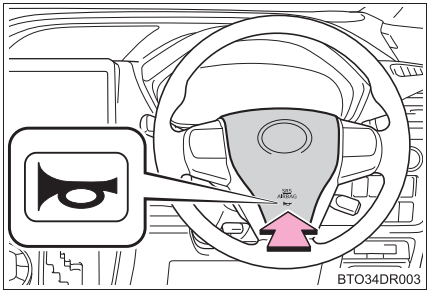
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 128）

警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

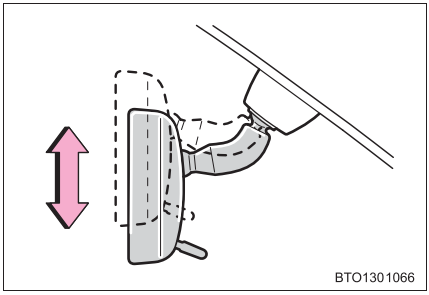
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

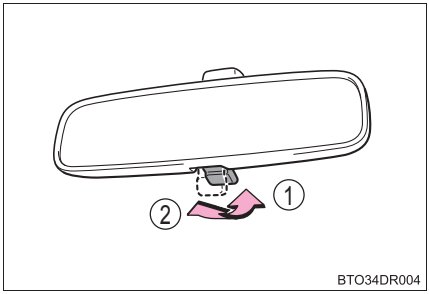


防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

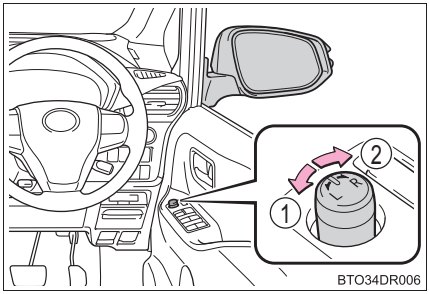
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



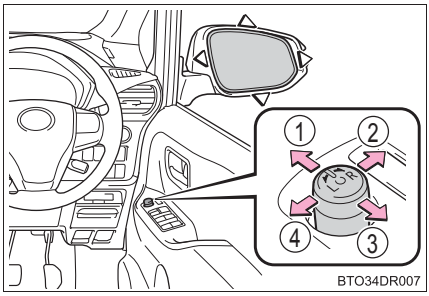
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左



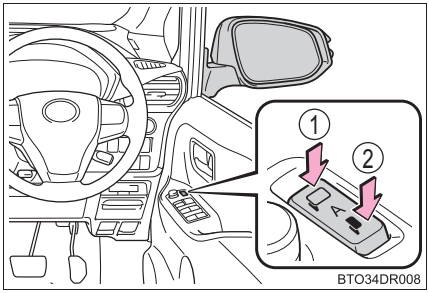
ドアミラーを格納する

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押す

① もとの位置にもどす

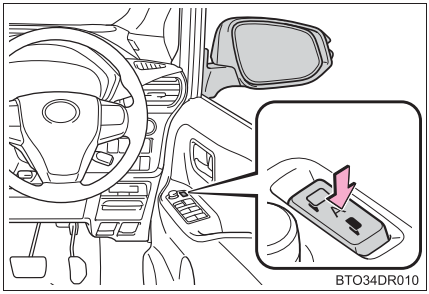
② 格納する



■ **オート作動**

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

スイッチを中立の位置にする



知識

■**作動条件**

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■**ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）**

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 234）

■**レインクリアリングミラー★**

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

●鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。

●低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 266）を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

■**レインクリアリングミラー★の取り扱いについて**

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
  鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

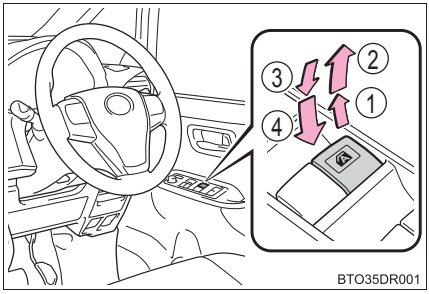
① 閉める

② 自動全閉※

③ 開ける

④ 自動全開※

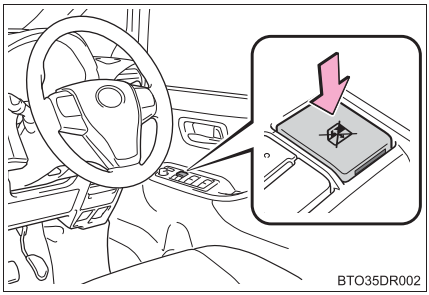
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスやリヤムーンルーフ★が作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフ★を開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エンジン停止後の作動

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、ドアガラスに負荷がかかると、作動が停止します。

■パワーウインドウを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★の状態で挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動した後 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチを“ON”★またはイグニッション ON モード★にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない。または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **ドアキー連動ドアガラス開閉機能**

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 363）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 81）

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 382）

■ **窓開警告ブザー**

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 326）

■ **カスタマイズ機能**

ドアキー連動ドアガラス開閉機構などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

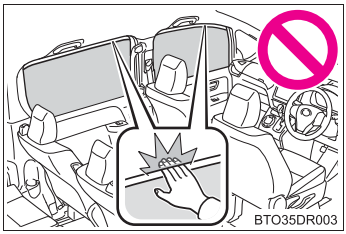
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ドアガラスを開閉するとき**

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 135）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

■ドアガラスを開閉するとき

●車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”★または OFF ★にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ツインムーンルーフ★

フロントムーンルーフのチルトアップ／ダウン、天井のスイッチでリヤムーンルーフを開閉できます。

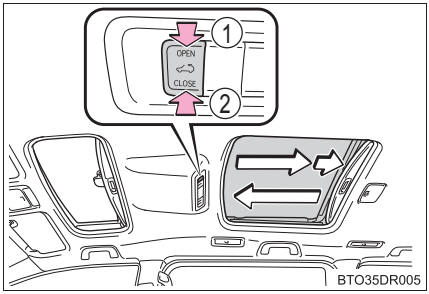
リヤムーンルーフを開閉する

① 開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② 閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

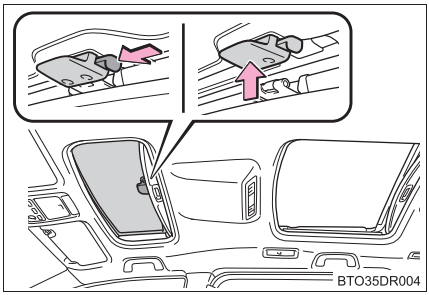


フロントムーンルーフをチルトアップする

チルトアップ

ボタンを押しながらハンドルを押し上げます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
ただし、パワーウインドウのロックスイッチがロック状態のときは作動しません。

■挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、リヤムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、リヤムーンルーフが開くと連動して開きます。

■リヤムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※

・スイッチを押し続けているあいだリヤムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
・リヤムーンルーフが全閉したら復帰作業が完了します。

※復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リヤムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でリヤムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 327）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

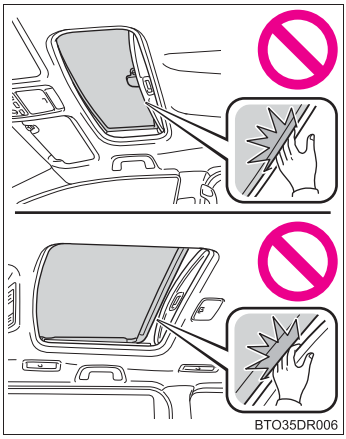
●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 144

荷物を積むときの注意..... 153

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）..... 154

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）..... 157

オートマチックトランスミッション..... 163

方向指示レバー 167

パーキングブレーキ..... 168

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 169

LED イルミネーションビーム 172

フォグランプスイッチ..... 173

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 174

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 177

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 179

4-5. Toyota Safety Sense C

Toyota Safety Sense C ...182

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....187

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）...200

オートマチックハイビーム ...205

先行車発進告知機能.....209

4-6. 運転支援装置について

Toyota Stop & Start System（SMART STOP）.....211

クルーズコントロール.....217

運転を補助する装置.....220

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....227

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 154, 157

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 163）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 168）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 163）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 168）、シフトレバーを P にする（→ P. 163）

3 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：
エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■登り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 220）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 329）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は M ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 328）

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 222）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■高摩擦ブレーキパッド装着車について（G's）

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 308を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 163）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●4WD 車：渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車両が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

■床下に衝撃をうけたとき

ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。ブレーキ液や燃料の漏れ、マフラーなど車体下部に損傷が無いか確認してください。漏れや損傷がある場合はただちに販売店で点検整備を受けてください。
漏れや損傷を放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

⚠注意

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 337, 348 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●リヤ席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

エンジンのかけ方

1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

5 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

エンジンスイッチの位置の切りかえ

① “LOCK”（OFF）
- シフトレバーが P のとき、キーを抜き挿しできます。
- キーを抜いたときにステアリングロックがかかります。

② “ACC”

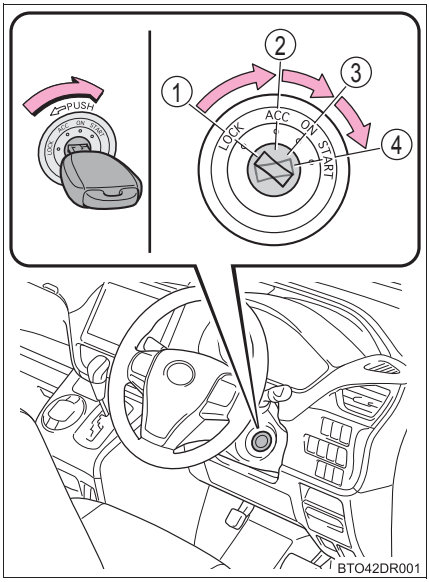
オーディオなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

エンジンが始動できます。

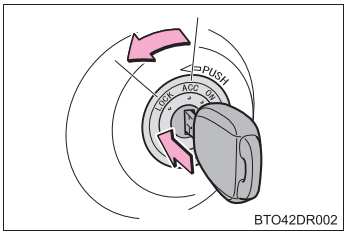


知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

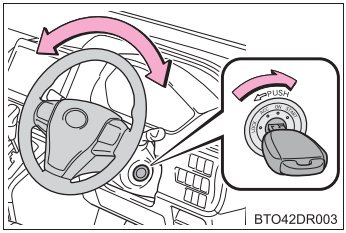
1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

警告

■エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。（→P. 308）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

●一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。

●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジン スイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

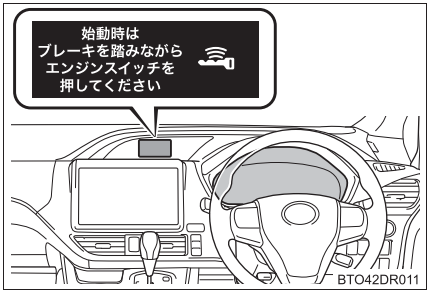
1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

3 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

4 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
表示されないと、エンジンは始動しません。



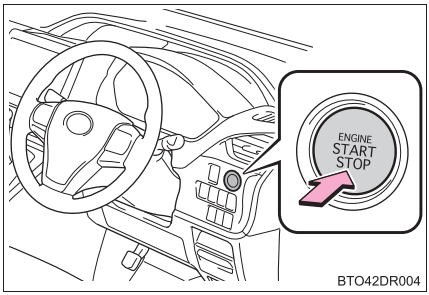
5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 158）からでもエンジンを始動できます。



エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 168）、シフトレバーを P の位置にする

3 エンジンを停止する

4 ブレーキペダルから足を離した状態にして、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

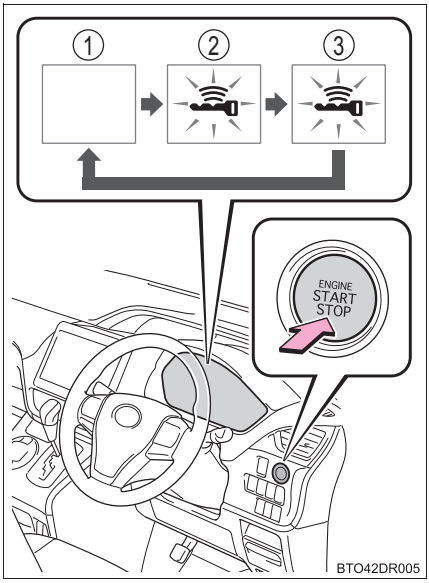
② アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

③ イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す

4 スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが始動していないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 83

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 109

■ご留意いただきたいこと

→ P. 109

■エンジンが始動しないとき

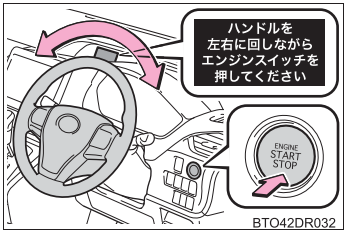
- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
（→ P. 59）
トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジンが停止　P レンジに入れてください」が表示されます。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 284

■エンジンスイッチの操作について

●短く確実に押せていない場合は、モード切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 363

警告

■**エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→ P. 308）
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

- ●エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ●エンジンがかかっていないときに、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していないときはエンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- ●シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■エンジンを始動するとき

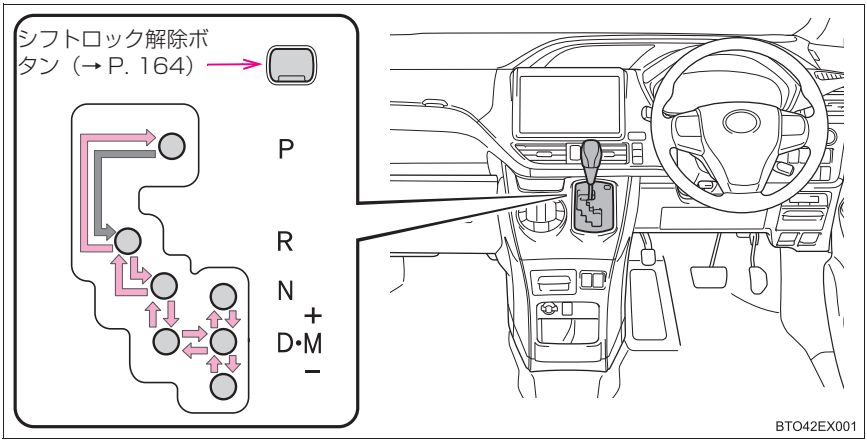
- ●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- ●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→ P. 164）

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

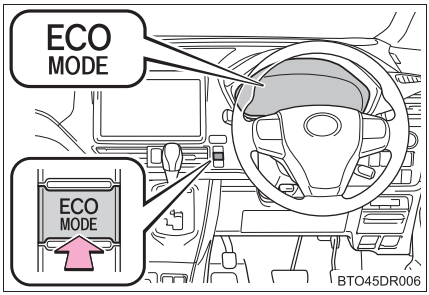
エコドライブモードの選択

エコドライブモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

ECO MODE 表示灯が点灯します。

・もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。
・エコドライブモードが ON の状態は、エンジンスイッチを OFF にしても記憶されています。



7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ

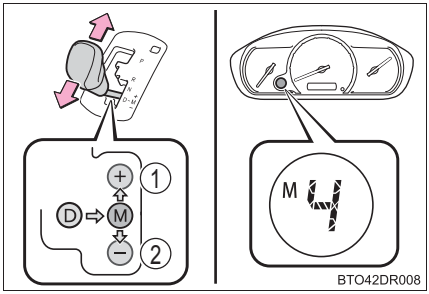
シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思い通りの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーの“+”側または“—”側の操作で変速段を選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

M1 から M7 の中で選択した変速段がメーターに表示されます。



M ポジションで走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、自動的に変速段が切りかわる場合があります。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが“ON”★またはイグニッション ON モード★でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んでいるのにシフトできないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

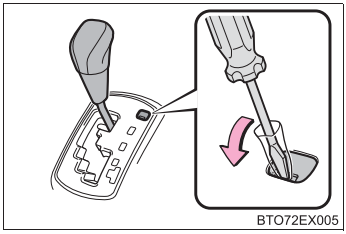
2 エンジンスイッチを“LOCK”★または“OFF”★にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

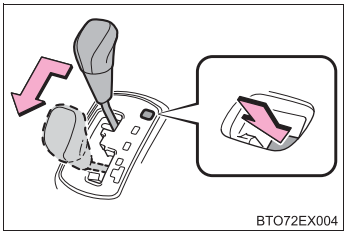
マイナスドライバーなどの工具を用いてカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの工具の先端に、布などを巻いて保護してください。


BTO72EX005

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


BTO72EX004

■変速段機能

●エンジンブレーキ力は 7 段階から選択が可能です。

●シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

■オートマチックトランスミッションの保護

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温」が表示され、自動的にシフトアップします。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■クルーズコントロール★を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中で M6 または M5、M4 へシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→ P. 217）

■シフトレバーを M にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示灯の M が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■M ポジションで走行中に停車したときは

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停止後走行するときは M1 からの発進となります。

●停止後は M1 に固定されます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 145

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

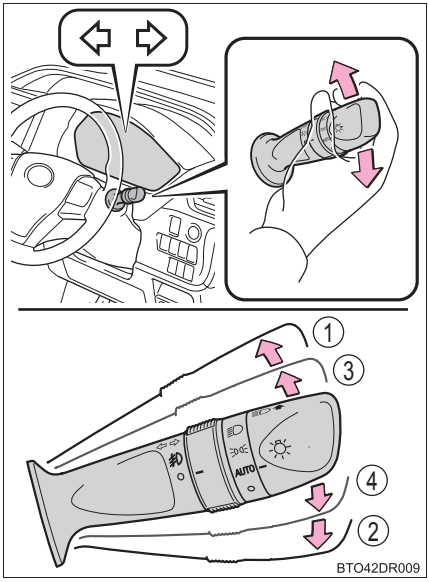
② 右折

③ 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

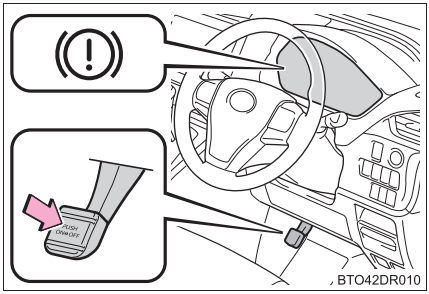
■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

■駐車手順について

→ P. 144

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 228

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 317

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

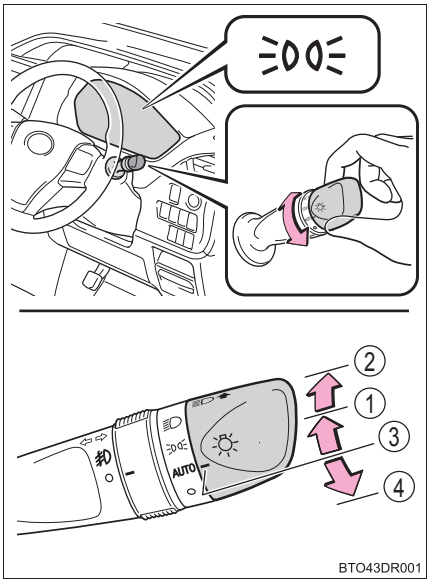
操作のしかた

① 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

③ AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯★（エンジンスイッチが“ON”★、またはイグニッションONモード★のとき）

④ 消灯



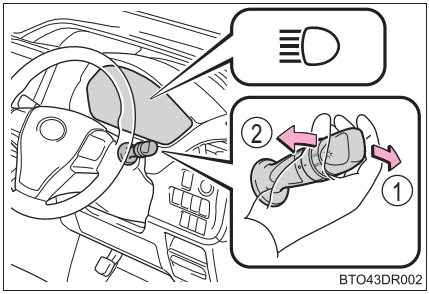
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



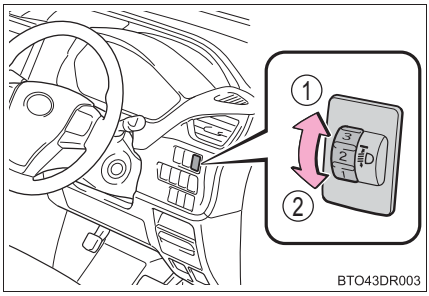
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



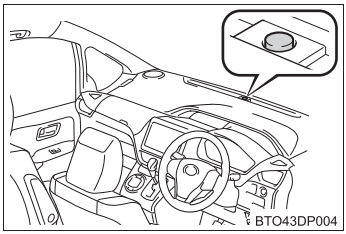
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
運転者と助手席、およびサードシートに３人乗車	なし	2
全乗員	なし	2.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5

知識

■ライトセンサー★

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能★

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしてフロントドアまたはスライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてフロントドアまたはスライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

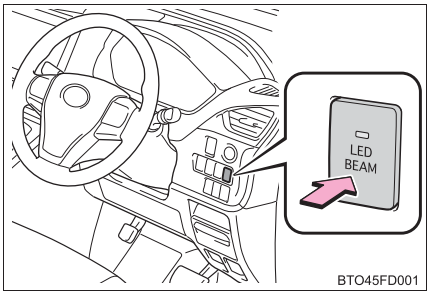
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LED イルミネーションビーム★

LED イルミネーションビームの使い方

LED イルミネーションビームスイッチを押す

ON にするとスイッチ上のインジケーターが点灯し、フロントバンパーの LED イルミネーションビームが点灯します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でLEDイルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

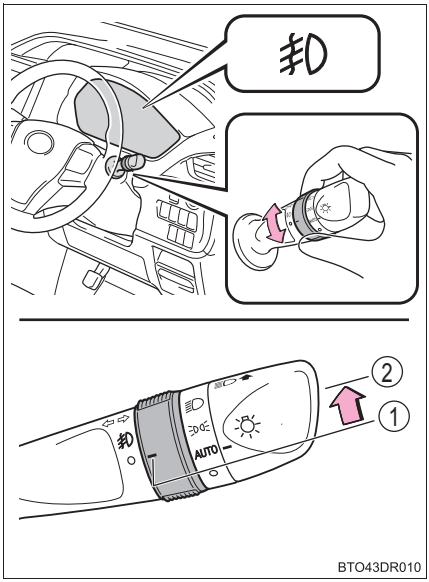
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

① 消灯する

② 点灯する



知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

“ ”を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。
間欠作動の時間は、車速に応じてかわります。
次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。ワイパーの間欠時間も調整できます。

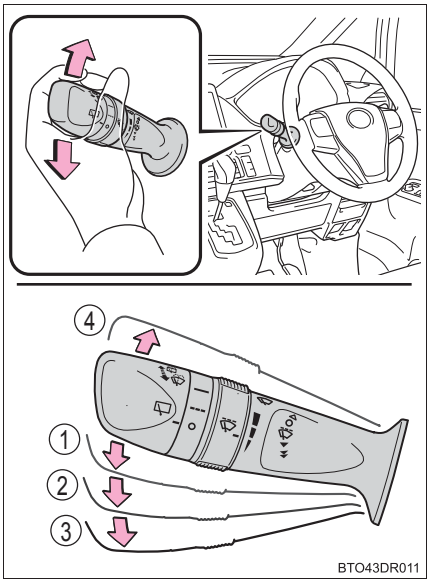
① 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

② ▼ 低速作動

③ ▼▼ 高速作動

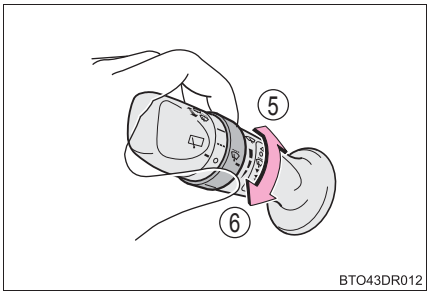
④ △ 一時作動



⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

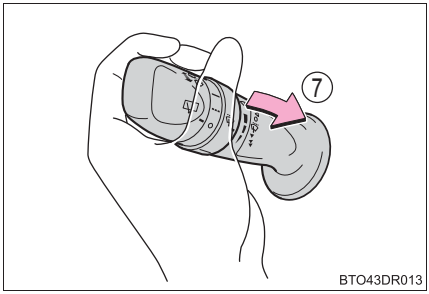
増方向いっぱいまで回した状態で車速が一定より高くなると、低速作動になります。
車速が一定より低くなると、間欠作動に戻ります。

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動への影響があります。

●間欠時間

●ウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動の有無）

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
フロントウインドウガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

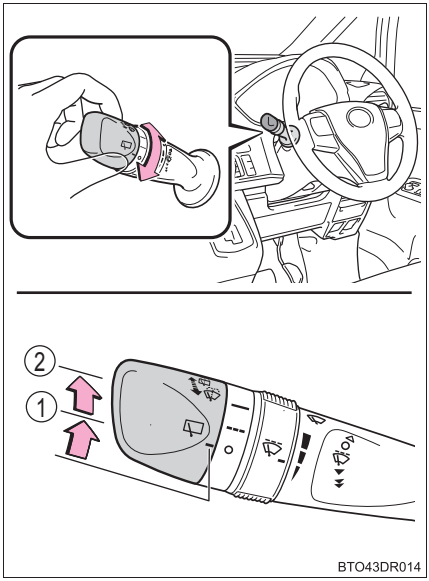
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

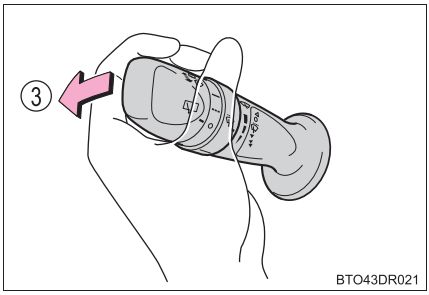
① ---間欠作動

② ━通常作動



③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

■カスタマイズ機能

リバース連動機能の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
リヤウインドウガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチを“LOCK”★またはOFF★にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■給油扉開警告ブザー（パワースライドドア装着車）

→ P. 95

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■給油するときは

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●ガソリンエンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジンの出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

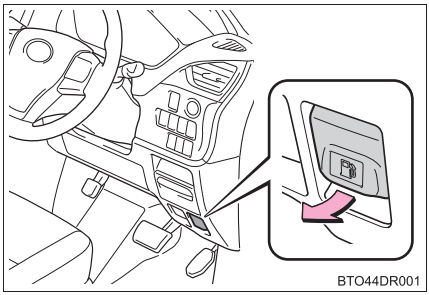
●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

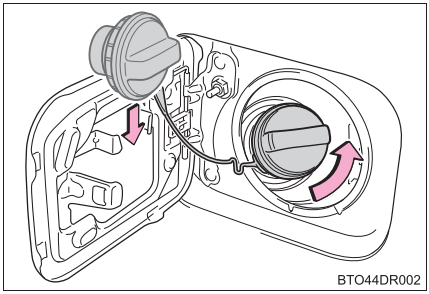
※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを引いて、給油扉を開ける


BTO44DR001

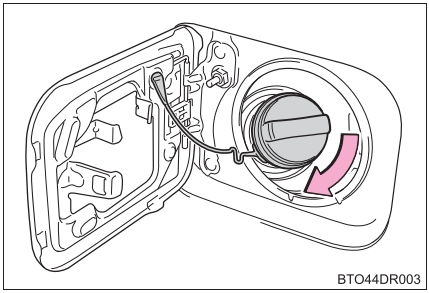
2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む


BTO44DR002

給油口を閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。


BTO44DR003

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense C★

Toyota Safety Sense C は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

→ P. 187

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 200

◆ オートマチックハイビーム

→ P. 205

◆ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 209

警告

■Toyota Safety Sense C について

Toyota Safety Sense C は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報

上記に加え、プリクラッシュブレーキが作動した場合、前方センサーの画像情報も記録します。なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

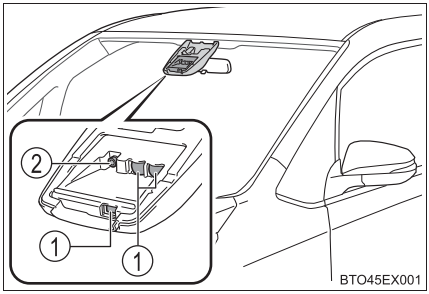
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティシステム作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある２種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

① レーザーレーダー
② 単眼カメラ



警告

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞきこまないでください。

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）: 45 mW
パルス持続時間 : 33 ns
波長 : 905 nm
発散角（水平×垂直）: 28° × 12°

警告

■**前方センサーの故障や誤作動を防ぐために**

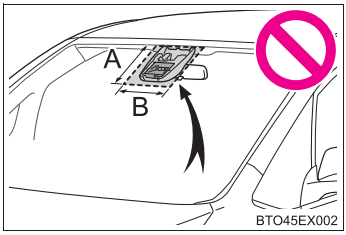
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼りつけない

A: フロントウインドウガラス上端から前 方センサー下端より下約 10cm まで

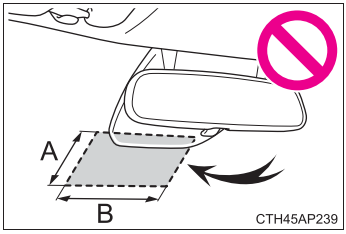
B: 約 20cm（前方センサー中心から左右 約 10cm）



●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A:前方センサー下端から下約10cmまで

B: 約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点滅します。その場合は、フロントデフロスターで曇りなどを取り除いてください。(→P. 234)

●前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

●フロントウインドウガラスの前方センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

警告

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーの前にアンテナを取り付けない
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- 前方センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラー・サンバイザーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

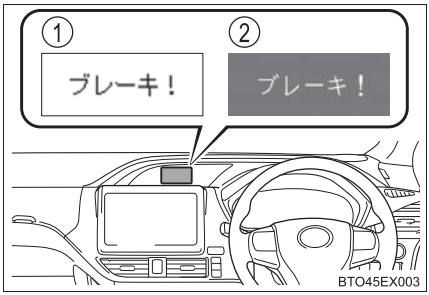
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

進路上の車両を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティシステムの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 190）

◆ 衝突警報

先行車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示し、回避操作をうながします。



① タイプ A

② タイプ B

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

先行車両と衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

先行車両と衝突の可能性が高いと判断したときに衝突警報を行い、さらに衝突の可能性が高まったと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度の低減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティシステムは衝突の回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 192
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 196

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。プリクラッシュブレーキは車両が停止してから約２秒後に解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。

●走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保して下さい。

・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む (→P. 192)
・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする (→P. 190)

警告

■**プリクラッシュセーフティシステムを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき (→ P. 276, 281)
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤ★やタイヤパンク応急修理キット★を使用しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの設定変更

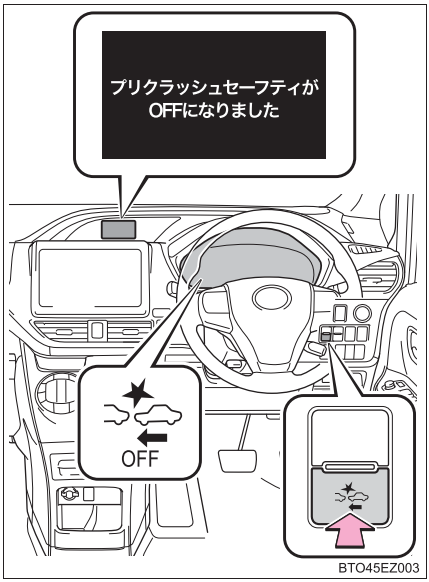
■ プリクラッシュセーフティシステムの ON/OFF を変更する

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一 度 PCS スイッチを押します。

エンジンを始動するたび、プリクラッシュセーフティシステムは ON になります。



■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと マルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

いったん警報タイミングを変更すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

① 遠い

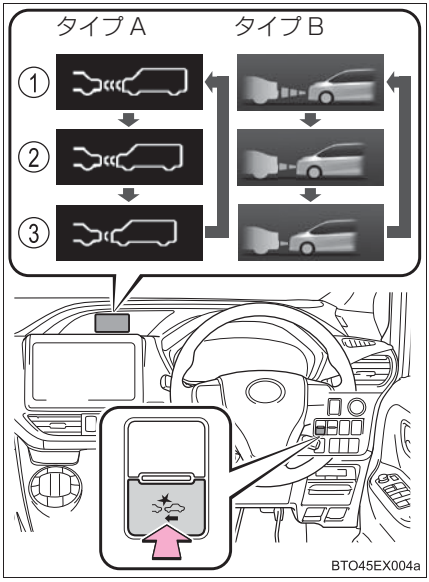
「中間」より警報タイミングが早くなる

② 中間

初期設定

③ 近い

「中間」より警報タイミングが遅くなる



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON で、先行車両と衝突の可能性が高いと判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

・自車速度約 15km/h ～ 140km/h
・自車から見た先行車との相対速度約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

・自車速度約 30 ～ 80km/h
・自車から見た先行車との相対速度約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

・自車速度約 10 ～ 80km/h
・自車から見た先行車との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

●PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき

■**プリクラッシュブレーキの作動解除**

●プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

・アクセルペダルを強く踏み込む※

・ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

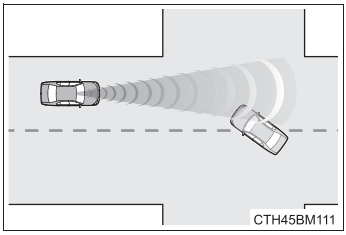
※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

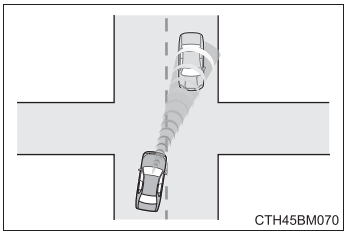
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性があると判断し、作動するおそれがあります。

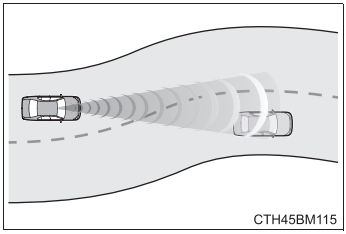
・右左折待ちの対向車とすれ違うとき



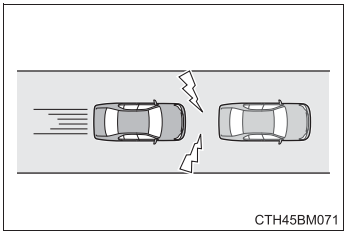
・右左折時に対向車とすれ違ったとき



・隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき

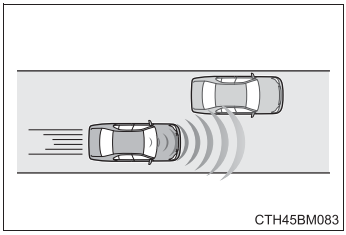

CTH45BM115

・先行車に急速に接近したとき

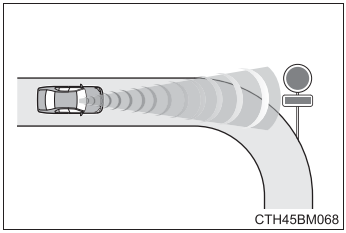

CTH45BM071

・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき

・車両や構造物のすぐそばを通過するとき

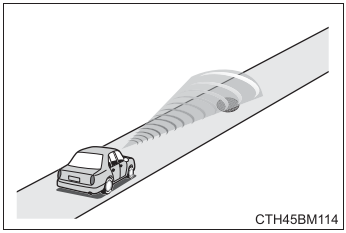

CTH45BM083

・カーブの入り口の道路脇に車両･構造物が存在するとき

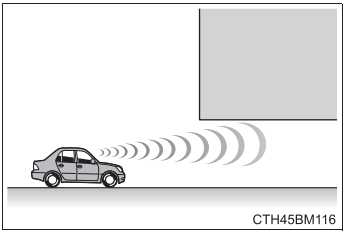

CTH45BM068

・道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋など）を走行するとき

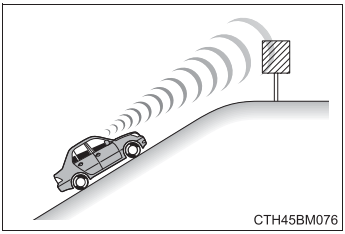
・路上または道路脇に反射物（マンホール・鉄板など）・段差・くぼみ・突起物があるとき


CTH45BM114

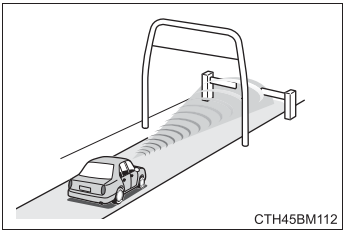
・道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識など）がある場所を走行するとき


CTH45BM116

・上り坂で進行方向の道路上方に構造物（立体交差・道路標識・看板・街灯など）があるとき

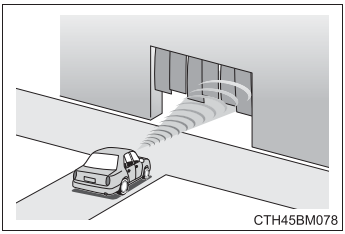

CTH45BM076

・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき

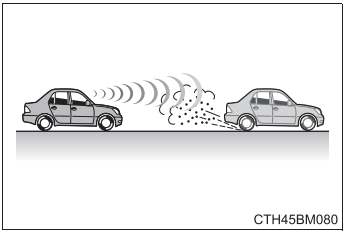

CTH45BM112

・洗車機を使用するとき

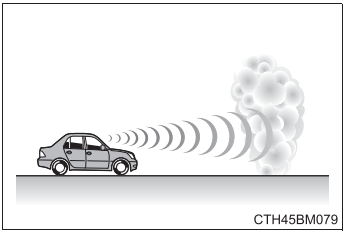
・車両に覆い被さるような障害物（垂れ幕・垂れ下がった枝・生い茂った草など）がある場所を走行するとき


CTH45BM078

・前方車両から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

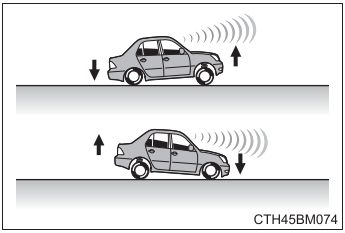

CTH45BM080

・車両前方に水蒸気や煙などがあるとき

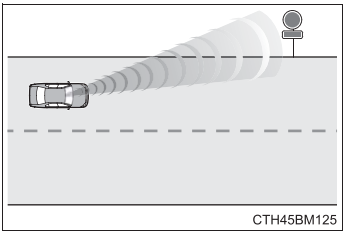

CTH45BM079

・路面または壁面に車両との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

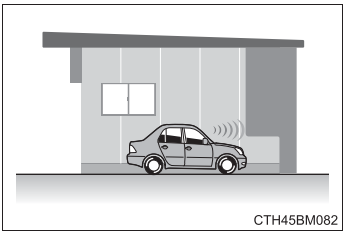
・車両姿勢が変化しているとき


CTH45BM074

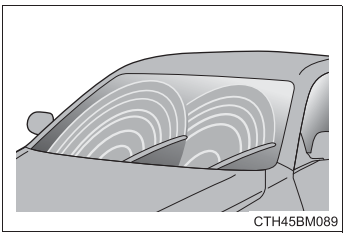
・センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき


CTH45BM125

・前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき


CTH45BM082

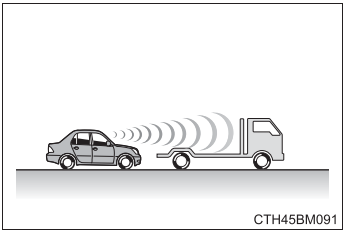
・フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき


CTH45BM089

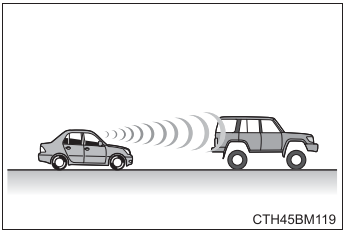
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

●例えば次のような状況では、前方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

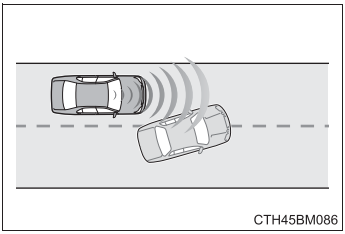
・前方から自車に向かって車両が近付いてくるとき
・前方車両が横向き、自車向きのとき
・先行車の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）


CTH45BM091

・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

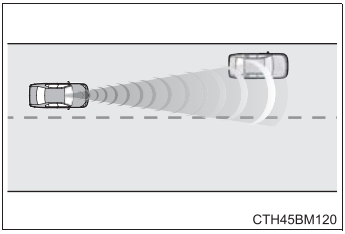

CTH45BM119

・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
・車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

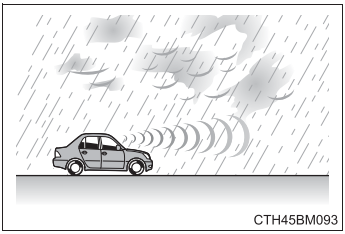

CTH45BM086

・前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき

・前方車両と自車の中心がずれているとき


CTH45BM120

・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき

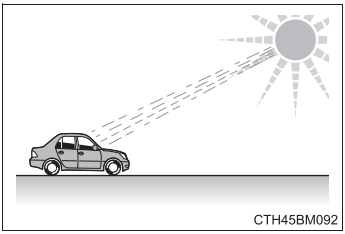

CTH45BM093

・前方車両から水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

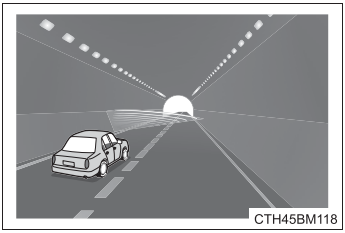
・水蒸気や煙などで前方車両が見えないとき

・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）

・強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方センサーに直接あたっているとき

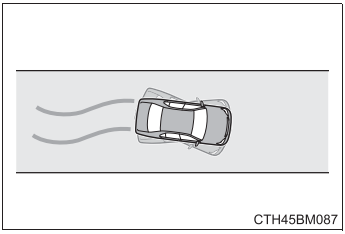

CTH45BM092

・薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内

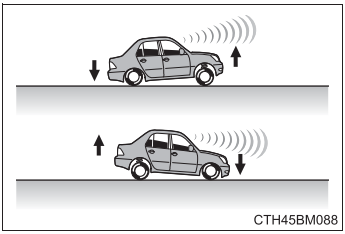

CTH45BM118

・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからしばらくの間

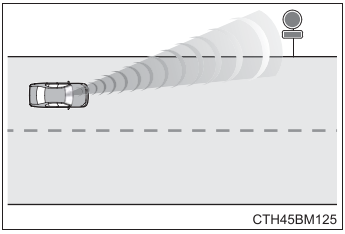
・自車が横すべりしているとき


CTH45BM087

・車両姿勢が変化しているとき


CTH45BM088

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方センサーの視界をさえぎっているとき
・ふらつき運転をしているとき
・過度な高速走行をしているとき
・きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
・先行車がレーザー波を反射しにくい状態のとき
・センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき


CTH45BM125

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・ぬれているなど)
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき

■PCS　警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

●次のときは、状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

・炎天下に駐車したあとなど、前方センサー周辺の温度が高いとき
・フロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりしているとき (→ P. 234)
・極寒の環境などで、前方センサーや前方センサー周辺の温度が低いとき
・ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方センサー付近にシールが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき

●PCS 警告灯が点滅したままのとき、および警告メッセージが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■VSC を停止したとき

●TRC と VSC の作動を停止 (→ P. 222) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、衝突警報は作動します。

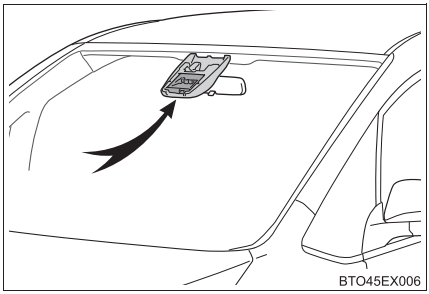
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

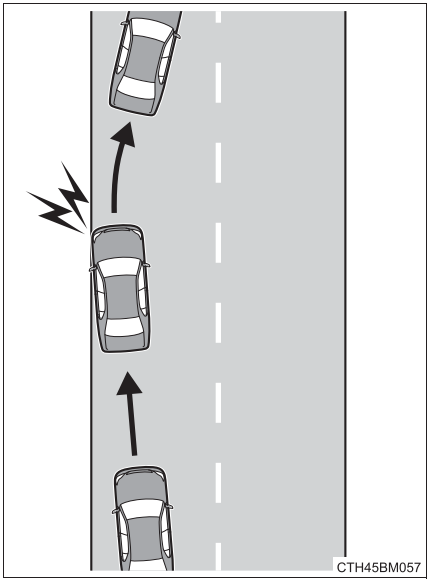
LDA は、フロントウインドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注 意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**誤作動を防ぐために**

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF してください。

■**LDA の故障、または誤作動を防ぐために**

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

設定のしかた

LDA を使用するには LDA スイッチを押す

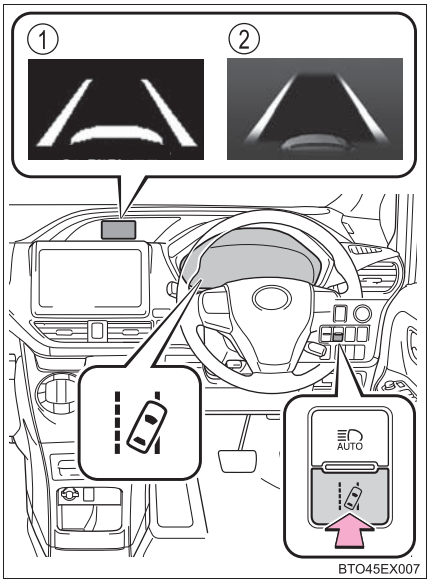
① タイプ A

② タイプ B

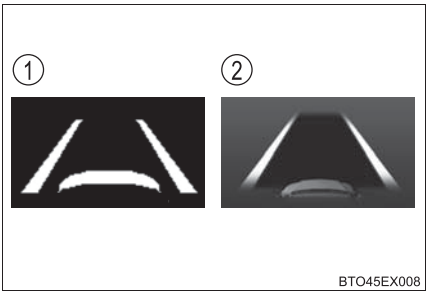
メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

OFF にするには再度 LDA スイッチを押します。

いったん LDA を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示

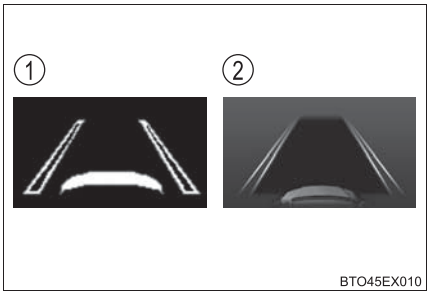


白線表示の内側が白いとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。

① タイプ A

② タイプ B



白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

① タイプ A

② タイプ B

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LDA を ON にしているとき

●車速が約 50km/h 以上のとき

●システムが白（黄）線を認識しているとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき

●システムの異常が検知されていないとき（→ P. 317）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 203）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 183）の温度 が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■**警告メッセージ**

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→P. 322）

警告メッセージが表示されても、通常の走行に支障はありません。

■**カスタマイズ機能**

→ P. 72

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

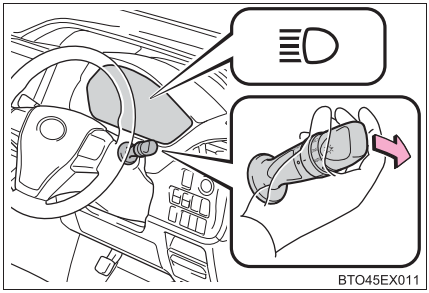
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

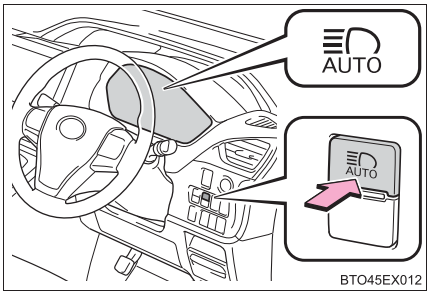
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO ★または ≡D にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

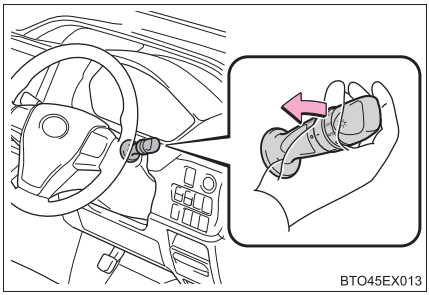
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

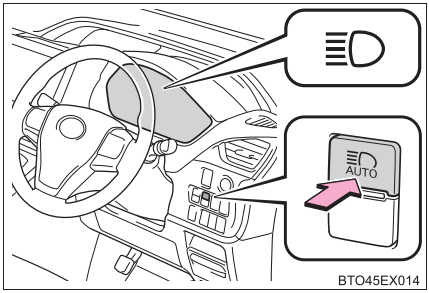


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方センサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
・前方センサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

先行車発進告知機能★

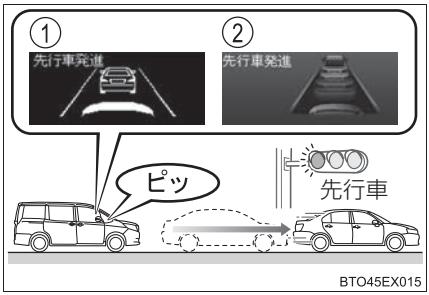
先行車の発進後、自車が停車し続けた場合、警告ブザーと表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停車しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停車し続けた場合にお知らせします。

① タイプ A

② タイプ B



知識

■作動条件

シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで停車している、またはシフトレバーが N で停車しているとき

■先行車が発進していても先行車発進告知機能が作動しないおそれのある状況

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、先行車発進告知機能が正常に作動しないおそれがあります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）により、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車が二輪車のとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 先行車を認識できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティシステムが一時的に使用できないときや、故障などにより PCS 警告灯が点滅しているとき
- ハンドルを大きくきっているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■先行車が発進していなくても先行車発進告知機能が作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、先行車発進告知機能が先行車が発進したと判断し、作動するおそれがあります。

●悪天候（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、間違った対象を先行車と認識しているとき

●前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、間違った対象を先行車と認識しているとき

●交差点を先頭で停車時、交差点の先の車両や正面を横切る車両などを先行車と認識したとき

●自車と先行車のあいだに、他の車両や歩行者などが割りこんだり通過したとき

■先行車発進告知機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 72）により、先行車発進告知機能を ON ／ OFF できます。

■先行車発進告知機能の告知タイミングを切りかえるには

マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 72）により、先行車発進告知機能の告知タイミングを変更することができます

Toyota Stop & Start System (SMART STOP) ★

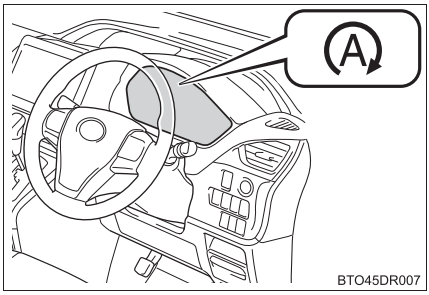
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

アイドリングストップが作動しているとき

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止する

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

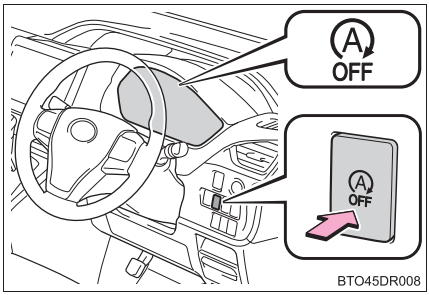
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはStop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。
  次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態にもどる）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・エンジンが十分暖まっているとき
・バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・ボンネットが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・シフトレバーが D または M のとき
・外気温が -5 ℃以上のとき
・ハンドル操作をしていないとき
・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・車内温度が高いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき、および定期的な充電中
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・消費電力が大きいとき
・標高が高いとき
・外気温度が低いとき
・ハンドル操作をしているとき
・運転席シートベルト非装着時
・運転席ドアが開いているとき
・ボンネットが開いているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。

・ポンピングブレーキをする、またはブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
・エアコンを使用しているとき、またはオンにしたとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき
・傾斜などで車両が動き出したとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・消費電力が大きいとき
・運転席ドアを開けたとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・ハンドル操作をしたとき

●次の状況では、Stop & Start システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。

・バッテリーが放電しているとき
・バッテリー交換などにより、バッテリー端子をはずしたあと
・エンジン冷却水温が低いとき

■Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上経過してからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、Stop & Start システムを保護するためにオーディオを自動的にオフにする場合があります。
そのような状態になった場合は、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上経過してからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすることによってオーディオを再開させてください。

●バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。
この場合には、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が正常に作動できます。

・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチをイグニッション OFF にする

■ボンネットを開けたときは

Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■坂道発進補助機能について

●勾配が急な上り坂では、坂道発進補助機能が解除されたあと、車両が後退することがあります。このような場所では、パーキングブレーキをかけたり、ブレーキペダルを操作して発進してください。

●坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏力がかわる場合がありますが、異常ではありません。

■Stop & Start システムについて

Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■Stop & Start システムの警告メッセージ・警告ブザーについて

システムが作動できないときや、キャンセルされたときや、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。
（→ P. 62, 324, 325）

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がオフになり、送風または無風になります。エアコンがオフにならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押してエンジンを再始動してください。そしてエアコンの を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 211

■バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。同等の性能のものと交換してください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

●運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはインテリアランプのスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯するとき

●運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはインテリアランプスイッチがドアポジションのときにインテリアランプが点灯しないとき

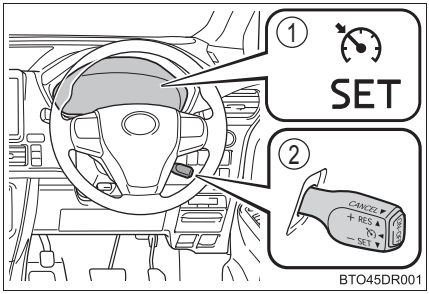
クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

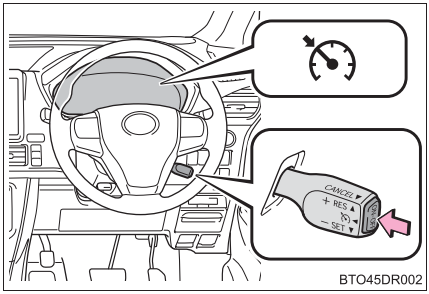


速度を設定する

1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

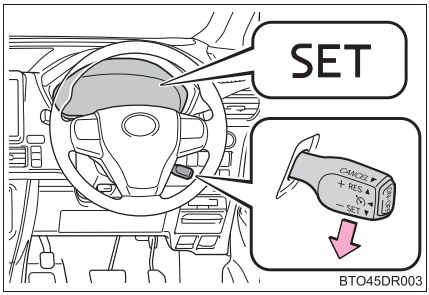
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

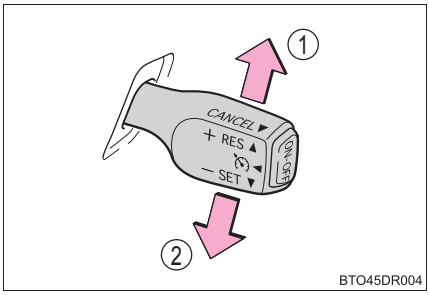
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する



設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

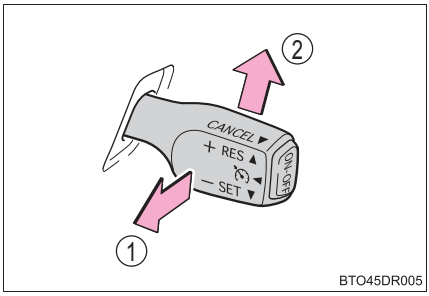
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON/OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●一般道（高速道路や自動車専用道以外）

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（Steering-assisted Vehicle Stability Control）

ABS、TRC、VSC 、EPS とアクティブトルクコントロール 4WD★を協調して制御します。すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 坂道発進補助機能★

坂道での発進性を補助するため、駆動力が発生するまでのあいだブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制し、坂道発進を容易にします。（→ P. 212）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 187

◆ 緊急ブレーキシグナル

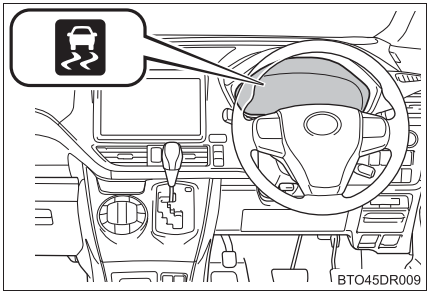
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ S-VSC 協調制御付アクティブトルクコントロール 4WD ★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性の確保に貢献します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

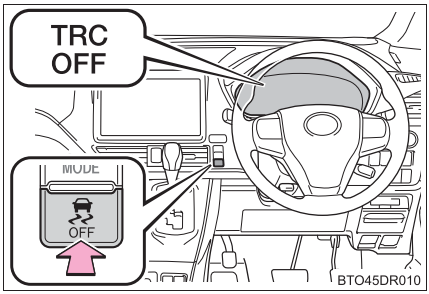
TRC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



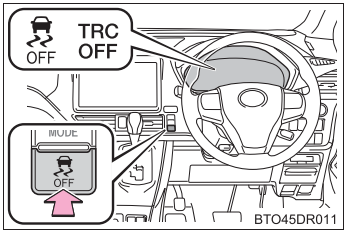
知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF を押し 3 秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、TRC OFF 表示灯が点灯します。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。（→ P. 199）

■VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときは作動可能状態にもどります。

●エンジンスイッチを“LOCK”★、または OFF★にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。しばらくすると、もとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC、VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■**タイヤを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 379）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 276）

  ※ G's を除く

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキをかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※1 をしてください。
  輪止めをしないと、車両が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2 を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

▶G's を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

▶G's

この車にはタイヤチェーンは使用できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（G's を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について（G's を除く）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
フロントウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内装備・機能 5

5-1. エアコンの使い方

フロントエアコン 232

リヤエアコン
（リヤエアコン装着車）..... 239

リヤクーラー
（リヤクーラー装着車）..... 243

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 246

・インテリアランプ 247

・パーソナルランプ 247

・インテリアランプ
（中央／うしろ）..... 247

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....249

・グローブボックス.....250

・カップホルダー／
ボトルホルダー.....250

・小物入れ 253

・助手席シートバック
ティッシュポケット.....254

ラゲージルーム内装備 255

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....257

・サンバイザー 257

・バニティミラー.....257

・時計 257

・アクセサリーソケット.....258

・アームレスト 259

・買い物フック 260

・アシストグリップ.....261

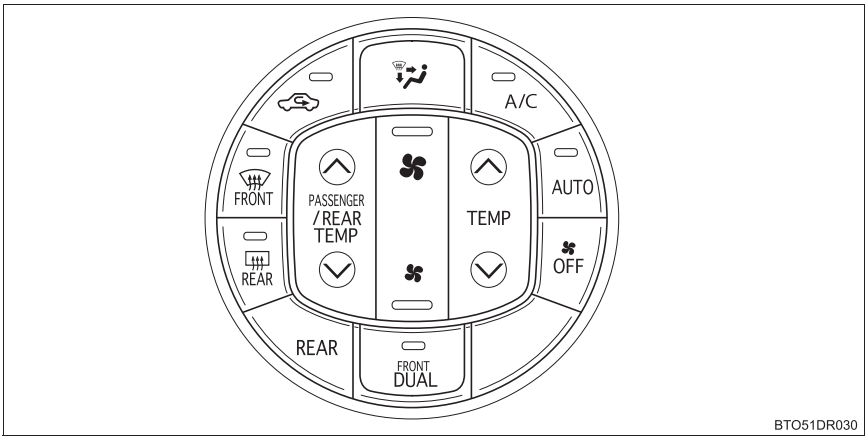
・後席用
サンシェード 262

・ステアリングスイッチ.....262

フロントエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

フロントエアコン操作スイッチについて



■ **温度を調整する**

設定温度を上げるときは の∧を、下げるときは∨を押す

■ **風量を切りかえる**

風量を増やすには：を押す

風量を減らすには：を押す

■ **吹き出し口を切りかえる**

を押す

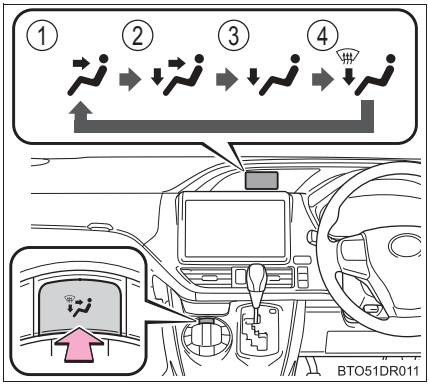
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



■ **その他の機能**

● 内気循環／外気導入を切りかえる (→ P. 233)

● フロントウインドウガラスの曇りを取る (→ P. 234)

● リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜を取る (→ P. 234)

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの

を押す

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、

を押す

■ **オート設定時の作動表示灯について**

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ **運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）**

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

● エアコン操作パネルの

を押す

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

● 助手席の設定温度を変更する

その他の機能

■ **内気循環／外気導入を切りかえるには**

内気循環に切りかえるには、
を押す

スイッチの作動表示灯が点灯します。

外気導入に切りかえるには、もう 1 回スイッチを押す

スイッチの作動表示灯が消灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

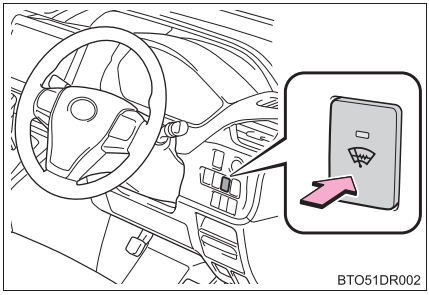
リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。



ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

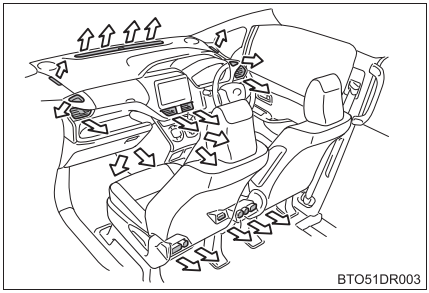
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

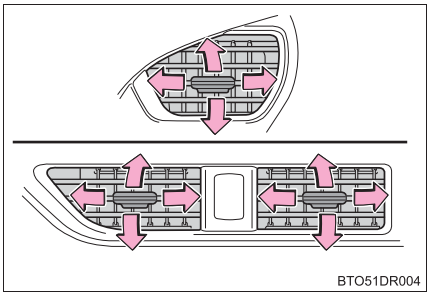
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

風向きの調整

風向きを外側いっぱいに“カチッ”と音がする位置まで調整すると、吹き出し口を閉じることができます。（インパネ左右の吹き出し口のみ）



知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、

を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、

を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●

を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき

を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」※1 について★

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席外側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内をさわやかな空気環境に導きます※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が、または のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 282

■ステアリングスイッチによるフロントエアコンの設定について

→ P. 69

■設定可能な機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

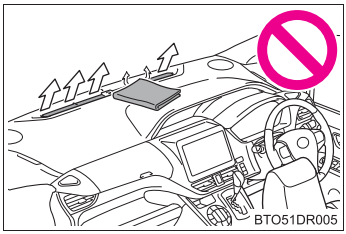
警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

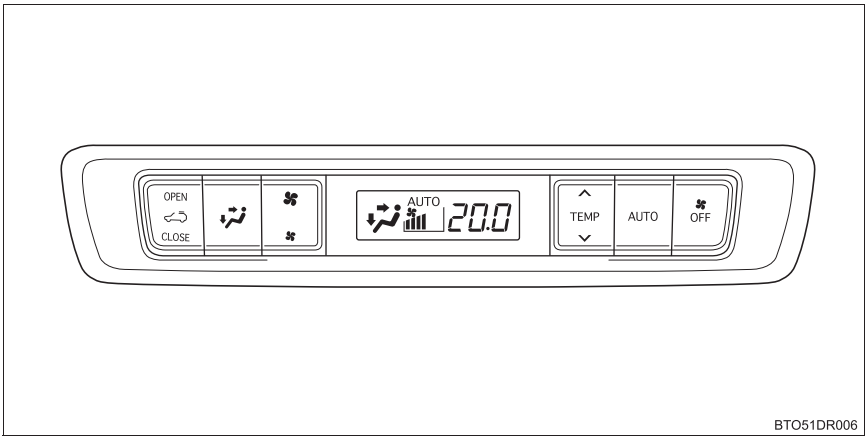
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコン（リヤエアコン装着車）

リヤエアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには：✤ を押す

風量を減らすには：✤ を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

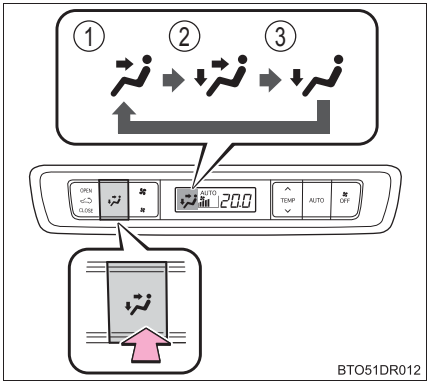
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

マルチインフォメーションディスプレイも同様に表示します。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風



オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO を押す

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF を押す

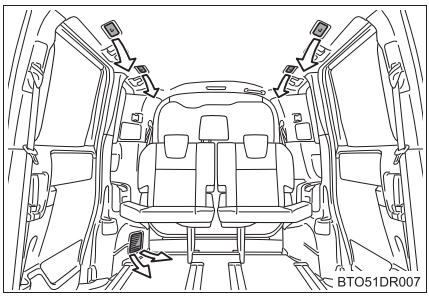
■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO 表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

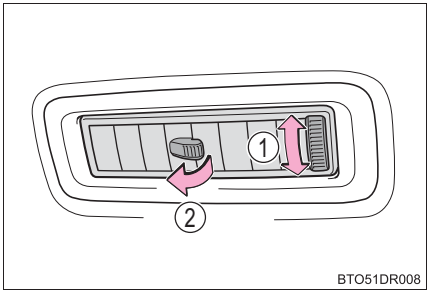


■ **風向きの調整と吹き出し口の開閉**

① 風向きの調整

② 風向きの調整と吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側に調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



知識

■ **フロントメインスイッチについて**

フロントエアコン操作部の REAR を押すことにより、フロント席からリヤエアコンの操作ができます。

●設定温度を上げるときは PASSENGER / REAR TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

●風量を増やすには を、減らすには を押す

●吹き出し口を切りかえるときは を押す

●オート設定で使用するときは AUTO を、ファンを止めたいときは OFF を押す

フロントエアコン操作部の REAR を押したあと、10 秒以上操作が行われなかったときは、リヤエアコンの操作が解除されます。

■ **リヤエアコンの作動条件について**

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●リヤエアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ステアリングスイッチによるリヤエアコンの設定について

→ P. 69

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

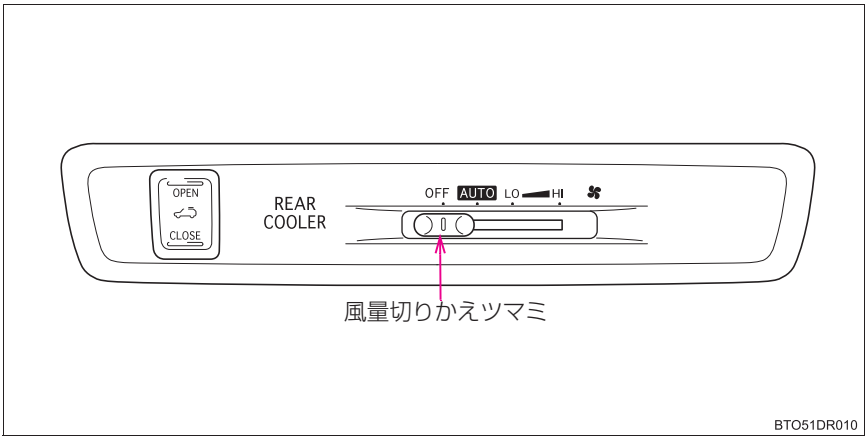
■吹き出し口について

暖房で使用するときは、次のことに注意してください。

●吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

リヤクーラー（リヤクーラー装着車）

リヤクーラー操作スイッチについて



■ 風量をかえる

▶ 手動設定

1 フロントエアコン操作部の REAR を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON・OFF が切りかわります。

2 風量切りかえツマミを右（増）か左（減）へ動かす

フロントエアコン操作部の REAR を押す、または風量切りかえツマミを OFF にすることでリヤクーラーの作動を停止できます。

風量は 3 段階に調整できます。

▶ 自動設定

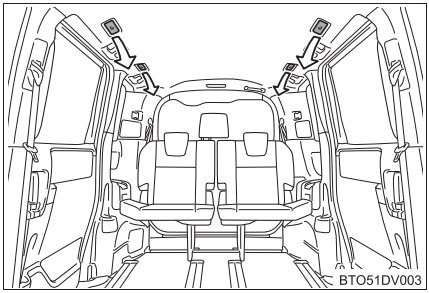
1 フロントエアコン操作部の REAR を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON・OFF が切りかわります。

2 風量切りかえツマミを AUTO へ動かす

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

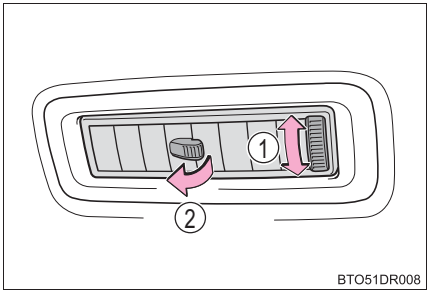


■ 風向きの調整と吹き出し口の位置

① 風向きの調整

② 風向きの調整と吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側に調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



知識

■ リヤクーラー AUTO でのご使用について

AUTO でのリヤクーラーの風量は、フロントエアコンの温度設定によってかわります。

■ リヤクーラーの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房機能は作動せず、送風のみになります。

■ 換気とリヤクーラーの臭いについて

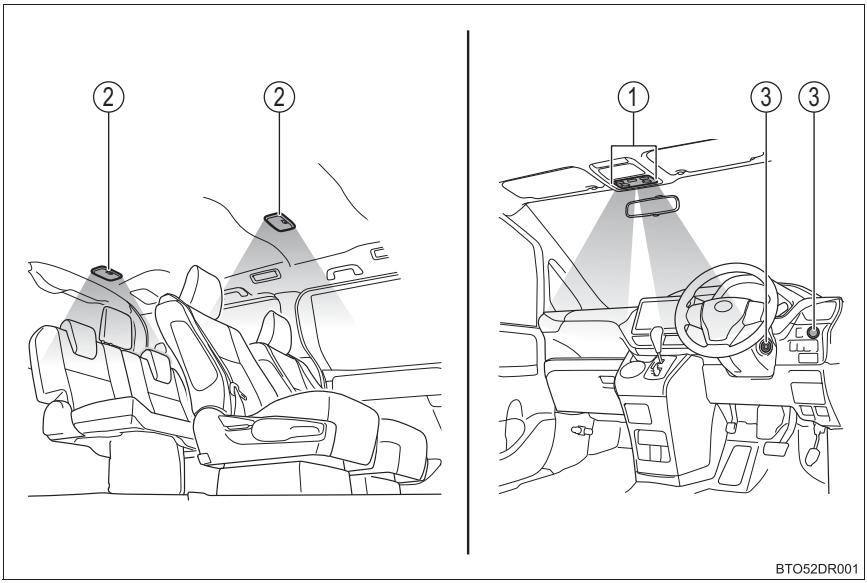
- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- リヤクーラー使用中に、車室内外のさまざまな臭いがリヤクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- リヤクーラー始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

注意

■**バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中はリヤクーラーを使用しないでください。

室内灯一覧



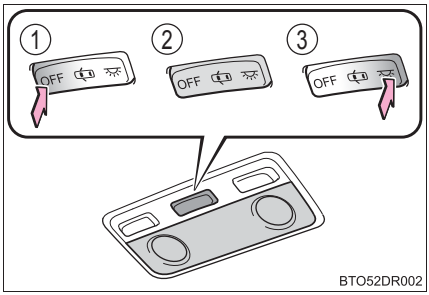
① インテリアランプ／パーソナルランプ （→P. 247）

② インテリアランプ（中央／うしろ） （→P. 247）

③ エンジンスイッチ照明

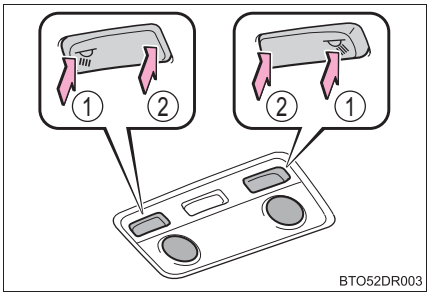
インテリアランプ

① ランプを消灯する
② ドアポジション（ドア連動）
③ ランプを点灯する



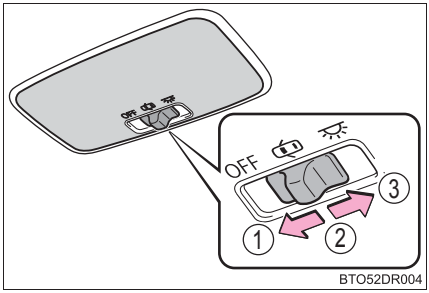
パーソナルランプ

① ランプを点灯する
② ランプを消灯する



インテリアランプ（中央／うしろ）

① ランプを消灯する
② ドアポジション（ドア連動）
③ ランプを点灯する



知識

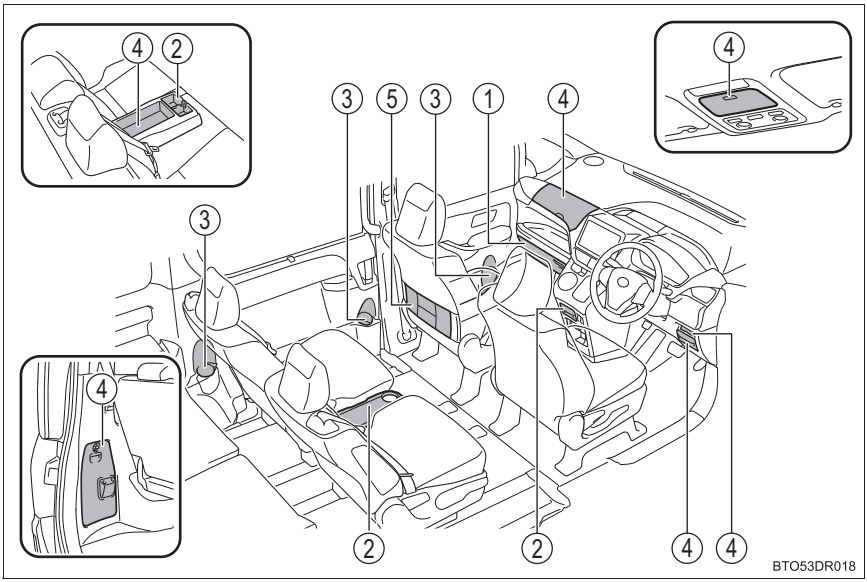
- ランプスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）／位置（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）により各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチが OFF で室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 382）

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



① グローブボックス （→ P. 250）

② カップホルダー （→ P. 250）

③ ボトルホルダー （→ P. 250）

④ 小物入れ （→ P. 253）

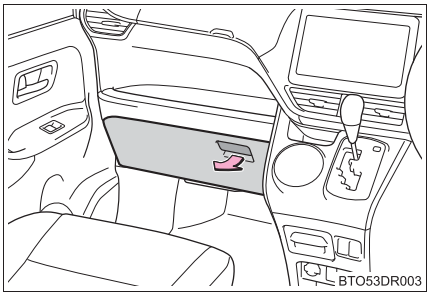
⑤ 助手席シートバックティッシュポケット （→ P. 254）

警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

レバーを引いて開ける



カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

▶ フロントシート

カップホルダーを引き出す

小物入れおよびカップホルダーは 2 段階に引くことができます。

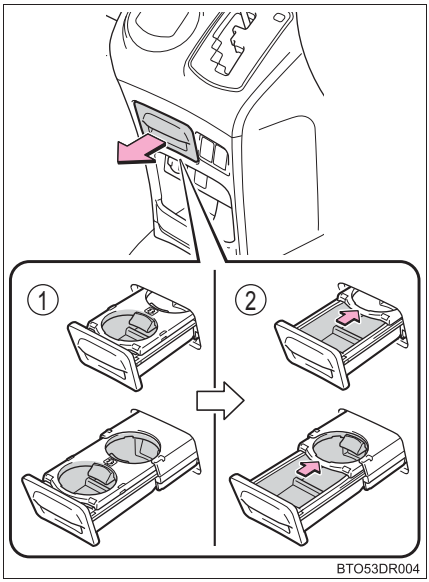
① カップホルダー

② 小物入れ

カップホルダーを格納します

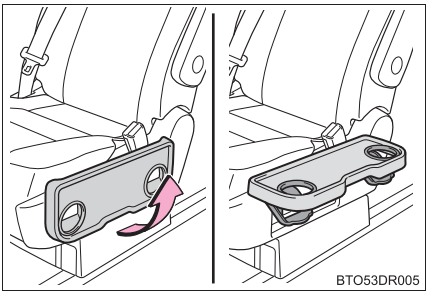
1L の紙パックは倒れるおそれがあるため置かないでください。500mL の紙パックは置くことができます。

センターロアボックスの USB ／ AUX 端子★については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



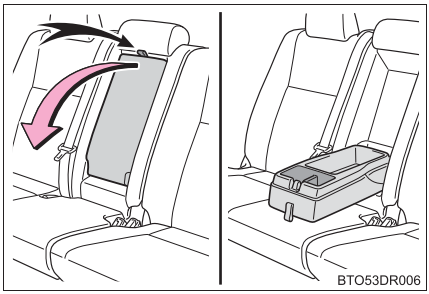
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ セカンドシート（7 人乗り車）



折りたたみ式サイドテーブルを引き起こす

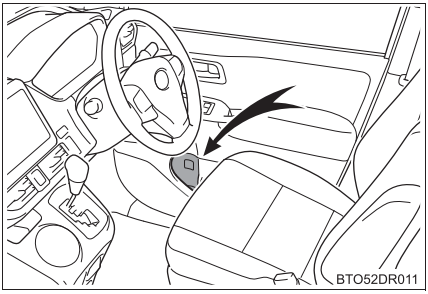
▶ セカンドシート（8 人乗り車）



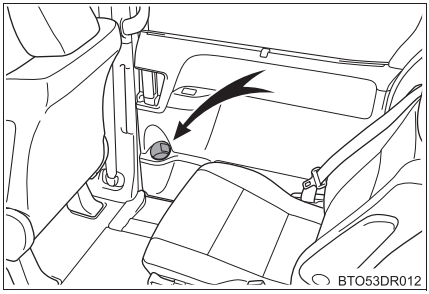
格納式センターボックスを倒して使用する

■ ボトルホルダー

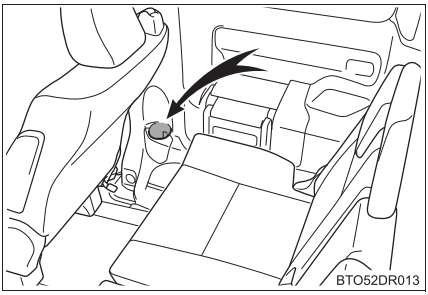
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート



知識

■7 人乗り車のセカンドシートカップホルダーを使用するときは

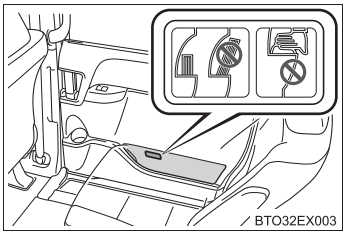
セカンドシートの左右位置が外側にあるときに使用できます。

警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- 折りたたみ式サイドテーブルを使用しているときは、3kg以上のものを置かないでください。サイドテーブルが急に格納されたり破損してけがをするおそれがあります。（7 人乗り車）

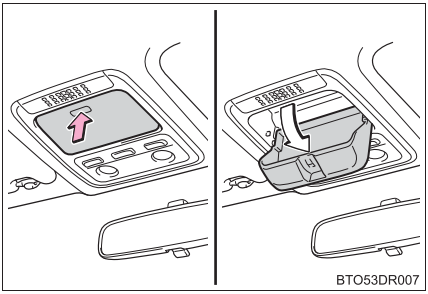
注意

- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- スライドドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりではなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷が付いたり、故障につながるおそれがあります。



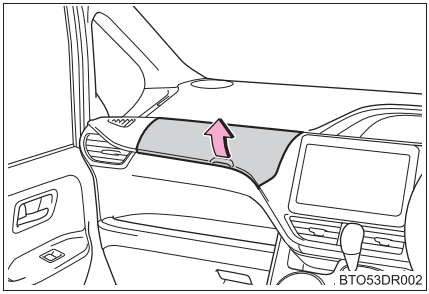
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール



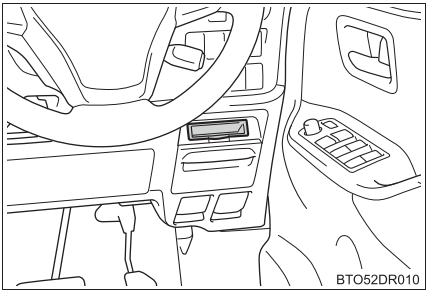
押して開ける

▶ 助手席アッパーボックス

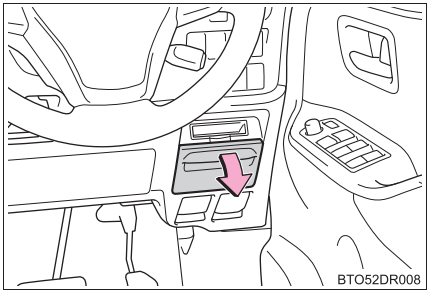


フタを開ける

▶ カードホルダー（ETC 非装着車）

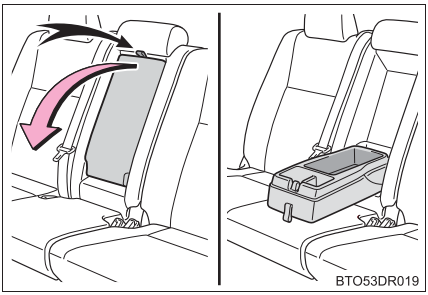


▶ 運転席ロアボックス



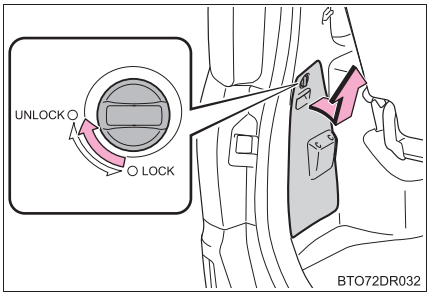
引いて開ける

▶ セカンドシート（8 人乗り車）



格納式センターボックスを倒して使用する

▶ ラゲージルーム小物入れ（応急用タイヤ装着車）



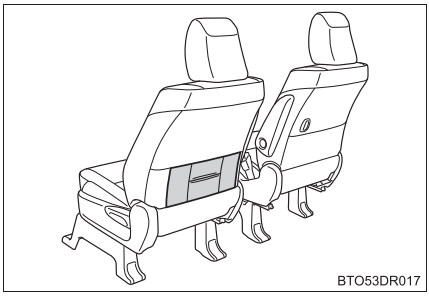
UNLOCK の位置で開ける

警告

- 走行中は小物入れを開けたままにしないでください。
  急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- オーバーヘッドコンソールに200ｇ以上のものを入れないでください。200ｇ以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

助手席シートバックティッシュポケット★

ファスナーを開ける

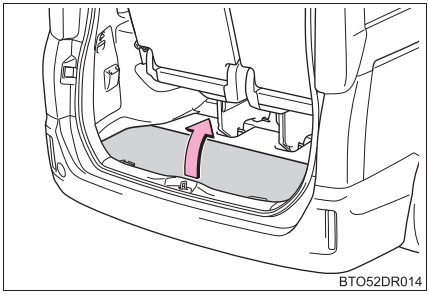


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

1 デッキボードを上げる



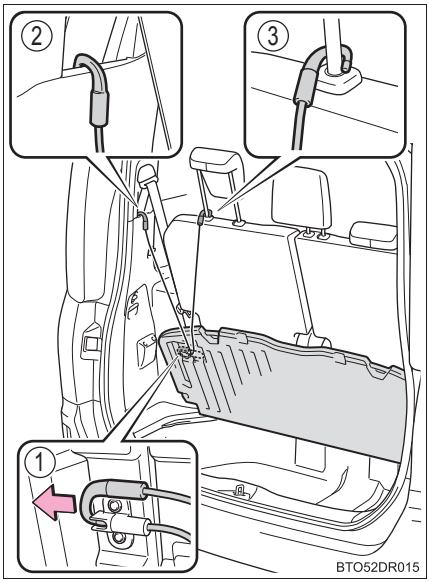
2 フックをかける

① フックを取りはずす

② デッキサイドにかける

③ ヘッドレストを上げて、ステーにかける

フックを②または③の位置にかけて固定してください。

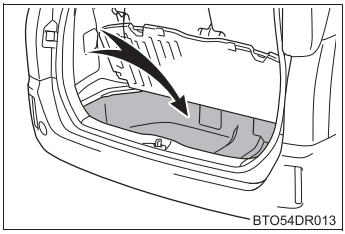


知識

■ラゲージボックスについて

ラゲージボックスに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさ、形によっては、収納できないことがあります。

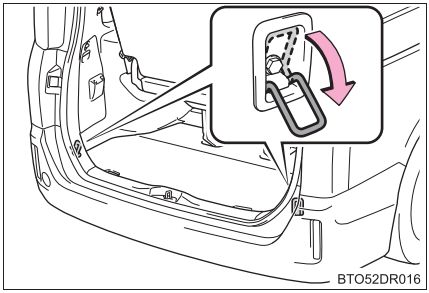


注意

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキフック

デッキフックを使って荷物を固定することができます。



警告

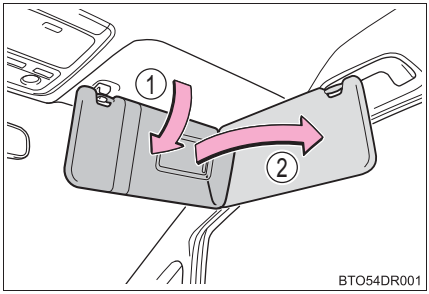
デッキフックは、必ずもとの位置にもどしておいてください。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

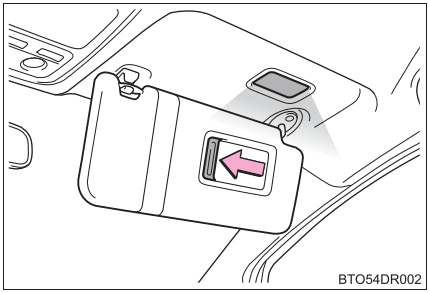
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。★



時計

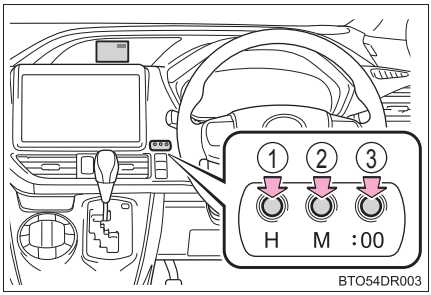
ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “時”を調整する

② “分”を調整する

③ “分”を 00 にする※

※（例）1：00～1：29→1：00
1：30～1：59→2：00



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

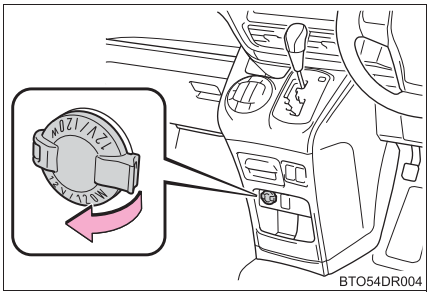
■ステアリングスイッチによる時刻調整

→ P. 69

アクセサリーソケット

ＤＣ12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

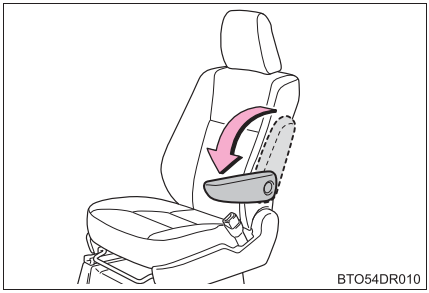
エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

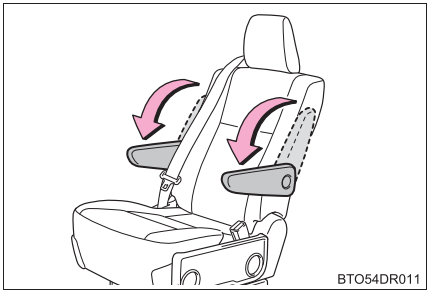
アームレスト★

▶ フロントシート



手前に倒して使用する

▶ セカンドシート（7 人乗り車）



手前に倒して使用する

知識

■アームレストの角度★

アームレストの角度を一段下げることができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

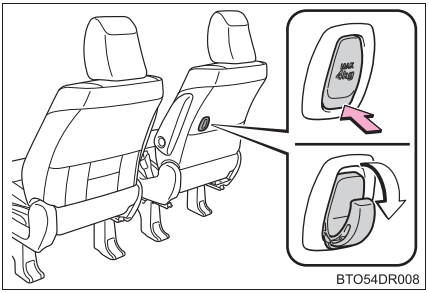
注意

アームレストの損傷を防ぐために、過度な負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

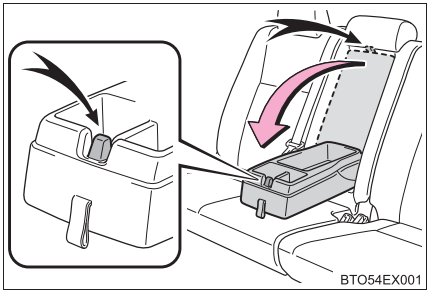
買い物フック

▶ 運転席シート



フックを引き起こす

▶ セカンドシート（8 人乗り車）



格納式センターボックスを倒して使用する

警告

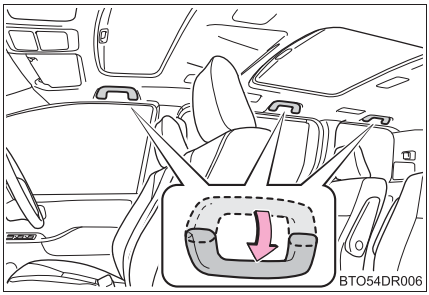
使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップ★

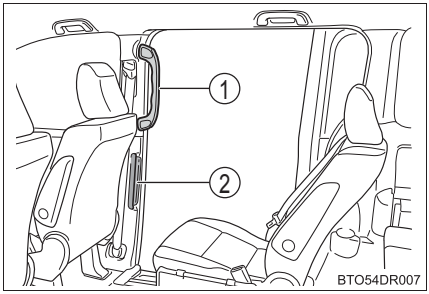
天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（大人用）

② アシストグリップ（子供用）



警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

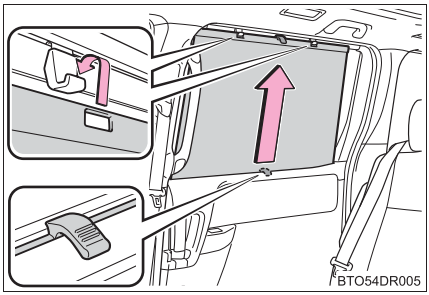
破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後席用サンシェード★

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける。

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。



⚠ 注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

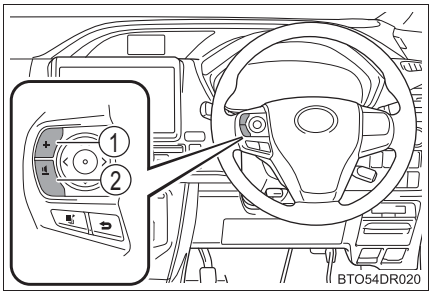
- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- 後席用サンシェードにものを貼らない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の各説明書をご覧ください。

① 音量を大きくする

② 音量を小さくする



⚠ 警告

事故を防ぐために、運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....264
内装の手入れ.....268
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 271
ガレージジャッキ.....273
ウォッシャー液の補充.....274
タイヤについて.....276
タイヤ空気圧について 280
エアコンフィルターの交換 ...282
キーの電池交換.....284
ヒューズの点検・交換.....287
電球（バルブ）の交換.....290

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
  - ・ドアミラーを格納する
  - ・パワースライドドア★を停止する（→ P. 92）

  走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 108）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レインクリアリングミラー★の親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 132）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

4 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

●フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

●フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 33)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

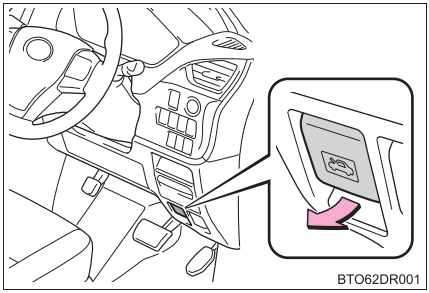
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

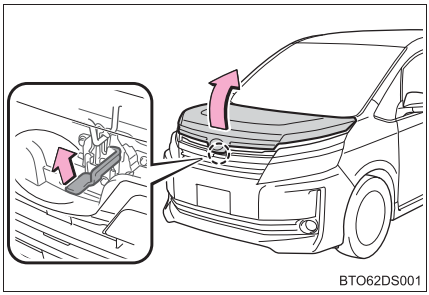
■ 開け方

1 ボンネット解除レバーを引く

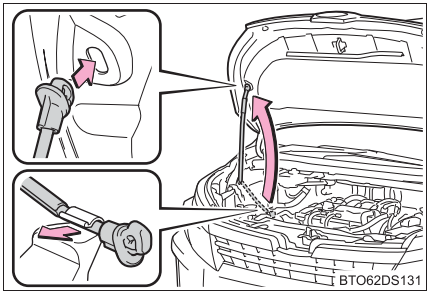
ボンネットが少し浮き上がります。


BTO62DR001

2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける


BTO62DS001

3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む


BTO62DS131

■ 閉め方

1 ボンネットステーをはずす

2 ボンネットを約 20 ～ 25cm の位置から静かに落として閉める

3 ロックされていることを確認する

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

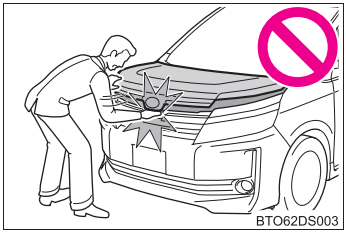
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

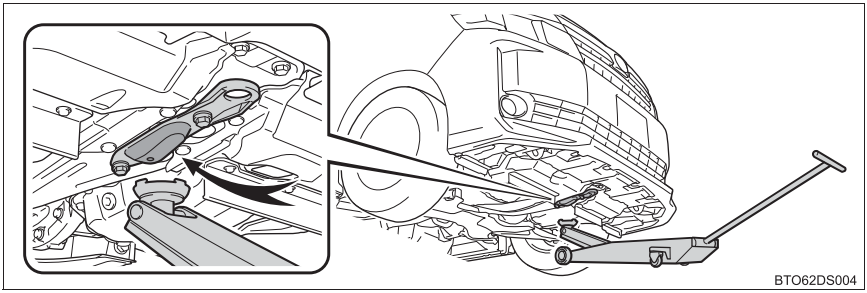
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

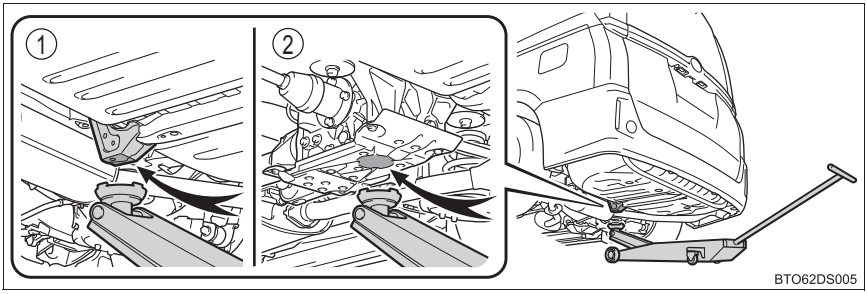
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側



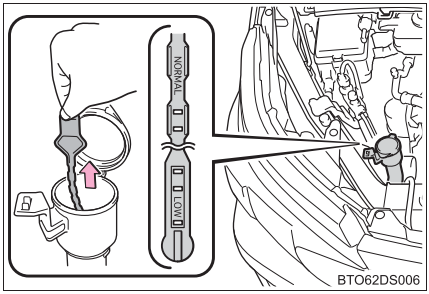
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

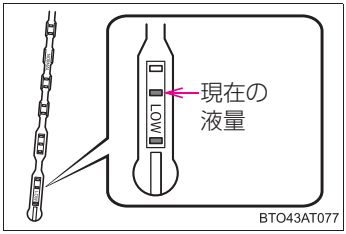
液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充してください。



知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下回った（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

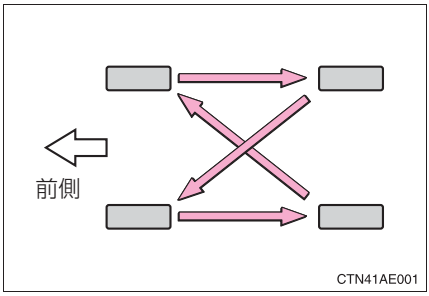
  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタ定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

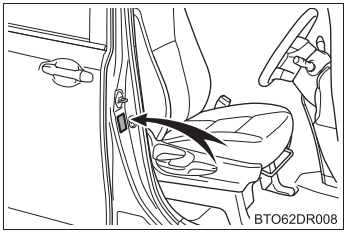
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
195/65R15 91S	240（2.4）	
205/60R16 92H	240（2.4）	
215/45R18 89W	240（2.4）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（215/45R18★）

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（215/45R18★）

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない
次のようなおそれがあります。

・ハンドルをきった際に、タイヤと車体が干渉する
・最低地上高が確保できない
・操縦安定性の悪化による横転事故
・ABS ／ VSC が正しく作動しない

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

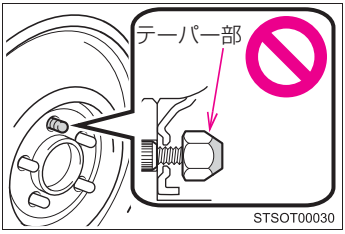
●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■低偏平タイヤについて（215/45R18★）

低偏平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●段差や凹凸のある路面、路上に開いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 379）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

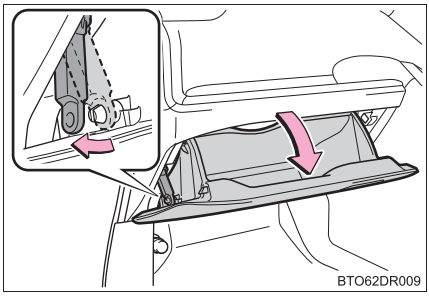
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

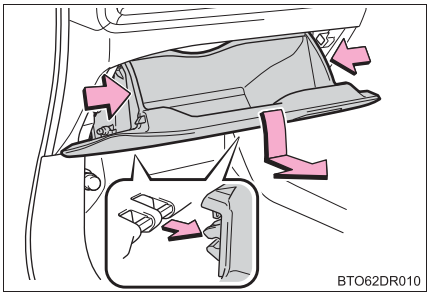
交換のしかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”★または“OFF”★にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす



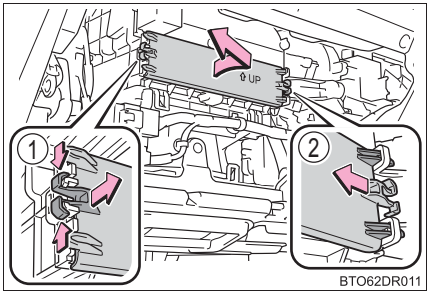
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす



4 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

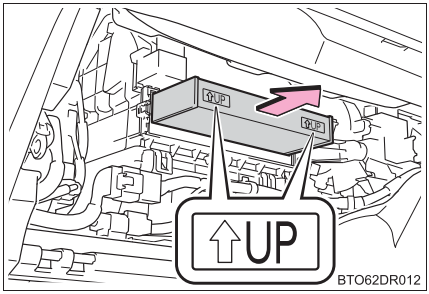
② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

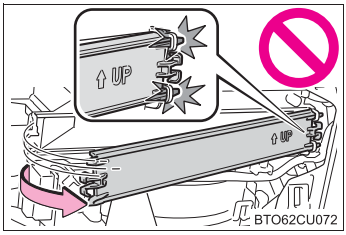
注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
  - ・CR2032（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

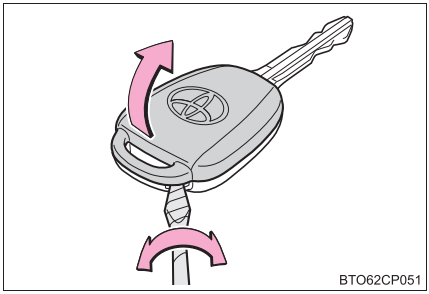
電池交換のしかた

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

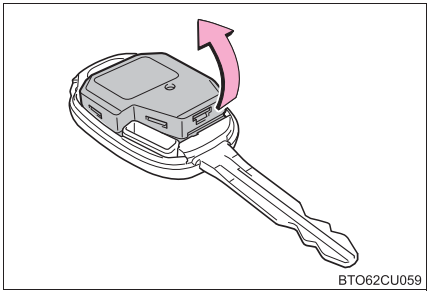
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

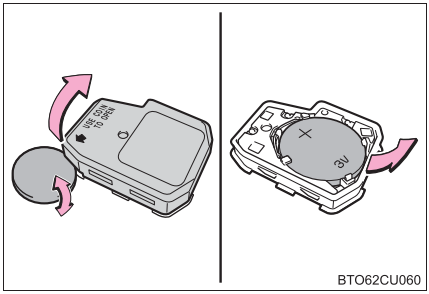

BTO62CP051

2 モジュールを取りはずす


BTO62CU059

3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

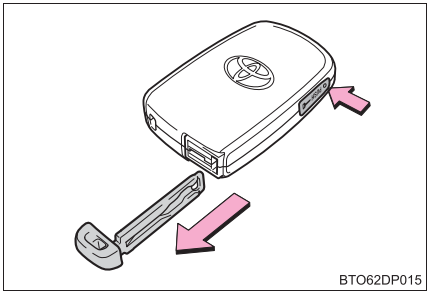


BTO62CU060

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

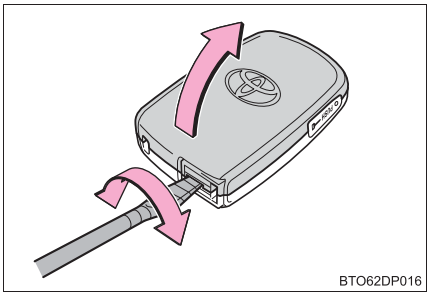
▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 メカニカルキーを抜く


BTO62DP015

2 カバーをはずす

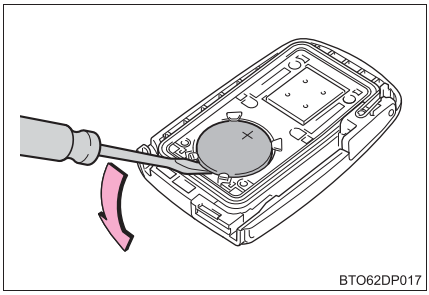
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO62DP016

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。


BTO62DP017

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：CR2016

●スマートエントリー＆スタートシステム装着車：CR2032

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

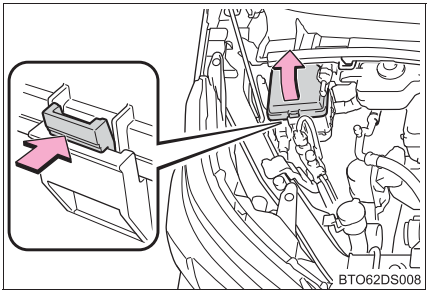
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

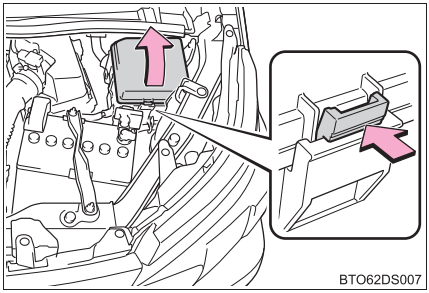
1 エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）



▶ エンジンルーム（2）

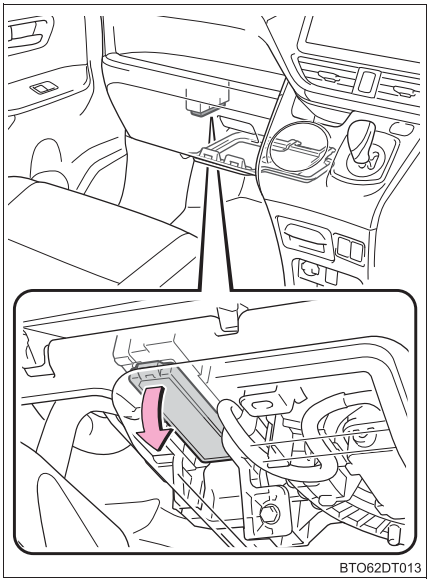


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

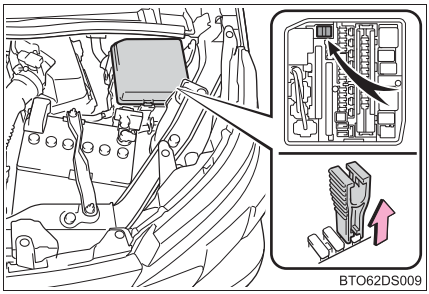
▶ 助手席足元

ヒューズボックスのカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

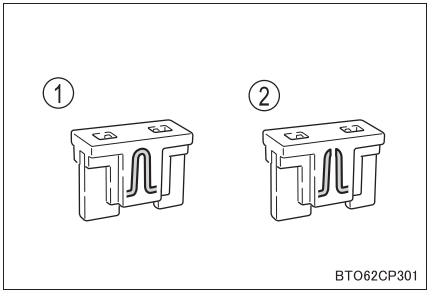


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 290）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

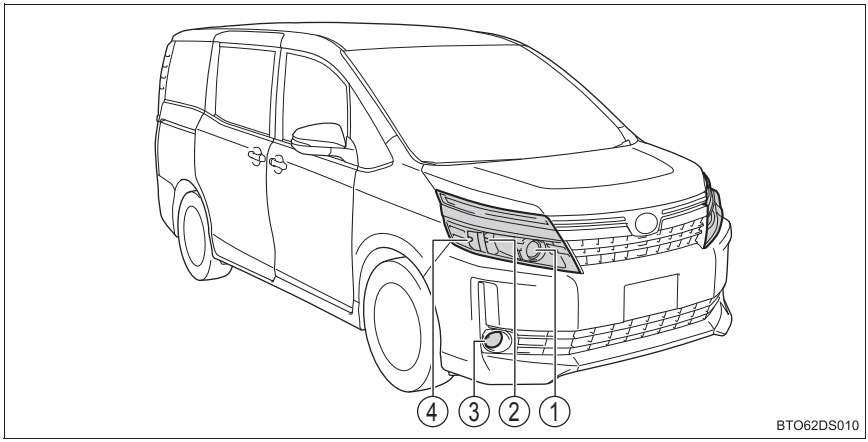
切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 380）

パワースライドドアの作動停止（パワースライドドア装着車）

→ P. 92

バルブ位置

■ フロント



① ヘッドランプロービーム（ハロゲンバルブ★）

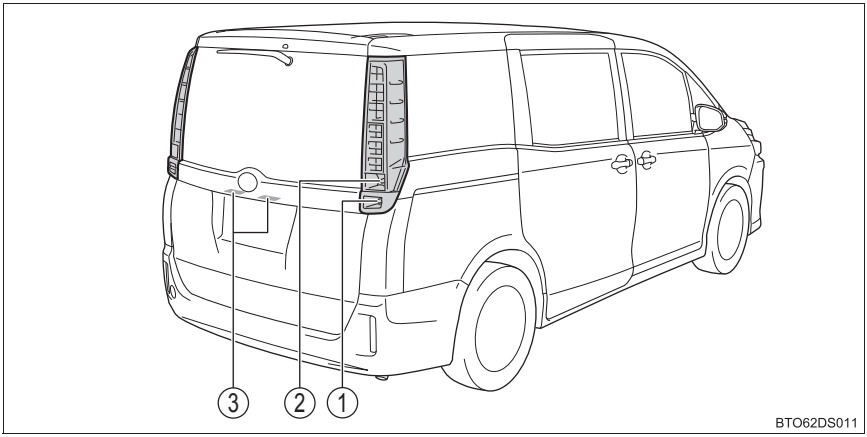
② ヘッドランプハイビーム

③ フロントフォグランプ★（バルブタイプ）

④ フロント方向指示灯／非常点滅灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤ



① 後退灯

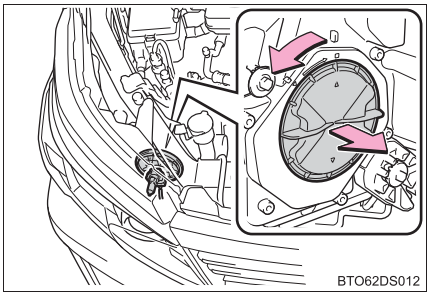
② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

③ 番号灯

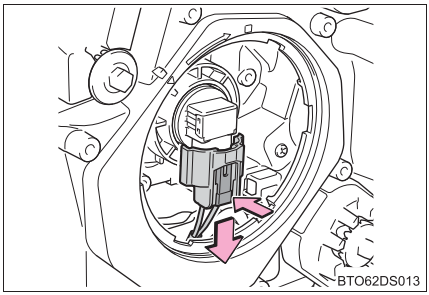
電球交換のしかた

■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

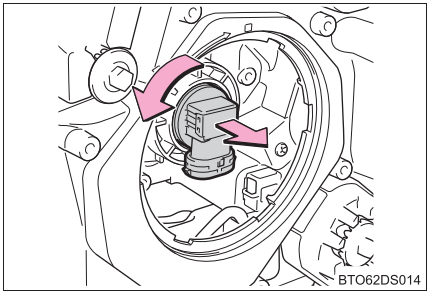
1 カバーを取りはずす



2 ツメを押し、コネクターを取りはずす

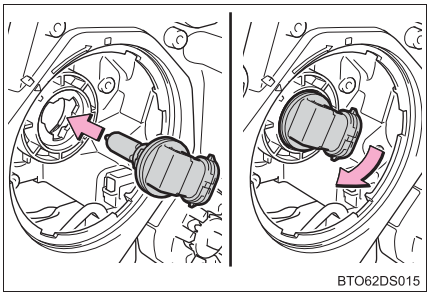


3 電球を取りはずす



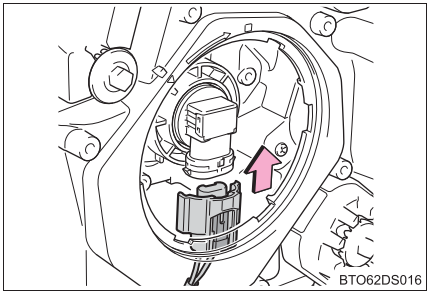
4 電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 箇所）をあわせて挿し込みます。

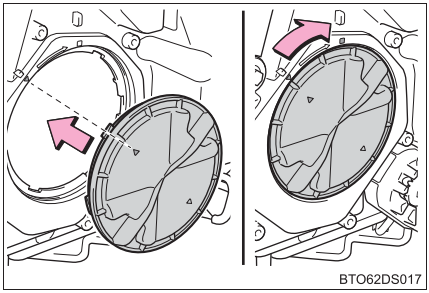


5 コネクターを取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

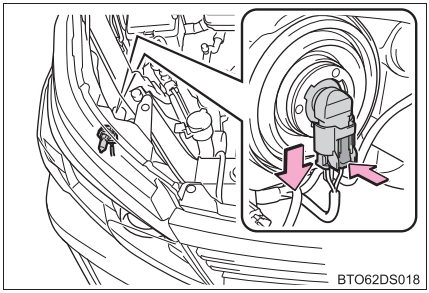


6 カバーを取り付ける

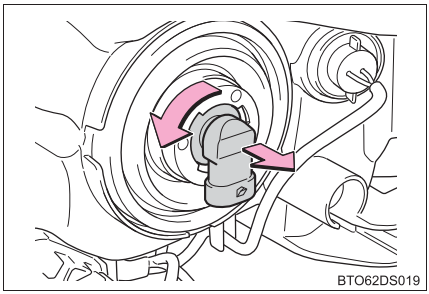


■ ヘッドランプハイビーム

1 ツメを押し、コネクターを取りはずす

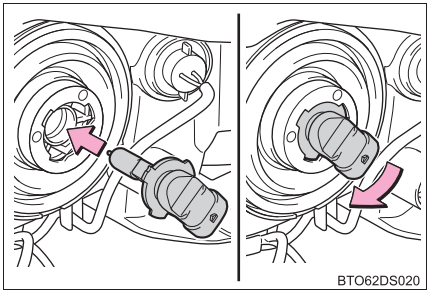


2 電球を取りはずす



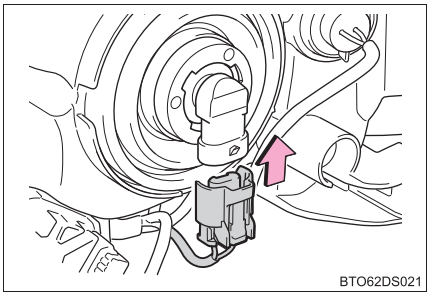
3 電球をまわして固定する

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。



4 コネクターを取り付ける

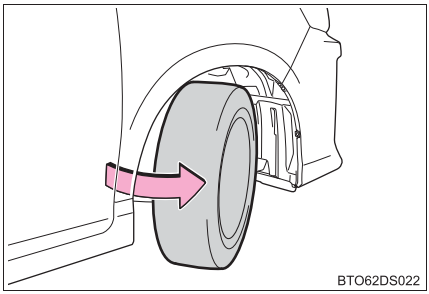
ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



■ フロントフォグランプ★（バルブタイプ）

1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。



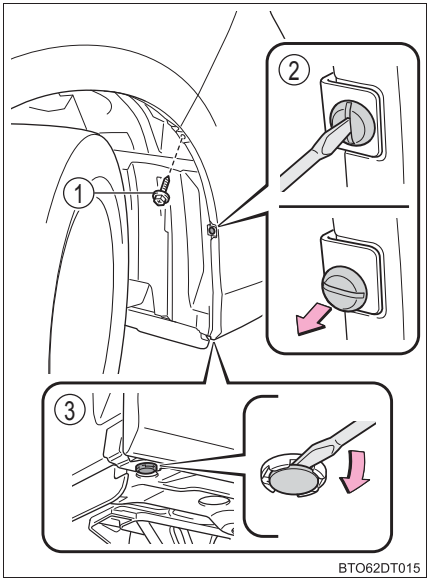
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 スクリューとクリップを取りはずす

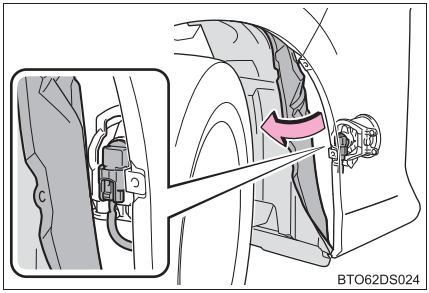
① スクリューをはずす

② マイナスドライバーで90度まわし、クリップを浮かし引き抜きます

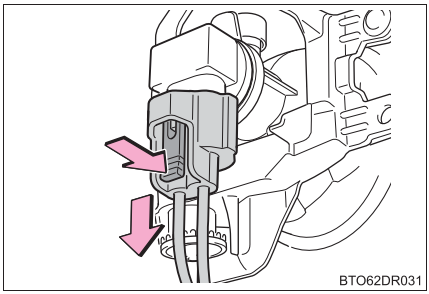
③ マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます



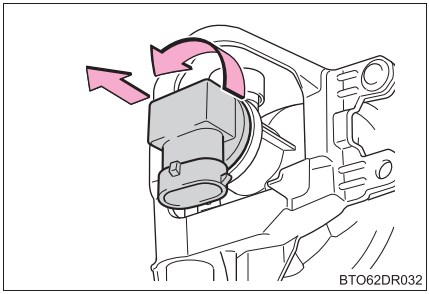
3 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる



4 ツメを押し、コネクターを取りはずす



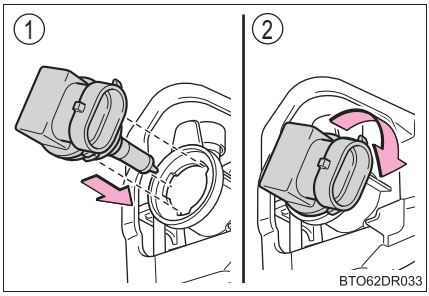
5 電球をまわして取りはずす



6 新しい電球を取り付ける

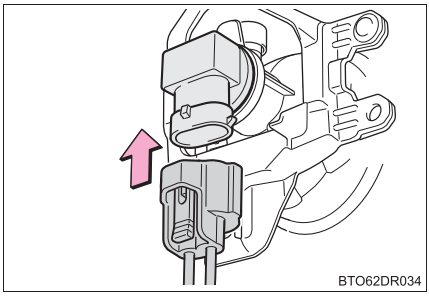
① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

② 電球を右にまわして固定します。



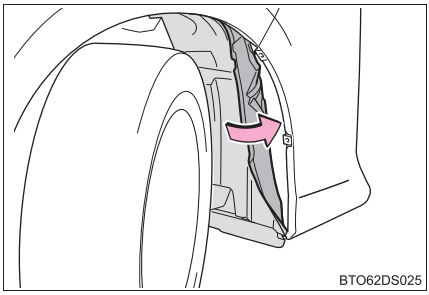
7 コネクターを取り付ける

コネクターを取り付けたあとは、いったんフロントフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



8 フェンダーライナーを取り付ける

フェンダーライナーをバンパーの内側に取り付けます。



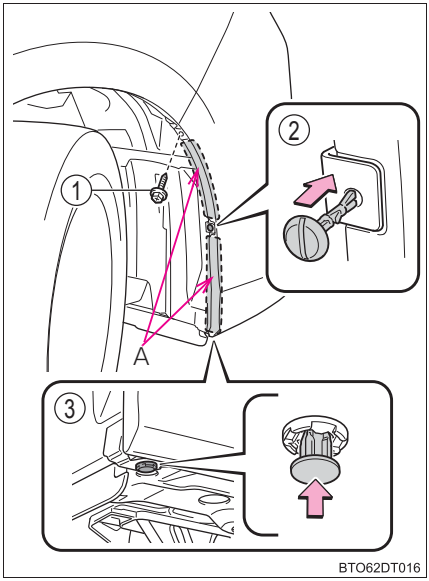
9 スクリューとクリップを取り付ける

フェンダーライナー（A 部）がバンパーの内側になっていることを確認してから取り付けてください。

① スクリューを取り付ける

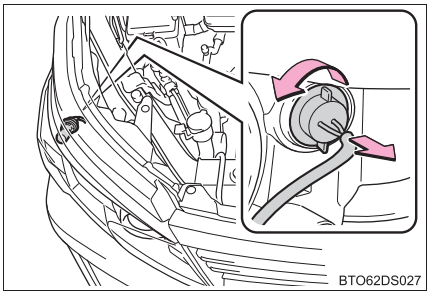
② クリップの溝を縦にして挿し込みます

③ 挿し込んでから中央部を押します

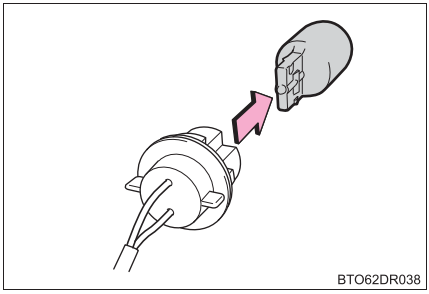


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

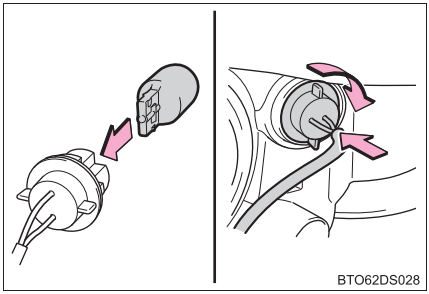
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす



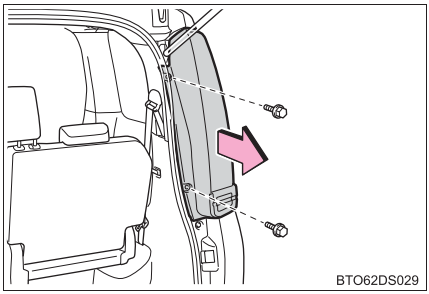
3 電球を取りつけ、ソケットをまわして取り付ける

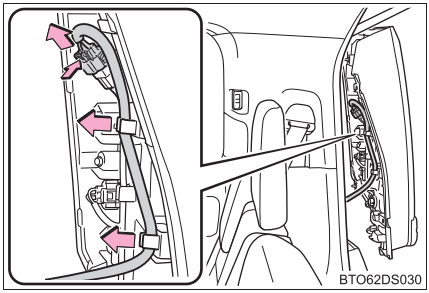


■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯、後退灯

1 バックドアを開け、ボルト（2本）をはずし、ランプ本体をはずす

ランプ本体につながっているコネクターおよび配線をはずしてください。

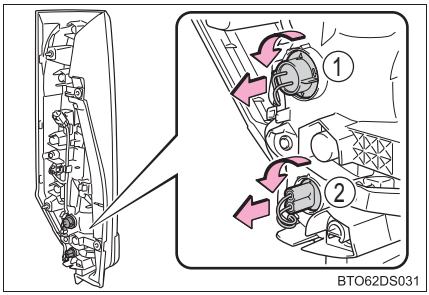




2 ソケットをまわして取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

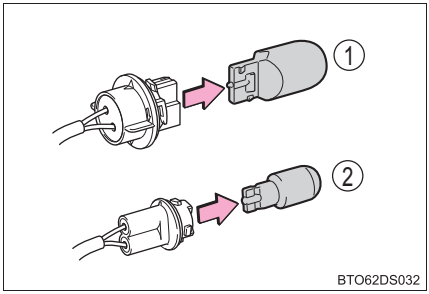
② 後退灯



3 電球を取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

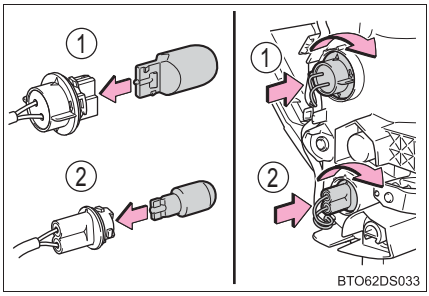
② 後退灯



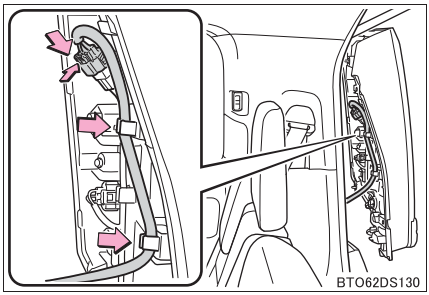
4 電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

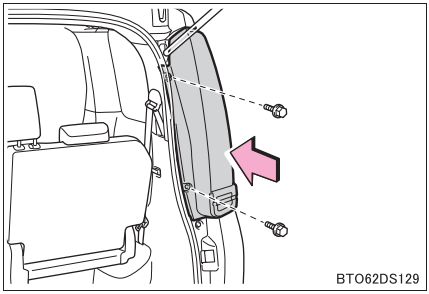
① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯



5 ランプ本体につながっているコネクターおよび配線を取り付け、ボルト 2 本でランプ本体を取り付ける





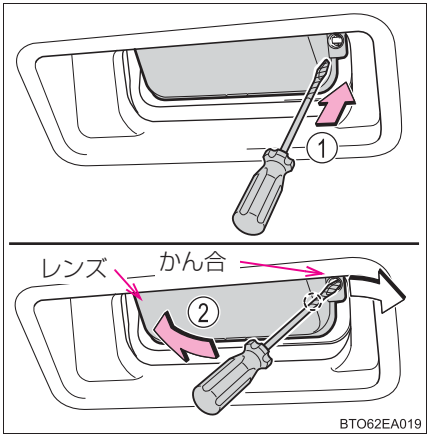
■ 番号灯

1 カバーを取りはずす

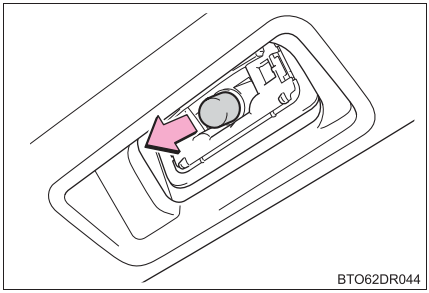
① 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

② 小さいマイナスドライバーを②の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

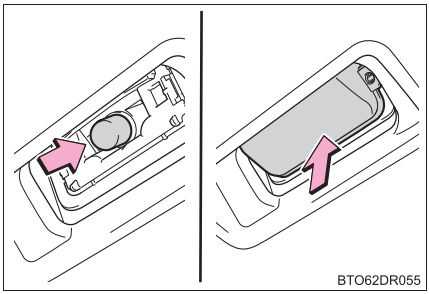
傷が付くのを防ぐために、マイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



3 電球を取り付け、カバーを取り付ける



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）
- フロントフォグランプ★（LED タイプ）
- LED イルミネーションビーム★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 車幅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

LED ヘッドランプロービーム（LED ヘッドランプ装着車）・フロントフォグランプ★（LED タイプ）・LED イルミネーションビーム★・サイド方向指示灯／非常点滅灯・車幅灯・尾灯・制動灯・ハイマウントストップランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 289

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....304

非常点滅灯
（ハザードランプ）.....305

発炎筒.....306

車両を緊急停止するには.....308

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....310

警告灯がついたときは.....317

警告メッセージが表示
されたときは.....321

パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....337

パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）.....348

エンジンが
かからないときは.....361

電子キーが正常に働かない
ときは（スマート
エントリー＆スタート
システム装着車）.....363

バッテリーが
あがったときは.....365

オーバーヒートしたときは...368

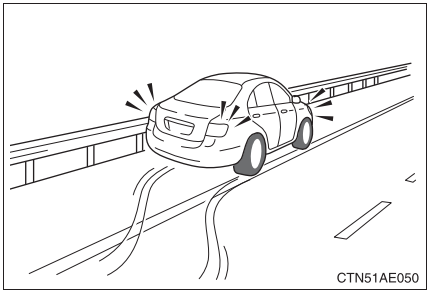
スタックしたときは.....371

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

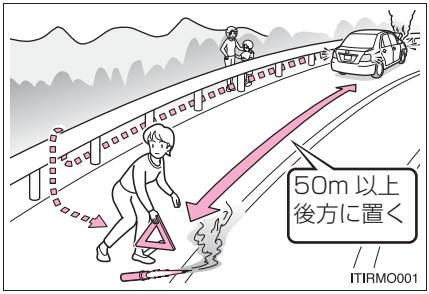
非常点滅灯（→ P. 305）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

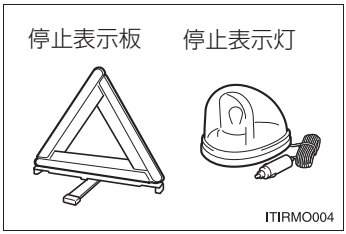
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 306）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

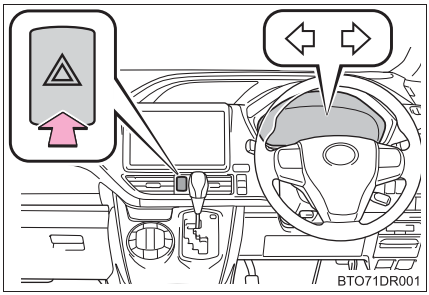


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

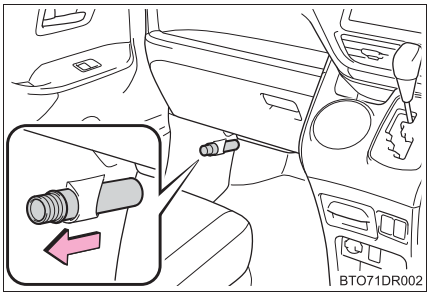
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

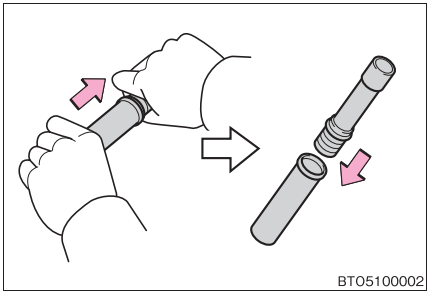
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

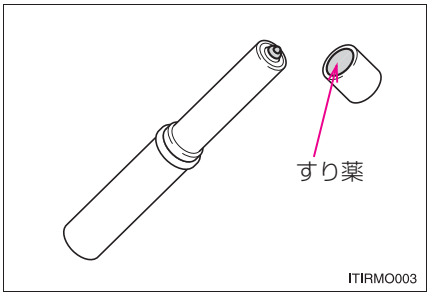


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

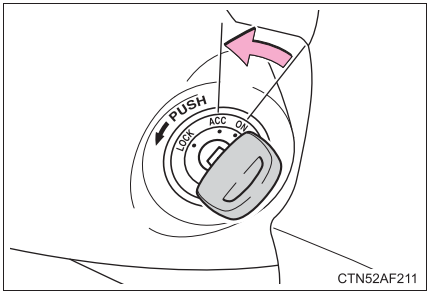
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

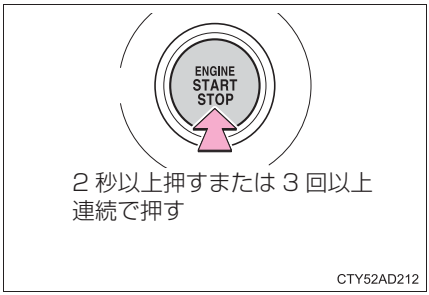
▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



スマートエントリー＆スタートシステム装着車：エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

●ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

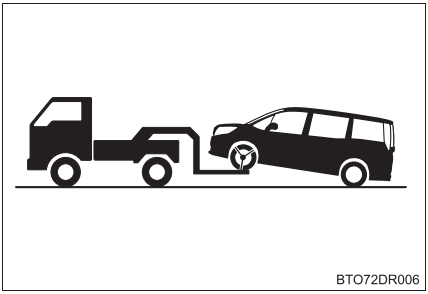
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

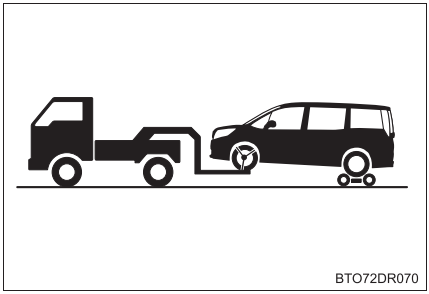
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



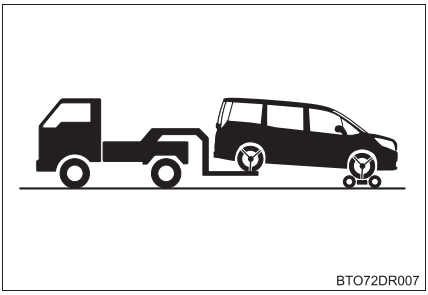
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

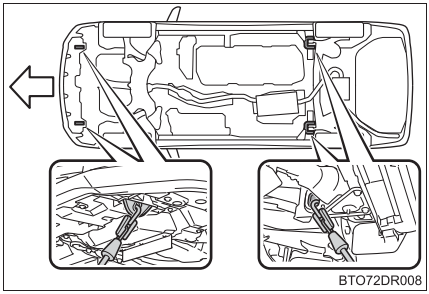
▶ うしろ向きにけん引するときは



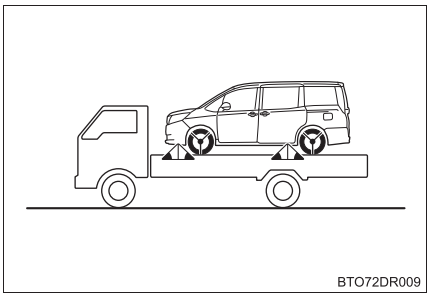
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



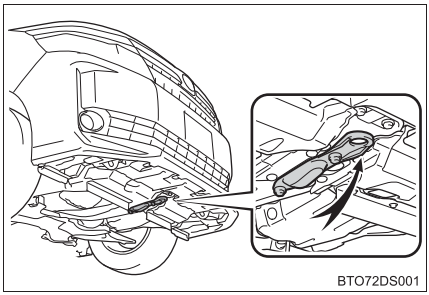
鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°になるように固縛する



他車にけん引してもらうとき

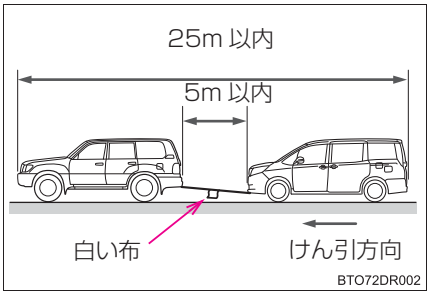
1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。



2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上



3 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 165

知識

■けん引フックの使用目的

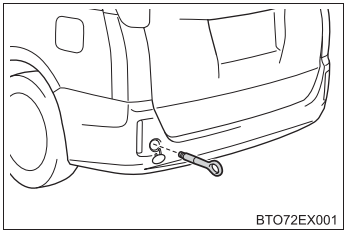
けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■輸送用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

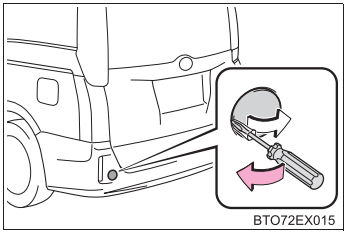

BTO72EX001

■リヤ側フックの取り付けについて

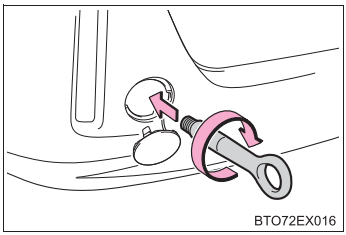
▶G's を除く

1 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

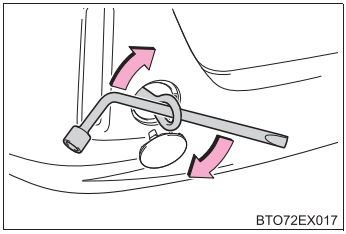
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72EX015

2 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める


BTO72EX016

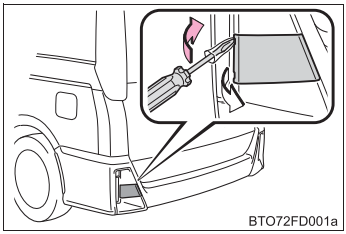
3 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



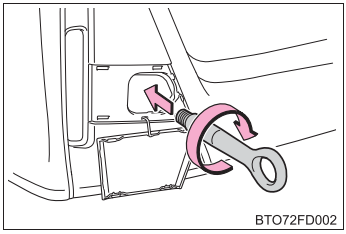
▶ G's

1 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

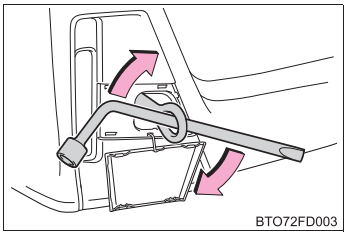
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



3 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



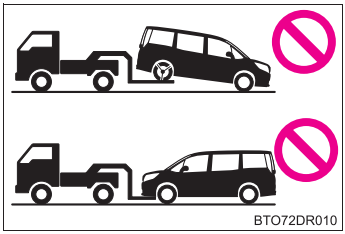
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

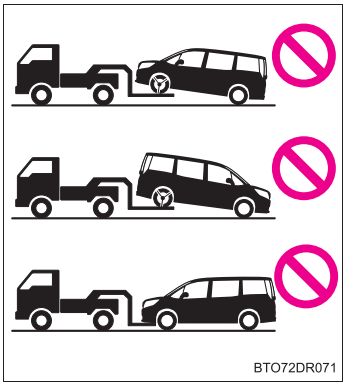
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

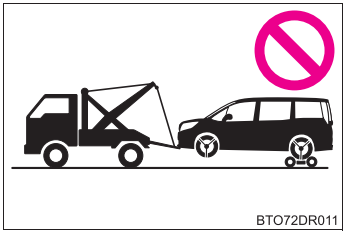
- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”★または OFF★にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●輸送用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※1） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。**
	油圧警告灯（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。**
	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★** 警告灯が点滅した場合（ブザーあり）： プリクラッシュセーフティシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点滅した場合（ブザーなし）： 次の原因などによりプリクラッシュセーフティシステムが一時停止している可能性があります。 ・前方センサー周辺のフロントウインドウガラスに汚れ（曇り、結露、凍結などを含む）や付着物がある **→汚れや付着物を取り除いてください。（→ P. 185）** ・前方センサー温度が作動範囲外 **→センサーの周辺温度が下がるまでしばらくお待ちください。** 警告灯が点灯した場合： VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムまたはプリクラッシュセーフティシステム、もしくは両方が OFF になっています。 **→ VSC システムとプリクラッシュセーフティシステムを ON にすると、プリクラッシュセーフティシステムが利用可能になります。（→ P. 190、222）**
	エンジン警告灯 ・エンジンの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 （→ P. 221） **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ヘッドランプオートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯★** Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 212） **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	半ドア警告灯（警告ブザー※2） いずれかのドアが確実に閉まっていない **→全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 7.2L 以下になった **→燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯 **（警告ブザー※3）** 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P. 321

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 ブレーキ警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま（→ P. 328）、またはブレーキ液が不足しているときに車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※2 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 326

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

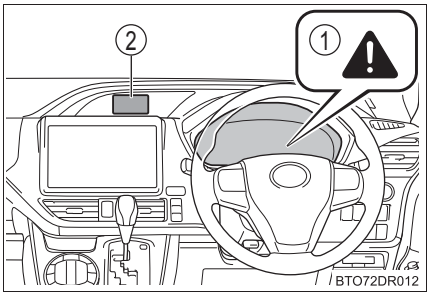
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

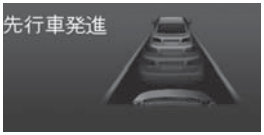
② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキ システムチェック	**ブレーキ液の不足** **ブレーキ系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
エンジン油圧不足 安全な場所に停車して 取扱書を 確認してください	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 車速が 5km/h をこえたときには警告ブザーが鳴ります。 **→ただちに安全な停車し、トヨタ販売店に連絡してください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	衝突の可能性が高い **プリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティシステム）★** 警告ブザーが鳴ります。 **→周囲の安全を確認して、必要に応じて回避行動をとってください。**
タイプ A タイプ B 	**（LDA[レーンディパーチャーアラート] ★制御中）** **車線逸脱警報** 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が点滅します。 警告ブザーが連続して鳴ります。 **→周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす。**
タイプ A タイプ B 	**先行車発進告知★** 警告ブザーが鳴ります。 **→周囲の安全を確認してから車両を発進させる。**

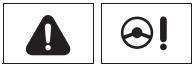
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
プリクラッシュセーフティ故障 販売店で 点検してください OFF （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
LDA故障 販売店で 点検してください	**LDA （レーンディパーチャーアラート）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
LDA 約50km/h以下で 使用できません	**車速が約 50km/h 以下のため、LDA ★が使用できない** **→ 50km/h 以上の車速で走行する**
LDA 現在の車速では使用できません	**車速が LDA ★の作動可能範囲をこえたため、使用できない** **→車速を落として走行する**
エンジンが停止 Pレンジに 入れてください （点滅）	**エンジン停止中の警告（停車中）** ・シフトレバーが P・N 以外でエンジンが停止したとき（アイドリングストップ作動時を除く）、または、エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、エンジンが停止中にシフトレバーを P・N 以外にしたとき ・警告ブザーが鳴ります。 **→ シフトレバーを P にする**
エンジンが停止 安全な場所に 停車してください （点滅）	**エンジン停止中の警告（走行中）** ・走行中にエンジンが突然停止したとき、または、エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、エンジン停止中に、シフトレバーが P・N 以外で車両が動いたとき ・警告ブザーが鳴ります。 **→ 路肩など安全な場所に停車する**

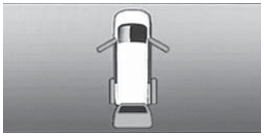
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
4WDシステムチェック	**アクティブトルクコントロール 4WD システム★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ATオイル高温 取扱書を 確認してください	**オートマチックトランスミッションフルードの過熱** 警告ブザーが鳴ります。 **→ただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをPにして、エンジンをかけたまま温度が下がるまで待つ** **しばらくして表示が消えたら、走行可能になります。表示が消えないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。**
バッテリー充電中のため アイドリングストップできません 運転席シートベルトが 非装着のため アイドリングストップできません ボンネットが開いているため アイドリングストップできません ブレーキシステム優先のため アイドリングストップできません ブレーキをもう少し 踏み込んでください エアコン優先中のため アイドリングストップできません	**アイドリングストップ★が作動できないとき** **→ P. 211**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキシステム優先のため エンジンを再始動しました エアコン優先のため エンジンを再始動しました バッテリー充電のため エンジンを再始動しました ハンドルを操作したため エンジンを再始動しました 運転席シートベルトが外れたため エンジンを再始動しました	**アイドリングストップ★が中断されたとき** → P. 211
アイドリングストップ故障 販売店で点検してください	Toyota Stop & Start System（SMART STOP）★の故障 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
EPS故障 販売店で 点検してください 故障のため ハンドルが重くなります 販売店で 点検してください 電源異常のため ハンドルが重くなります 販売店で 点検してください 	**パワーステアリングシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
エンジン停止 ハンドルが 重くなります 	**走行中にエンジンが停止した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 通常より力を入れてハンドルを操作する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキオーバーライド システム故障 販売店で 点検してください または ブレーキオーバーライド システム故障 販売店で 点検してください	**ブレーキオーバーライドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ヘッドランプ システム故障 販売店で 点検してください	**ヘッドランプレベリングシステム★の異常** **オートマチックハイビーム★の異常** **LED ヘッドランプ★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	**ドアが確実に閉まっていない** 開いているドアが表示されます。 全ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が5km/hをこえると が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 **→ 開いているドアを閉める**
窓が開いています （点滅）	**窓が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→窓を閉める**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ムーンルーフが 開いています （点滅）	**リヤムーンルーフ★が確実に閉まっていない状態でエンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→リヤムーンルーフを閉める**
2WD走行に 切りかわります 高負荷走行を 控えてください （点滅）	**アクティブトルクコントロール 4WD システム★過熱** 警告ブザーが鳴ります。 **→しばらくのあいだ4WDシステムに負荷がかかる走行を控えて走行してください。表示が消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **エンジンは切らないでください。**
4WDシステム高温 2WD走行に 切りかわりました （点滅）	**アクティブトルクコントロール 4WD システム★過熱のため、システムが一時解除し、前輪駆動走行に切りかわった** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 4WD システムに負荷がかかる走行を控えて走行してください。しばらくして表示が消えたら、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **エンジンは切らないでください。**
クルーズ コントロール故障 販売店で 点検してください	**クルーズコントロールシステム★の異常** ・警告ブザーが鳴ります。 **→ ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
アクセルを 戻してください （点滅） または アクセルを 戻してください （点滅）	**アクセルペダルを踏みながらシフトレバーを動かし、ドライブスタートコントロールが作動した** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 一度アクセルペダルから足を離す**
ドライブスタート コントロール故障 販売店で点検してください または ドライブスタート コントロール故障 販売店で 点検してください	**ドライブスタートコントロールの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
プリクラッシュセーフティ 現在使用できません OFF（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が現在機能していない** **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
パーキングブレーキを 解除してください （点滅）	**パーキングブレーキが解除されず、車速が 5km/h をこえたとき警告ブザーが鳴ります** 警告ブザーが鳴ります。 **→パーキングブレーキを解除する**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
アクセルとブレーキが両方踏まれています （点滅） または アクセルとブレーキが両方踏まれています （点滅）	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステム（→ P. 145）が作動した →アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離す
VSCがOFFのため プリクラッシュブレーキも停止します OFF OFF	VSC（ビークルスタビリティコントロール）が OFF になり、プリクラッシュブレーキ★の作動が停止した プリクラッシュブレーキの他に、プリクラッシュブレーキアシスト★も停止します。 → VSC を ON にする（→ P. 222）
AHB起動のためにはハイビーム操作が必要です	ヘッドランプがロービームの状態でオートマチックハイビームシステムスイッチ★を押した →ヘッドランプをハイビームに切りかえてから、オートマチックハイビームを押す
給油してください	燃料の残量が約 7.2L 以下になった → 燃料を補給する
電装品作動制限中	電力消費が大きいため、エアコンなどの作動を一時制限した →不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください （点滅）	**前方センサーの作動条件（温度など）が満たされていない** 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★ ・LDA（レーンディパーチャーアラート）★ ・AHB（オートマチックハイビーム）★ ・先行車発進告知機能★ **→前方センサーの作動条件（温度など）が満たされると、システムは使用可能になります。いったんシステムを OFF にして、しばらく待ってから、再度システムを ON にしてください。**
前方カメラ 一時使用不可 カメラの汚れや曇りを 取ってください （点滅）	**前方センサーの前のフロントウインドウガラスに汚れ・雨滴・曇り・氷雪などが付着している** 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★ ・LDA（レーンディパーチャーアラート）★ ・AHB（オートマチックハイビーム）★ ・先行車発進告知機能★ **→いったんシステム を OFF にして、汚れ・雨滴・曇り・氷雪などを取り除いてから、再度システム を ON にしてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なるばあいがあります。

■警告ブザーについて

→ P. 320

注意

■「電装品作動制限中」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに処置してください。（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした **→電子キーを携帯してエンジンを始動する**
1回	3回	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （点滅）	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した **→電子キーを車内にもどす**
			シフトレバーがPの状態でエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→エンジンスイッチを OFF にする、または電子キーを車内にもどす**
1回	連続音	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください 電源を OFFしてください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがPの状態でエンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした **→エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
9回	なし	キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた **→車室内に電子キーがあるか確認する**
1回	なし	スマートエントリー＆ スタートシステム故障 取扱書を確認 （点滅）	スマートエントリー＆スタートシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください**
連続音	なし	駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた **→シフトレバーを P にする**
連続音	連続音	駐車時はPレンジに 入れてください キーが見つかりません キーの所在を 確認してください （交互に表示） （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→シフトレバーを P にする** **→電子キーを車内に入れる**
なし	連続音	車室内に キーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	連続音	車室内に キーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	なし	ブレーキを踏みながら キーで エンジンスイッチに 触れてください （点滅）	・メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・エンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた **→ブレーキを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる**
なし	なし	バッテリ保護のため 自動で電源を OFFしました	自動電源OFF機能が作動した **→次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持しバッテリーを充電する**
1回	なし	キーの電池残量が 少なくなっています 電池を 交換してください	電子キーの電池残量が少ない **→新しい電池と交換する** **（→ P. 284）**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	なし	始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください または 始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください	電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法（→ P.363）でエンジンスイッチに電子キーをふれた **→ブザーが鳴ってからブレーキペダルを踏んでエンジンスイッチを押す**
なし	なし	始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください または 始動時は ブレーキを踏みながら エンジンスイッチを 押してください	・エンジンスイッチが OFF の状態でドアロックを解除し、運転席のドアを開閉した ・エンジンを始動せずにエンジンスイッチをアクセサリーモードにした ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときに、シフトレバーを P または N 以外から P または N にした **→ブレーキを踏んでエンジンスイッチを押す**
1回	なし	ハンドルを 左右に回しながら エンジンスイッチを 押してください （点滅）	エンジンスイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった **→ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す**
なし	なし	駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーが P または N 以外の状態でエンジンスイッチを OFF にした **→シフトレバーを P にする**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
なし	なし	電源を OFFしてください （点滅）	シフトレバーがP以外でエンジンスイッチを OFF にしたあとシフトレバーを P にした **→エンジンスイッチを押して OFF にする**
断続音	なし	エンジンスイッチを 押し続けると エンジン非常停止 （点滅）	走行中にエンジンスイッチを押した **→エンジンを緊急停止させるとき以外は、すみやかにエンジンスイッチから手を離す**
連続音	なし	再始動時は Nレンジにして エンジンスイッチを 押してください （点滅）	・走行中にエンジンを緊急停止させ、エンジンスイッチをアクセサリーモードにしたとき ・上記の状態から、エンジンスイッチを押してイグニッション ON モードにしたが、エンジンが再始動していない状態で、車両が動いているとき **→エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押す**

知識

■警告メッセージについて

→ P. 331

■警告ブザーについて

→ P. 320

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 276 を参照してください）

警告

■タイヤがパンクしたときは

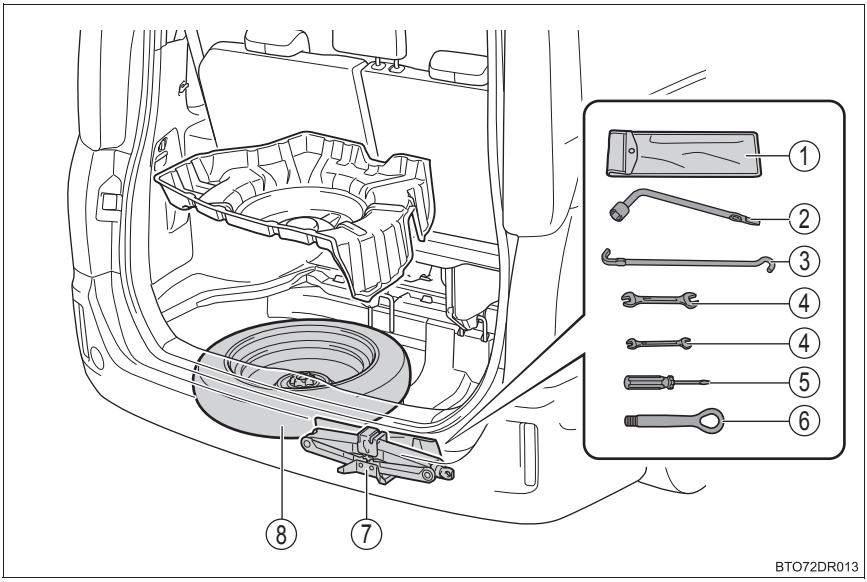
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 305）
- パワースライドドアメインスイッチ★を OFF にする（→ P. 92）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

工具とジャッキの位置



① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ スパナ★
⑤ ドライバー★
⑥ けん引フック
⑦ ジャッキ
⑧ 応急用タイヤ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

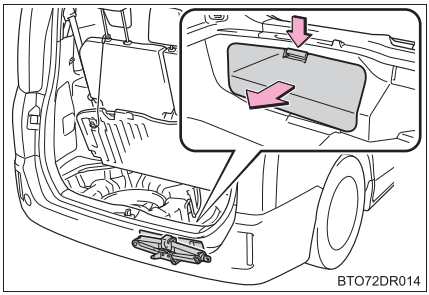
■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

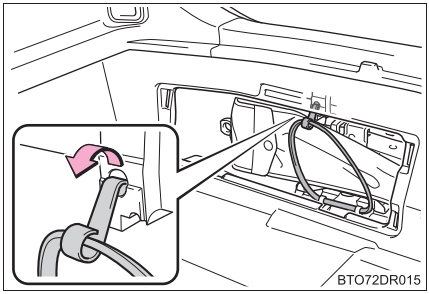
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 カバーをはずす



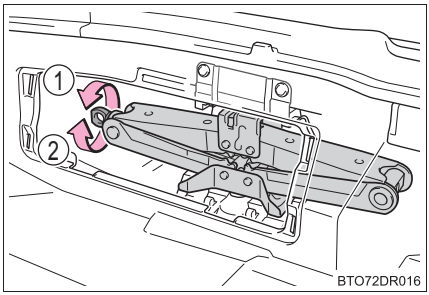
2 固定バンドをはずし、工具袋を取り出す



3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ



応急用タイヤの取り出し方

1 助手席側のサードシートを格納する（→ P. 123）

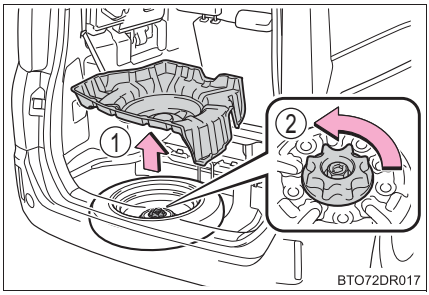
2 デッキボードを取りはずす

3 応急用タイヤを取りはずす

① タイヤカバーを取りはずす

② 留め具を取りはずす

応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）



警告

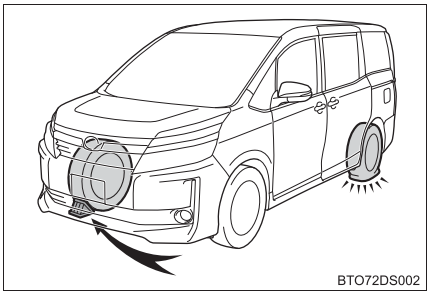
■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

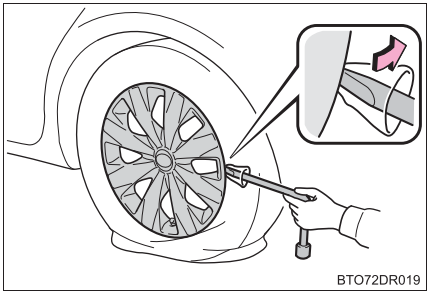


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

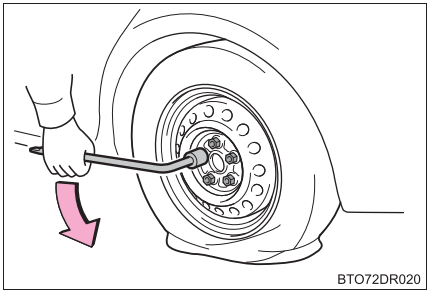
2 ホイールキャップをはずす*

*スチールホイールのみ

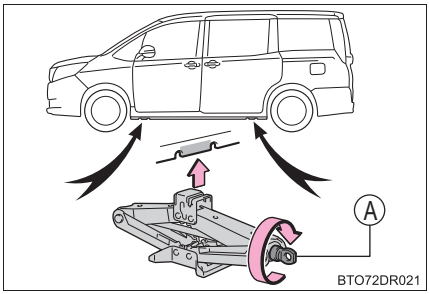
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO72DR019

3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

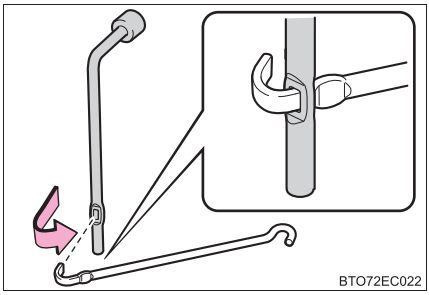

BTO72DR020

4 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

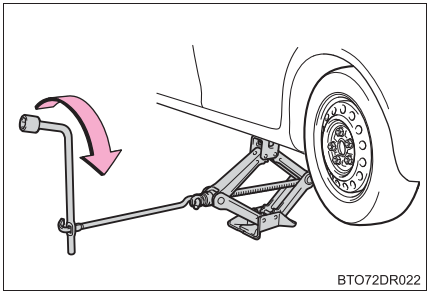


BTO72DR021

5 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを組み付ける

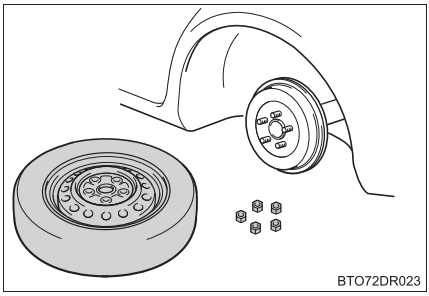

BTO72EC022

6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる


BTO72DR022

7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。


BTO72DR023

警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 92）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。（パワースライドドア装着車）

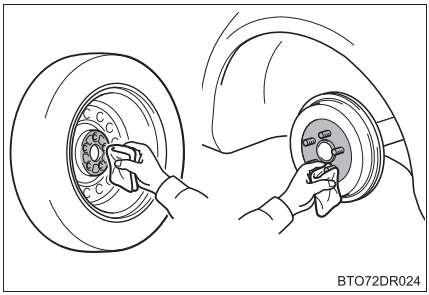
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→ P. 279）

タイヤの取り付け

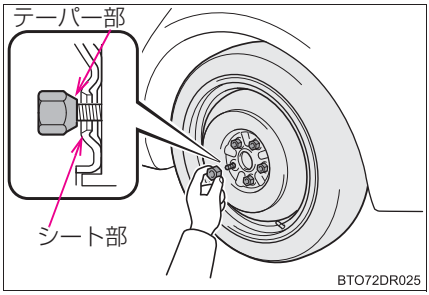
1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


BTO72DR024

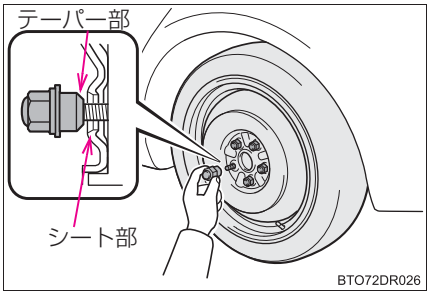
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



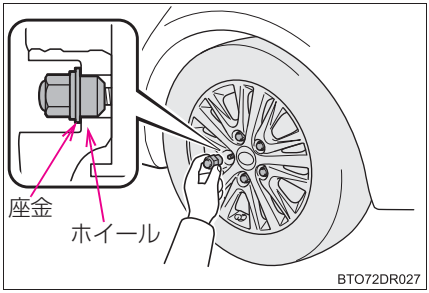
BTO72DR025

アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



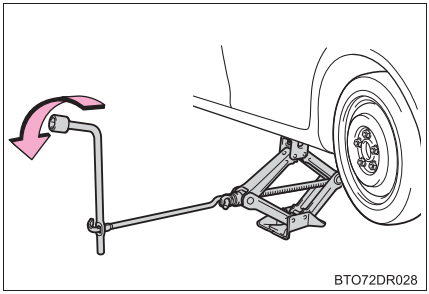
BTO72DR026

アルミホイールからアルミホイールにかえるとき：
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



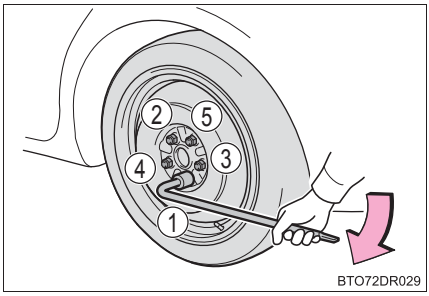
BTO72DR027

3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

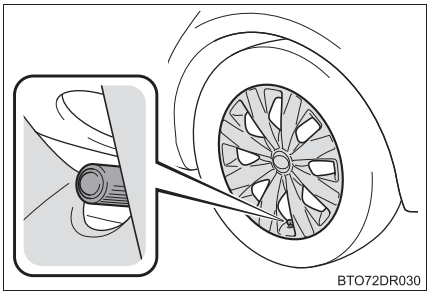
締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 ホイールキャップを取り付ける*

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてフルホイールキャップを確実に取り付ける。

*スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）



6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

パンクしたタイヤは、応急用タイヤ格納位置に格納できません。ラゲージルームに格納してください。

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 379）

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1. 後輪を応急用タイヤに交換する
2. パンクした前輪をはずした後輪に交換する
3. タイヤチェーンを前輪に装着する

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときはご注意ください。

警告

■応急用タイヤを使用するとき

- 必ず指定サイズを使用してください（→ P. 379）
- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・EPS
・クルーズコントロール★
・オートマチックハイビーム★
・LDA（レーンディパーチャーアラート）★
・PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★
・TRC
・S-VSC
・インテリジェントパーキングアシスト★
・ナビゲーションシステム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・アクティブトルクコントロール 4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

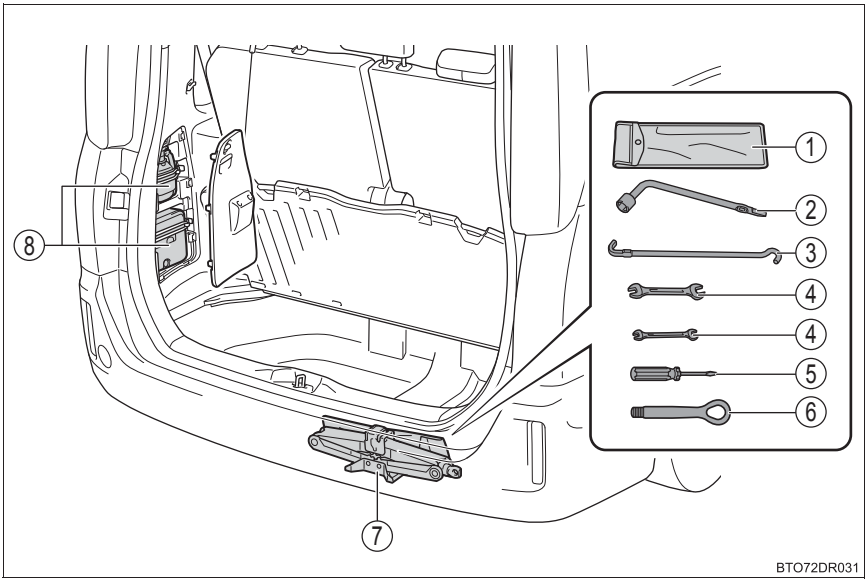
■**タイヤがパンクしたときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 305）

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

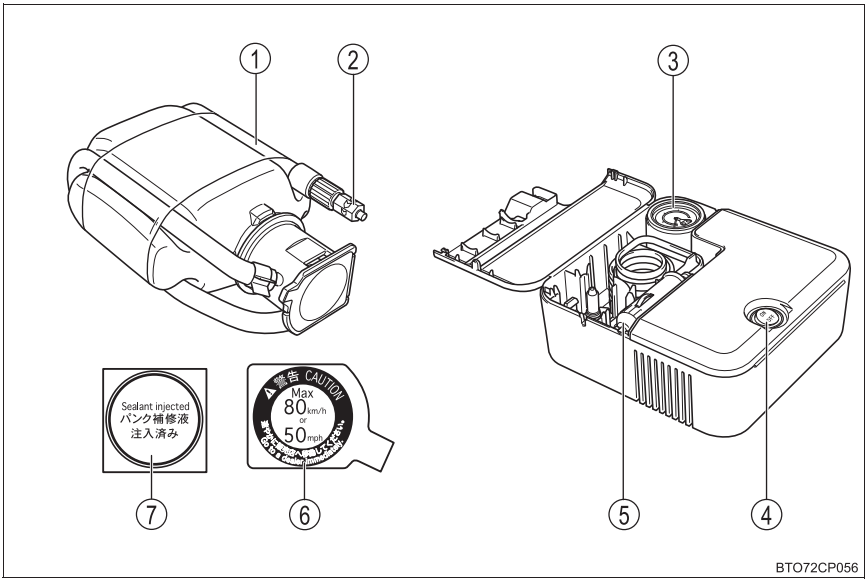


① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ スパナ★
⑤ ドライバー★
⑥ けん引フック
⑦ ジャッキ※
⑧ タイヤパンク応急修理キット

※ジャッキの使い方（→ P. 342）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

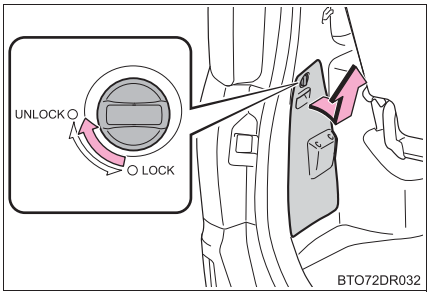
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



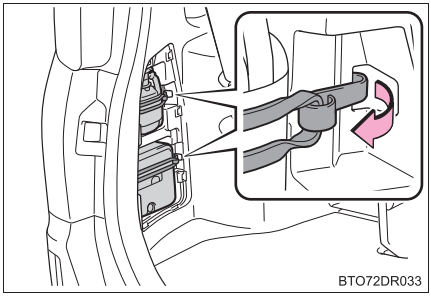
① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ 速度制限ラベル
⑦ パンク補修液注入済ラベル

応急修理キットの取り出し方

1 ノブを“UNLOCK”の位置にしてカバーを取りはずす



2 固定バンドをはずし、応急修理キットを取り出す



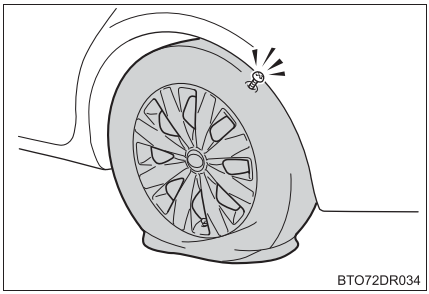
応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

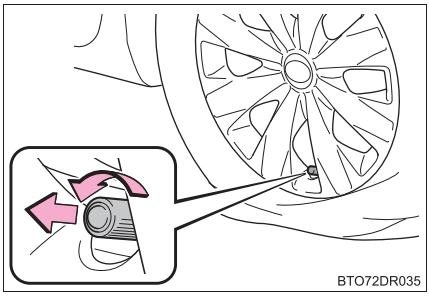
・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



応急修理するとき

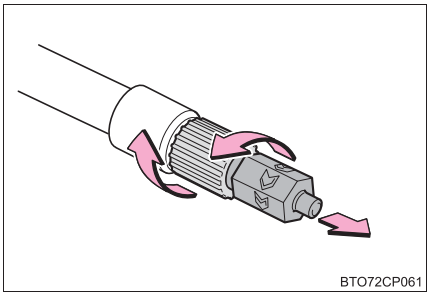
1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



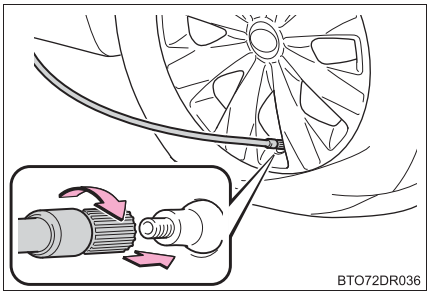
3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済みラベルは指定の位置へ貼り付けます。（9へ）空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

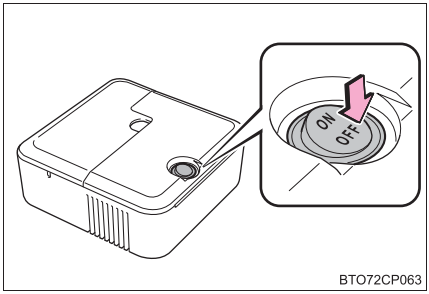


4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

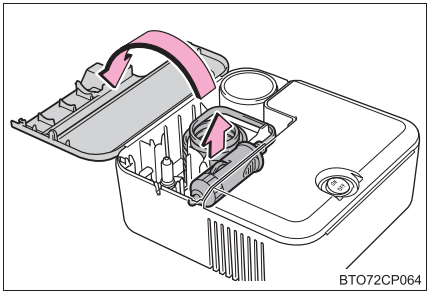
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。



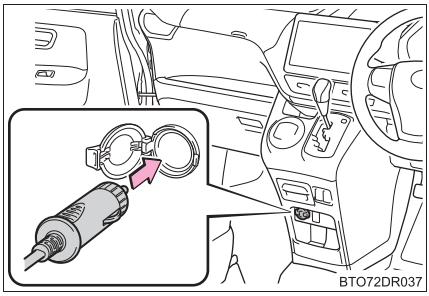
5 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する



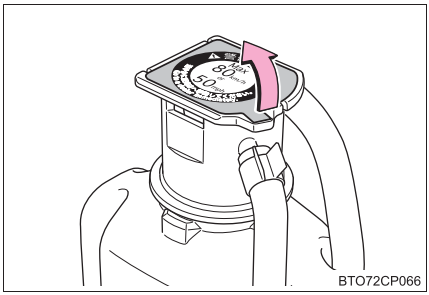
6 コンプレッサーの電源プラグをはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 258）

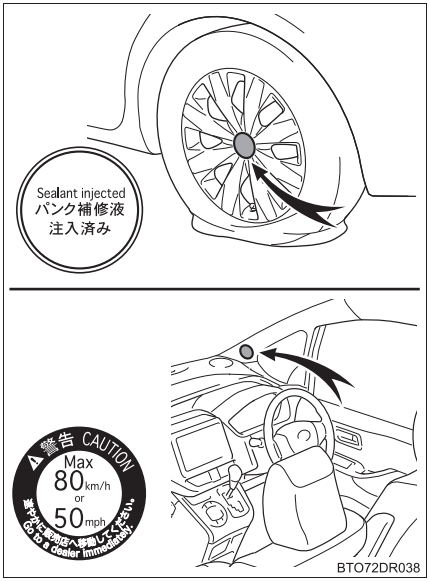


8 速度制限ラベルをはがす



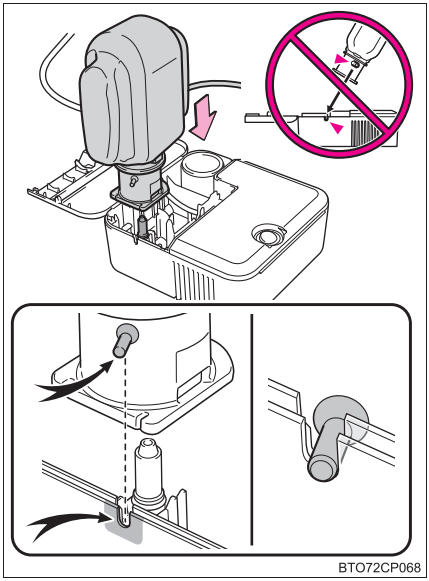
9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



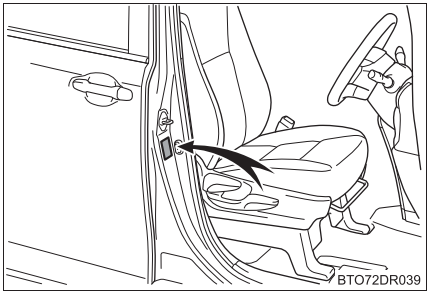
10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



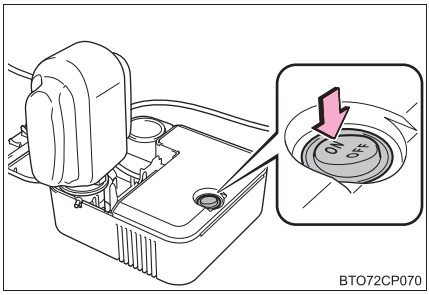
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 277）



12 エンジンを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① スイッチ“ON”直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

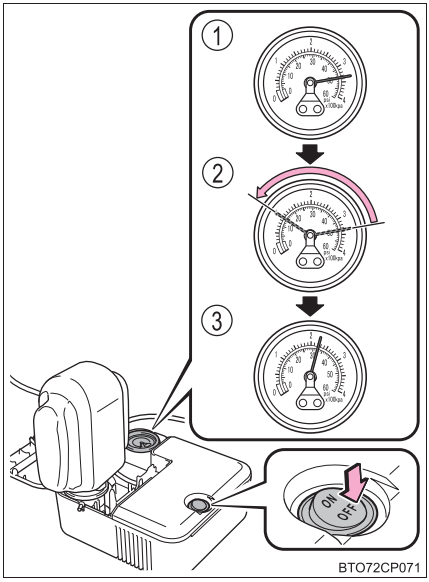
② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを“OFF”にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 358）



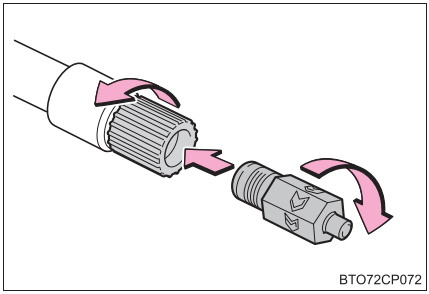
15 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

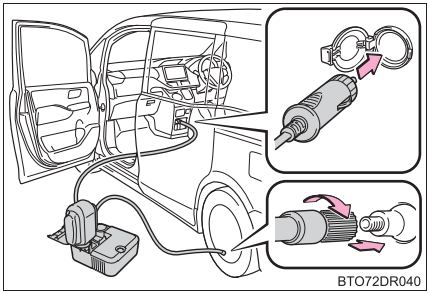
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。


BTO72CP072

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

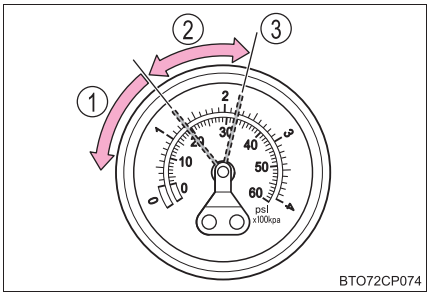

BTO72DR040

21 コンプレッサーのスイッチを約5秒間“ON”にし、“OFF”にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 379）の場合：23 へ

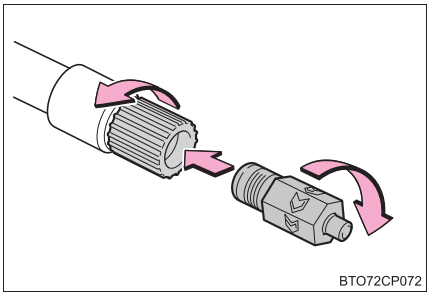


BTO72CP074

22 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－ 30 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

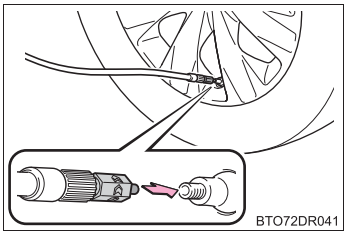
●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa　未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 154, 157）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 154, 157）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。
  （→ P. 59）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 365）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 362）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 365）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジン スイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 109）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠とキー連動操作

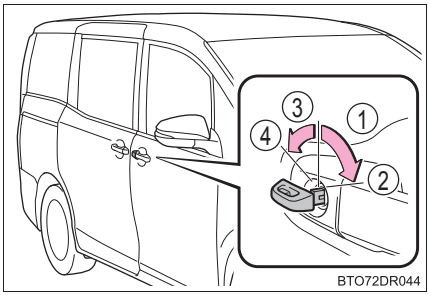
メカニカルキー（→ P. 82）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※



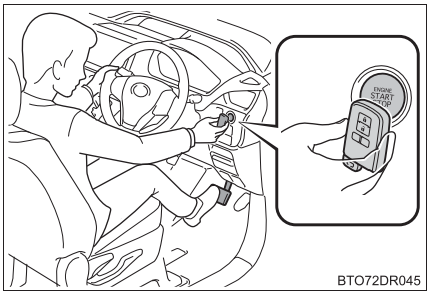
※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 382）

エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルをしっかり踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する。

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 284）

■モードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 158）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P. 382）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P. 108）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バッテリーがあがったときは

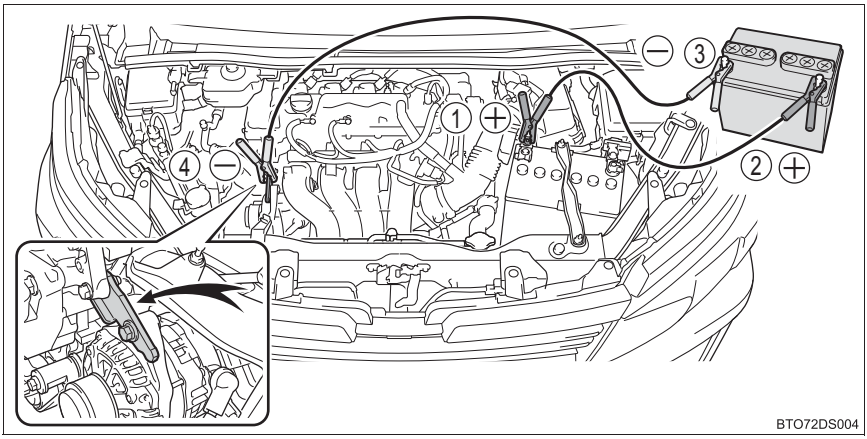
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける

→ P. 271

2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”★、またはイグニッション ON モード★にしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- ●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- ●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- ●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- ●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- ●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- ●お子さまをバッテリーに近付けない

■車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが加熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

高水温警告灯（→ P. 317）が点滅または点灯した、エンジン出力が低下した（スピードが出ないなど）、またはエンジンルームから蒸気が出ているときは、オーバーヒートの可能性があります。
このような場合、次の手順に従って対処してください。

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

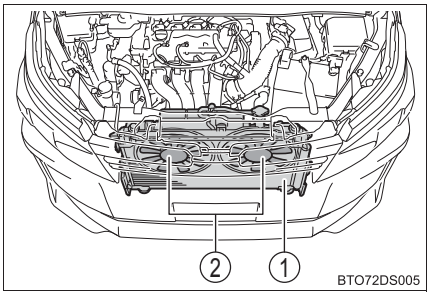
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

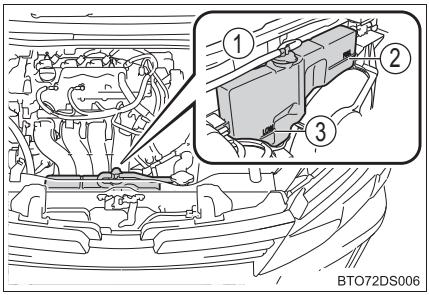


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

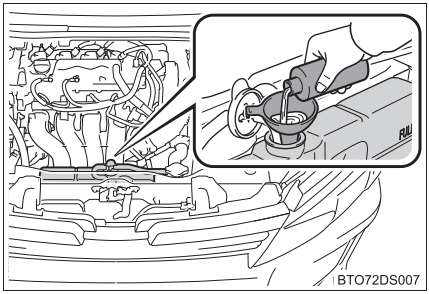
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 377）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

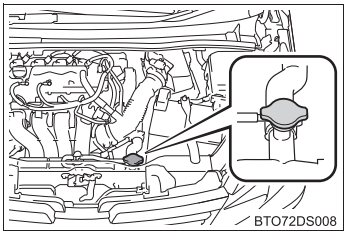
7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

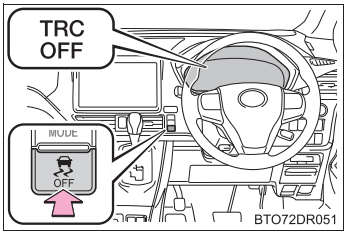
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....374
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....382
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....387

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	55

※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ キヤッスル モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	3.9	4.2

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

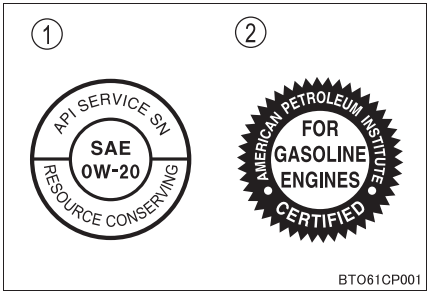
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

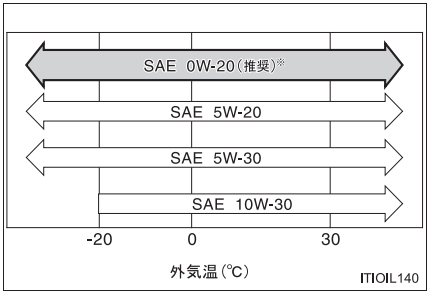
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	リヤエアコン付き車	7.9
	リヤエアコン無し車	6.1

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　FE	7.1

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE75W-85）	0.8

リヤディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT（API GL-5 SAE75W-85）	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	99 以上

※ エンジン回転時に 490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	195/65R15 91S	15 × 6J	240（2.4）	
	205/60R16 92H	16 × 6J	240（2.4）	
	215/45R18 89W	18 × 7J	240（2.4）	
応急用タイヤ★	T135/80D16 101M	16 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※1

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ロービーム（バルブタイプ：H11★） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	55 60
	フロントフォグランプ★（バルブタイプ：H16）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ）※2	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ）※2	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	インテリアランプ／パーソナルランプ	5
	インテリアランプ（中央／うしろ）	8
	バニティランプ★	8

※1 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

※2 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
ヴォクシー	ZRR80G	3ZR-FAE （2.0L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	ZRR80W		
	ZRR85G		4WD（4 輪駆動）
	ZRR85W		

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム★・ステアリングスイッチの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 「設定・編集」ボタンを押す

2 ＞ を押し、「車両」画面を表示する

3 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

4 設定を変更したいカテゴリーを選択する

BTO82EA001

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）、「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、⮌ を選択します。

■ ステアリングスイッチで設定するには

→ P. 69

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステム★の画面操作で設定変更可能

② ステアリングスイッチで設定変更可能

③ トヨタ販売店で設定変更可能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 69）

機能の内容※1		初期設定	変更後	①	②	③
言語		日本語	English	—	○	—
単位		km/L	L/100km	—	○	—
ECO 表示		あり	なし	—	○	—
割込表示★	Smart Stopアドバイス割込み表示	あり	なし	—	○	—
	Smart Stop割込み表示	あり	なし	—	○	—
	着信割込み表示	あり	なし	—	○	—
時計表示※2		アナログ調①	アナログ調②	—	○	—
			アナログ調③			
時計表示切替（12H ／ 24H）※2		12 時間	24 時間	—	○	—
カラー※2		青	緑	—	○	—
			黄			
			赤			
照度調整		10	1 ～ 10	—	○	—
Smart Stop★		Normal（短）	Long（長）	—	○	—
先行車発進★	告知設定	あり	なし	—	○	—
	告知タイミング	普通	早い	—	○	—
			遅い			
LDA（レーンディパーチャーアラート）警報感度★		高い	普通	—	○	—

※1 機能についての説明は P. 69 を参照してください

※2 カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム★（→ P. 107）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー＆スタートシステムの作動	あり	なし	○	―	○
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	レベル 0 ～ 7	○	―	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	―	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	―	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	―	―	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 85）（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	―	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○
		120 秒			

■ ドアミラー（→ P. 131）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	―	―	○
		エンジンスイッチと連動			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースライドドア★（→ P. 90）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
パワースライドドアスイッチの操作	0.3 秒	0.5 秒	―	―	○
		0.8 秒			
		OFF			

■ パワーウインドウ（→ P. 135）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
キー連動開閉機能	なし	あり	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	―	○
パワーウインドウ開警告表示	あり	なし	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）★	あり	なし	―	―	○

■ エアコン（→ P. 232）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	―	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 169）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度	標準	レベル -2 ～ +2	○	―	○
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	○

■ リヤワイパー（→ P. 177）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
リバース連動機能	あり	なし	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション★（→ P. 246）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
消灯までの時間	15 秒	OFF	○	―	○
		7.5 秒			
		30 秒			
解錠後の作動	あり	なし	―	―	○
エンジンスイッチ“LOCK”後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）	あり	なし	―	―	○
エンジンスイッチ OFF 後の作動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	あり	なし	―	―	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	―	―	○
室内照明の点灯制御	あり	なし	―	―	○

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

■ナビゲーション画面★でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面★でカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア★（→ P. 92）	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P. 95
インテリジェントパーキングアシスト★		別冊「ナビゲーションシステム取扱書」

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....390
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....394
アルファベット順さくいん.....396
五十音順さくいん.....398

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 82）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 84）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 284）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときはエンジンスイッチを OFF にしてください（→ P. 158）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 88, 109）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
  （→ P. 93）

スライドドアが全開にならない

● 中間ストッパーがかかっていませんか？

給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 93）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

● シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 163）

● ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 155）

● バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 365）

エンジンがかからない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

● ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？ （→ P. 157）

● シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 163）

● キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 107）

● ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 160）

● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 363）

● バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 365）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジンスイッチの位置が“ON”になっていますか？

エンジンスイッチの位置が“ON”でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 165）

● スマートエントリー＆スタートシステム装着車
エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？

エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 165）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます（→ P. 154）

● スマートエントリー＆スタートシステム装着車
盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 160）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 135）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

● 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 159）

警告音が鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 394）をご確認ください。

警告灯が表示されたとき

● 警告灯が表示されたときは、P. 317 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 337）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 348）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 371）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 332
	エンジンスイッチにキーが挿してある★	P. 155
	シフトポジションが P 以外になっている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 332
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 171
エンジンを停止したとき	電子キー★の電池残量が少なくなっている	P. 332
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 108
	電子キー★を車内に置き忘れている	P. 332

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 326
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 317
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 319
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 149
前方の車両と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 187
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 200
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 209

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD
（4 ホイールドライブ）.....221
A/C
（エアコン）.....232, 239
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....220
ACC
（アクセサリー）.....154
ECO
（エコノミー / エコロジー）.....73
EDR
（イベントデータレコーダー）.....8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....220
ESPO
（ECO（エコ）＋ PASSPORT（パスポート））.....76
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....381
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....376
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....42, 51
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....200

PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）.....187
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....33
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）.....220
TRC
（トラクションコントロール）.....220
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....220

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 365
アームレスト 259
アイドリングストップ 211
　アイドリングストップ時間 71
　SMART STOP 211
　Stop & Start キャンセル表示灯 62
　Stop & Start システム 211
　Stop & Start 表示灯 63
アウターミラー（ドアミラー）... 131
　操作 131
アクセサリーソケット 258
アクセサリーモード 158
アシストグリップ 261
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 220
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）..... 107

い

イージークローザー 94
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 154, 157
位置交換（タイヤローテーション）..... 276
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 59
イルミネーテッドエントリーシステム 248
インジケーター（表示灯）..... 63
インテリアランプ（室内灯）..... 246
　操作 247
　ワット数 380
インナーミラー 130

う

ウインカー（方向指示灯）..... 167
　電球（バルブ）の交換 297, 298, 301
　方向指示レバー 167
　ワット数 380
ウインドウ 135
　ウォッシャー 174, 177
　パワーウインドウ 135
　リヤウインドウデフォッガー 234
ウインドウロックスイッチ 135
ウインドシールドデアイサー 234
ウォーニングランプ（警告灯）..... 62, 317
ウォッシャー 174, 177
　液の補充 274
　スイッチ 174, 177
　タンク容量 378
　冬の前の準備・点検 227
動けなくなったときは（スタック）..... 371
運転 144
　運転を補助する装置 220
　寒冷時の運転 227
　正しい運転姿勢 24
　手順 144

え

エアコン 232, 239
フロントエアコン 232
フィルターの交換 282
リヤエアコン 239
リヤクーラー 243
エアバッグ 33
SRS エアバッグ警告灯..... 318
作動条件..... 38
配置 33
エコドライブインジケーター 73
レーンディパーチャー
アラート（LDA）..... 200
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 220
機能 220
パワーステアリング
警告灯..... 63, 318
パワーステアリング警告
ブザー..... 318
エンジン
エンジンイモビライザー
システム..... 59
エンジンがかからない
（エンジンが始動
できない）..... 361
エンジン警告灯 62, 318
エンジンスイッチ 154, 157
エンジンの始動方法 154, 157
オーバーヒート 368
ボンネット..... 271
エンジンオイル..... 375
冬の前の準備・点検 227
メンテナンスデータ 375
油圧警告灯..... 62, 317
油圧警告ブザー 317
エンジンスイッチ 154, 157
イグニッション.....154, 157
エンジンスイッチ.....154, 157
エンジンフード（ボンネット）....271
開け方 271
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている.....368

お

オイル（エンジンオイル）.....375
応急用タイヤ.....337
空気圧 379
交換方法 337
オートエアコン 232, 239
オートマチック
トランスミッション.....163
操作.....163
7 速スポーツシーケンシャル
シフトマチックモード 164
オートマチックハイビーム.....205
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）.....171
オーバーヒート.....368
オープナー
給油口 179
ボンネット 271
お子さまを乗せるとき.....41
ウインドウロックスイッチ 135
お子さまの安全のために 41
子供専用シート.....42
シートベルトの着用.....29
チャイルドシートの取り付け ...51
チャイルドプロテクター 93
オドメーター.....66
機能.....66
表示切りかえボタン.....67

か

カーテンシールドエアバッグ 33
カーペット 268
洗浄 268
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示 64, 74
外装の電球（バルブ）..... 290
交換要領 290
ワット数 380
カスタマイズ機能 382
型式 381
カップホルダー 250
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 234
ガレージジャッキ 273
冠水路走行 152
寒冷時の運転 227

き

キー 80
エンジンが始動できない 361
キーナンバープレート 80
キーの構成 80
キーレスエントリー 85, 107
キーをなくした 82, 84
正常に働かない 363
解錠・施錠ができない 363
電子キー 81
電池が切れた 284, 363
メカニカルキー 82
ワイヤレスリモコン 85
キーレスエントリー 85, 107
スマートエントリー＆
スタートシステム 107
ワイヤレスドアロック 85
給油 179
給油のしかた 179
緊急時シートベルト固定機構 29
緊急時の対処
エンジンが始動できない 361
オーバーヒートした 368
キーの電池が切れた 284, 363
警告灯がついた 317
警告メッセージが
表示された 321
けん引 310
故障したときは 304
シフトレバーが
シフトできない 165
車両を緊急停止する 308
スタックした 371
電子キーが正常に働かない 363
発炎筒 306
バッテリーがあがった 365
パンクした 337, 348

く

空気圧（タイヤ）..... 379
メンテナンスデータ 379
区間距離計
（トリップメーター）..... 66
機能 66
表示切りかえボタン 67
曇り取り
フロントウインドウ
ガラス 234
ミラーヒーター 234
リヤウインドウ
デフォッガー 234
クラクション（ホーン）..... 128
クリアランスランプ（車幅灯）..... 169
スイッチ 169
電球（バルブ）の交換 301

クリップ
フロアマット.....22
クルーズコントロール.....217
グローブボックス.....250
クーラー
リヤクーラー.....243

け

警音器（ホーン）.....128
計器類（メーター）.....66
警告灯.....62
表示灯.....63
照度調整.....67
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....69
メーター.....66
警告灯.....62
ABS ＆ブレーキアシスト.....318
SRS エアバッグ.....318
エンジン.....318
エンジンオイル圧力.....317
オートレベリング.....319
高水温.....317
充電.....317
シートベルト非着用.....319
Stop & Start
キャンセル表示灯.....319
スリップ表示灯.....319
燃料残量.....319
パワーステアリング.....318
半ドア.....319
PCS.....318
プリテンショナー.....318
ブレーキ.....317
マスターウォーニング.....319
警告ブザー
高水温.....317
シートベルト非着用.....319
シフトダウン制限.....166
Stop & Start システム.....211
スマートエントリー＆
スタートシステム.....108, 332
パーキングブレーキ
未解除走行時.....317
パワーステアリング.....318
半ドア.....86, 108, 319
半ドア走行時.....326
ブレーキ.....317
油圧.....317, 321
ランプ消し忘れ.....171
リバース.....166
警告メッセージ.....321
化粧ミラー（バニティミラー）.....257
けん引.....310
けん引のしかた.....310
フック.....312

こ

交換
エアコンフィルター.....282
キーの電池.....284
タイヤ.....337
電球（バルブ）.....290
ヒューズ.....287
工具（ツール）.....338, 349
光軸調整ダイヤル.....170
航続可能距離.....70
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....298
ワット数.....380

子供専用シート.....42
選択方法.....42
取り付け方.....51
小物入れ.....253
コンビニフック
（買い物フック）.....260
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....169

さ

サイドエアバッグ.....33
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....301
方向指示レバー.....167
サイドミラー（ドアミラー）.....131
操作.....131
坂道発進補助機能.....212
サンバイザー.....257
サンシェード
スライドドア.....262
ムーンルーフ.....140
サードシート.....117

し

シート.....112, 113,117
子供専用シート.....42
シートアレンジ.....121
正しい運転姿勢.....24
調整.....112, 113, 117
手入れ.....268
サードシート.....117
セカンドシート.....113
フロントシート.....112
ヘッドレスト.....118
シートベルト.....26
お子さまの着用.....29
緊急時シートベルト固定機構...29
シートベルト非着用
警告灯.....63, 319
正しく着用するには.....26
着け方・はずし方.....26, 27, 28
手入れ.....268
妊娠中の方の着用.....31
シートベルトプリテンショナー.....29
機能.....29
プリテンショナー
警告灯.....63, 318
室内灯
（インテリアランプ）.....247
操作.....247
ワット数.....380
始動のしかた.....154, 157
シフトポジション.....163
シフトレバー.....163
シフトレンジの切りかえ.....163
シフトロックシステム
（解除ボタン）.....163
操作.....163
リバース警告ブザー.....166
シフトレバーがシフト
できないときは.....165
締め付けトルク（ホイール）.....345
ジャッキ
ガレージジャッキ.....273
車載ジャッキ.....338, 349
ジャッキハンドル.....338, 349
車幅灯
スイッチ.....169
電球（バルブ）の交換.....301
車両型式.....381
車両仕様（スペック）.....374
車両データの記録.....7
車両を緊急停止するには.....308
手動光軸調整ダイヤル.....170

ジュニアシート.....43
瞬間燃費.....70
助手席アッパーボックス.....253
助手席シートバックティッシュ
ポケット.....254
仕様（車両仕様）.....374

す

スイッチ
イグニッション.....154, 157
ウインドウロック.....135
ウインドシールド
デアイサー.....234
ウォッシャー.....174, 177
ECO MODE.....164
LDA.....200
LED イルミネーション
ビーム.....172
エンジンスイッチ.....154, 157
オートマチックハイビーム.....205
クルーズコントロール.....217
ステアリング.....262
Stop & Start.....211
ドアミラー.....131
ドアロック.....87
時計.....257
バックドア.....102
パワーウインドウ.....135
パワースライドドア.....91, 92
PCS OFF.....190
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....305
VSC OFF.....222
フォグランプ.....173
ホーン（警音器）.....128
メーター表示切り替え.....67, 70
ランプ.....169
リヤウインドウ
デフォッガー.....234
ルームランプ.....246
ワイパー.....174, 177
スタック.....371
ステアリングホイール
（ハンドル）.....128
位置調整.....128
スイッチ.....70、262
ステアリングロック.....155, 160
解除できないとき.....155, 160
警告灯.....318
警告メッセージ.....335
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換.....301
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....227
スピードメーター.....66
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧.....379
交換方法.....337
スペック（車両仕様）.....374
スマートエントリー&
スタートシステム.....107
アンテナの位置.....107
エンジンの始動.....157
カスタマイズ設定.....382
警告メッセージ.....332
警告ブザー.....108, 332
作動範囲.....107
正常に働かないとき.....363
節電機能.....108
電波がおよぼす影響
について.....111
ドアの解錠・
施錠.....85, 90, 102
SMART STOP.....211
アイドリングストップ時間.....71

キャンセルスイッチ 212
SMART STOP 211
Stop & Start
キャンセル表示灯 62
Stop & Start システム 211
Stop & Start 表示灯 63
スモールランプ（車幅灯）..... 169
スイッチ 169
電球（バルブ）の交換 301
スライドドア 90
スライドドア
イージークローザー 94
スマートエントリー&
スタートシステム 107
ドアガラス 135
半ドア警告灯 319
半ドア走行時警告ブザー 326
パワースライドドア 92
ロックレバー 90
ワイヤレスリモコン 91

せ

清掃 264, 268
アルミホイール 265
外装 264
シートベルト 268
内装 268
制動灯
電球（バルブ）の交換 301
積算距離計（オドメーター）..... 66
機能 66
表示切りかえボタン 67
セカンドシート 113
セキュリティインジケーター 59
センサー
前方センサー 183
ライトセンサー 171
洗車 264
前照灯（ヘッドランプ）..... 169
スイッチ 169
手動光軸調整ダイヤル 170
電球（バルブ）
の交換 292, 293, 301
ライトセンサー 171
ランプ消し忘れ警告ブザー 171
ランプ消し忘れ防止機能 171
ワット数 380
先行車発進告知機能 209

そ

速度計（スピードメーター）..... 66

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 167
電球（バルブ）
の交換 297, 298, 301
方向指示レバー 167
ワット数 380
タイヤ 276
応急用タイヤ 337
空気圧 280, 379
交換 337
締め付けトルク 345
点検 276
パンクしたときは 337, 348
ホイールサイズ 379
ローテーション
（位置交換）..... 276
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 371
タイヤチェーン 228

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 228
チャイルドシート..... 42
ISOFIX バーでの取り付け..... 53
シートベルトでの固定..... 52
選択方法..... 42
チャイルドプロテクター 93
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 168
操作 168
ブレーキ警告灯 317
未解除走行時
警告ブザー 317, 328
メンテナンスデータ 378

つ

ツインムーンルーフ..... 139
ツール（工具）..... 338, 349

て

停止表示板収納スペース 256
ディファレンシャル..... 378
手入れ 264, 268
アルミホイール 265
外装 264
シートベルト 268
内装 268
デッキフック 256
デッキボード 255
テールランプ（尾灯）..... 169
スイッチ..... 169
電球（バルブ）の交換..... 301
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 234
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 290
ワット数 380
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....374
電子キー.....80
作動範囲 107
正常に働かないとき 363
節電機能 108
電池が切れた 284, 363
電池交換 284
電池交換（キー）.....284

と

ドア 85, 90, 102
スマートエントリー&
スタートシステム 107
チャイルドプロテクター 93
ドアガラス 135
ドアロックスイッチ 87
半ドア警告灯 319
半ドア走行時警告ブザー 326
ロックレバー 87, 90
ワイヤレス
リモコン 85, 91
ドアミラー.....131
操作 131
盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム 59
時計 69, 257
トップテザーアンカー.....51
Toyota Safety Sense C.....182
Toyota Stop &
Start System.....211
アイドリングストップ時間 71
キャンセルスイッチ 212
SMART STOP.....211

Stop & Start
キャンセル表示灯 62
Stop & Start システム 211
Stop & Start 表示灯 63
トラクションコントロール
（TRC）..... 220
トランスミッション 163
操作 163
メンテナンスデータ 377
トリップインフォメーション 67
トリップメーター 66
機能 66
表示切りかえボタン 67

な

内装
収納装備 249
手入れ 268
「ナノイー」 236

に

ニーエアバッグ 33
荷物
積むときの注意 153

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした）..... 371

ね

燃費
瞬間燃費 70
平均燃費 70
燃費画面 70, 76
燃料 374
給油 179
種類 374
燃料残量警告灯 63, 319
燃料残量警告メッセージ 329
容量 374
燃料計 66

は

パーキングブレーキ 168
操作 168
ブレーキ警告灯 62, 317
未解除走行時
警告ブザー 317, 328
メンテナンスデータ 378
パーソナルランプ 247
操作 247
ワット数 380
排気ガス 58
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 169
オートマチックハイビーム 205
スイッチ 169
電球（バルブ）の交換 293
ワット数 380
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 301
ハザードランプ（非常点滅灯）..... 305
スイッチ 305
電球（バルブ）
の交換 297, 298, 301
ワット数 380
挟み込み防止機能
スライドドア 95
パワーウインドウ 136
発炎筒 306
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 298
ワット数 380
バックドア 102

スマートエントリー&
スタートシステム..... 102
バッテリーがあがった..... 365
バニティ（化粧用）ミラー..... 257
バルブ（電球）
交換要領（外装バルブ)..... 290
ワット数..... 380
パワーウインドウ..... 135
ウインドウロックスイッチ.... 135
閉めることができない
ときは..... 136
操作 135
挟み込み防止機能 136
巻き込み防止機能 136
パワーステアリング..... 220
機能 220
警告灯..... 63, 318
警告メッセージ 325
パワースライドドア..... 92
操作 92
挟み込み防止機能 95
パンクした
応急用タイヤ装着車 337
タイヤパンク応急修理キット
装着車..... 348
番号灯
（ライセンスプレートランプ)... 169
スイッチ..... 169
電球（バルブ）の交換..... 300
ワット数..... 380
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 128
位置調整..... 128
スイッチ..... 70, 262

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC)..... 220
ヒーター
フロントエアコン..... 232
リヤエアコン 239
非常点滅灯
（ハザードランプ)..... 305
スイッチ 305
電球（バルブ）
の交換 297, 298, 301
ワット数 380
尾灯（テールランプ）..... 169
スイッチ 169
電球（バルブ）の交換..... 301
ヒューズ..... 287
表示灯..... 63
日よけ（サンバイザー)..... 257
ヒルスタートアシスト
コントロール 220

ふ

ブースターケーブル
のつなぎ方 365
フォグランプ..... 173
スイッチ 173
電球（バルブ）の交換..... 294
ワット数 380
ブザー
高水温 317
シートベルト非着用..... 319
シフトダウン制限..... 166
Stop & Start
システム 211
スマートエントリー&
スタートシステム..... 108, 332

パーキングブレーキ
未解除走行時 317
パワーステアリング 318
半ドア 86, 108, 319
半ドア走行時 326
ブレーキ 317
窓開 326
油圧 317
ランプ消し忘れ 171
リバース 166
フック
買い物フック 260
けん引フック 312
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター（燃料計）..... 66
フューエルリッド（給油口）..... 179
冬の前の準備（寒冷時の運転）... 227
冬用タイヤ 227
プリクラッシュセーフティ
システム（PCS）
機能 187
PCS OFF スイッチ 190
PCS 警告灯 318
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル 221
警告ブザー 317
警告メッセージ 321
パーキングブレーキ 168
ブレーキ警告灯 317
メンテナンスデータ 378
ブレーキアシスト 220
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 63, 318
機能 220
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 149
ブレーキフルード 378
フロアマット 22
フロントシート 112
正しい運転姿勢 24
調整 112
手入れ 268
ヘッドレスト 118
パーソナルランプ 247
操作 247
ワット数 380
フロントフォグランプ 173
スイッチ 173
電球（バルブ）の交換 294
ワット数 380
フロント方向指示灯 167
電球（バルブ）の交換 297
方向指示レバー 167
ワット数 380

へ

平均燃費 70
ヘッドランプ 169
スイッチ 169
手動光軸調整ダイヤル 170
電球（バルブ）
の交換 292, 293, 301
ライトセンサー 171
ランプ消し忘れ警告ブザー 171
ランプ消し忘れ防止機能 171
ワット数 380
ヘッドランプオートレベリング
システム 171
警告灯 62, 319
ヘッドレスト 118
ベビーシート 43

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 337
メンテナンスデータ 379
方向指示灯 167
電球（バルブ）
の交換..... 297, 298, 301
方向指示レバー 167
ワット数..... 380
ホーン（警音器）..... 128
保証..... 9
ボトルホルダー..... 250
ボンネット 271
開け方..... 271

ま

マスターウォーニング 319
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 69
設定 71
警告メッセージ 321
ドライブインフォメーション ... 70

み

ミラー
インナーミラー 130
ドアミラー 131
バニティミラー 257

む

ムーンルーフ 139

め

メーター（計器類）..... 66
警告灯..... 62
表示灯..... 63
照度調整..... 67
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 69
メーター 66
メカニカルキー 82
メンテナンスデータ 374

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能..... 382
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 371
油脂類..... 374

よ

4WD 221

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 169
スイッチ 169
電球（バルブ）の交換..... 300
ワット数 380
ラゲージルーム内装備..... 255
デッキフック 256
デッキボード 255
ラジエーター
オーバーヒート..... 368
メンテナンスデータ 377
ランプ
インテリアランプ..... 247
室内灯 246
電球（バルブ）の交換..... 290
パーソナルランプ..... 247
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 305
フロントフォグランプ..... 173
ヘッドランプ（前照灯）..... 169

方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 167
ライトセンサー..... 171
ランプ消し忘れ警告ブザー.... 171
ランプ消し忘れ防止機能..... 171
ワット数..... 380
ランプ消し忘れ警告ブザー 171
ランプ消し忘れ防止機能 171

り

リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 234
リヤエアコン 239
リヤクーラー 243
リヤ方向指示灯..... 167
電球（バルブ）の交換..... 298
方向指示レバー 167
ワット数..... 380
リヤワイパー 177

る

ルームミラー
（インナーミラー）..... 130
ルームランプ（室内灯）..... 246
操作 247
ワット数..... 380

れ

レーンディパーチャー
アラート（LDA）.....200
冷却水.....377
水温警告灯 63, 317
水温表示灯 63
冬の前の準備 227
メンテナンスデータ 377
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート.....368
メンテナンスデータ 377
レバー
給油口 181
シフト 163
ハンドル位置調整レバー 128
方向指示 167
ボンネット解除.....271
ロック（レバー）.....87, 90

ろ

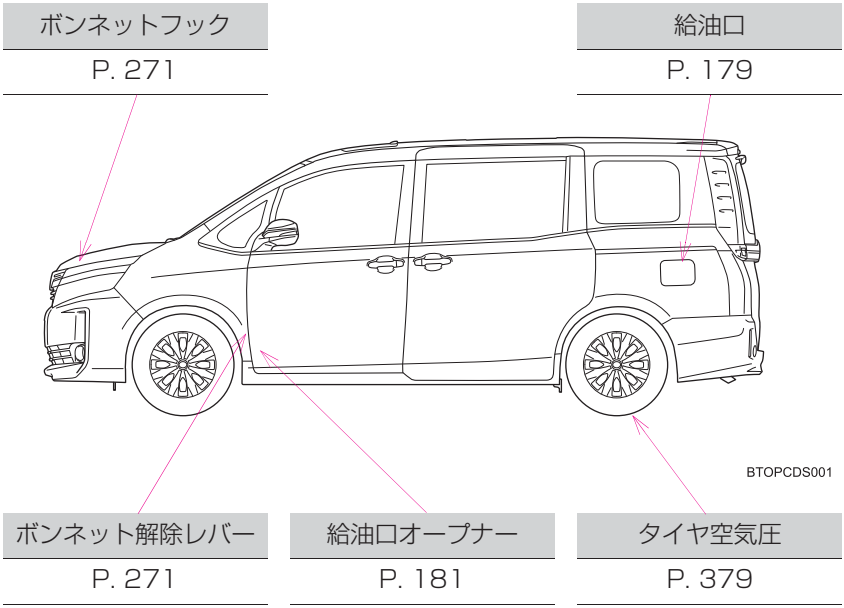
ロック
ウインドウロック.....135
シフトロック 164
スマートエントリー&
スタートシステム 107
チャイルドプロテクター 93
ドア 87, 90, 102
ワイヤレスリモコン 81

わ

ワイパー＆
ウォッシャー..... 174, 177
ワイパーブレード（寒冷地用）... 228
ワイヤレスリモコン..... 81
作動の合図..... 86, 93
操作 85, 91
電池の交換..... 284
半ドア警告ブザー 86
ワックス 264
ワット数 380

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	55L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン　P. 374 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 379
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：　3.9L オイルとフィルター交換時：　4.2L
エンジンオイルの種類	トヨタ キヤッスル モーターオイル ・SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・SN 10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ラ-11

M 28894
01999ー28894
IB-2016年 8 月30日
2016年 7 月 6 日 初版
2016年 9 月 6 日 2 版
ヴォクシー（ガソリン車）